

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月25日

【事業年度】 第49期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

【会社名】 東京センチュリー株式会社

【英訳名】 Tokyo Century Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅田 俊一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田練堀町3番地

【電話番号】 03(5209)7055(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部長 兼 経理部長 平崎 達也

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田練堀町3番地

【電話番号】 03(5209)7055(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部長 兼 経理部長 平崎 達也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
東京センチュリー株式会社 大宮支店
(埼玉県さいたま市大宮区錦町682番地2)
東京センチュリー株式会社 横浜支店
(神奈川県横浜市西区北幸二丁目8番4号)
東京センチュリー株式会社 名古屋営業部
(愛知県名古屋市中区栄二丁目1番1号)
東京センチュリー株式会社 大阪営業部
(大阪府大阪市中央区本町三丁目5番7号)
東京センチュリー株式会社 神戸支店
(兵庫県神戸市中央区三宮町二丁目5番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

| 回次 | 第45期 | 第46期 | 第47期 | 第48期 | 第49期 |
|-----------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 決算年月 | 平成26年3月 | 平成27年3月 | 平成28年3月 | 平成29年3月 | 平成30年3月 |
| 売上高 (百万円) | 828,558 | 882,976 | 940,460 | 976,107 | 1,012,200 |
| 経常利益 (百万円) | 55,167 | 60,668 | 68,008 | 73,511 | 79,031 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円) | 33,050 | 34,132 | 40,033 | 43,648 | 51,324 |
| 包括利益 (百万円) | 39,637 | 51,170 | 38,789 | 49,679 | 57,097 |
| 純資産額 (百万円) | 285,484 | 336,537 | 374,872 | 404,818 | 456,036 |
| 総資産額 (百万円) | 2,884,773 | 3,151,871 | 3,317,862 | 3,579,882 | 3,759,469 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 2,386.02 | 2,776.37 | 3,033.61 | 3,360.27 | 3,750.35 |
| 1株当たり 当期純利益金額 (円) | 311.64 | 322.84 | 379.34 | 413.51 | 486.09 |
| 潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円) | 311.25 | 322.28 | 378.51 | 412.36 | 484.53 |
| 自己資本比率 (%) | 8.8 | 9.3 | 9.6 | 9.9 | 10.5 |
| 自己資本利益率 (%) | 13.9 | 12.5 | 13.1 | 12.9 | 13.7 |
| 株価収益率 (倍) | 9.27 | 11.32 | 11.01 | 9.17 | 13.56 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 28,314 | 171,023 | 136,618 | 670 | 26,428 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 9,994 | 18,682 | 3,072 | 30,071 | 107,908 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 54,486 | 156,885 | 155,770 | 27,500 | 81,649 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円) | 115,841 | 71,864 | 91,762 | 85,730 | 86,449 |
| 従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人) | 3,309 (1,402) | 4,113 (2,723) | 4,124 (2,802) | 5,430 (2,853) | 6,035 (3,288) |

(注) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

| 回次 | 第45期 | 第46期 | 第47期 | 第48期 | 第49期 |
|------------------------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 決算年月 | 平成26年 3 月 | 平成27年 3 月 | 平成28年 3 月 | 平成29年 3 月 | 平成30年 3 月 |
| 売上高 (百万円) | 503,844 | 495,264 | 518,830 | 480,165 | 482,859 |
| 経常利益 (百万円) | 38,642 | 40,742 | 43,701 | 41,112 | 45,067 |
| 当期純利益 (百万円) | 23,075 | 26,403 | 29,784 | 29,034 | 31,462 |
| 資本金 (百万円) | 34,231 | 34,231 | 34,231 | 34,231 | 34,231 |
| 発行済株式総数 (千株) | 106,624 | 106,624 | 106,624 | 106,624 | 106,624 |
| 純資産額 (百万円) | 196,263 | 222,808 | 243,763 | 264,700 | 288,015 |
| 総資産額 (百万円) | 2,000,356 | 2,174,228 | 2,288,107 | 2,306,297 | 2,383,747 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 1,852.02 | 2,107.05 | 2,302.93 | 2,498.71 | 2,716.39 |
| 1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円) | 52.00 (26.00) | 65.00 (32.00) | 80.00 (35.00) | 100.00 (47.00) | 114.00 (52.00) |
| 1株当たり 当期純利益金額 (円) | 217.57 | 249.74 | 282.23 | 275.06 | 297.98 |
| 潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円) | 217.30 | 249.30 | 281.61 | 274.30 | 297.02 |
| 自己資本比率 (%) | 9.8 | 10.2 | 10.6 | 11.4 | 12.0 |
| 自己資本利益率 (%) | 12.3 | 12.6 | 12.8 | 11.5 | 11.4 |
| 株価収益率 (倍) | 13.28 | 14.64 | 14.79 | 13.78 | 22.12 |
| 配当性向 (%) | 23.9 | 26.0 | 28.3 | 36.4 | 38.3 |
| 従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人) | 1,020 (64) | 1,023 (73) | 1,021 (75) | 1,032 (79) | 1,016 (69) |

(注) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【沿革】

| 年月 | 事項 |
|----------|---|
| 昭和44年7月 | 伊藤忠商事株式会社・株式会社第一銀行(現、株式会社みずほ銀行)・日本生命保険相互会社・朝日生命保険相互会社の4社の共同出資により、資本金500百万円でセンチュリー・リーシング・システム株式会社を設立。 |
| 昭和60年4月 | 当社自動車リース部門を分離し、伊藤忠商事株式会社、伊藤忠燃料株式会社(現、伊藤忠エネクス株式会社)、大成火災海上保険株式会社(現、損害保険ジャパン日本興亜株式会社)とセンチュリー・オート・リース株式会社(現、日本カーソリューションズ株式会社)を設立。 |
| 平成15年9月 | 東京証券取引所市場第二部に株式を上場。 |
| 平成16年9月 | 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定。 |
| 平成17年10月 | センチュリー・オート・リース株式会社がエヌ・ティ・ティ・オートリース株式会社と対等合併し、商号を日本カーソリューションズ株式会社に変更。 |
| 平成18年10月 | 伊藤忠(中国)集団有限公司との共同出資により中国上海市に盛世利(中国)租賃有限公司を設立。 |
| 平成21年4月 | 東京リース株式会社と合併し、商号を東京センチュリーリース株式会社に変更。 |
| 平成22年1月 | 盛世利(中国)租賃有限公司が東瑞融資租賃有限公司と合併し、商号を東瑞盛世利融資租賃有限公司に変更。 |
| 平成22年7月 | 株式会社IHIファイナンスサポートの株式66.5%を取得。 |
| 平成23年2月 | インドネシアに現地法人PT.Century Tokyo Leasing Indonesiaを設立。 |
| 平成24年8月 | 京セラ株式会社と太陽光発電事業会社である京セラTCLソーラー合同会社を設立。 |
| 平成24年9月 | インドの大手財閥であるタタ・グループと提携し、同地でリース事業を開始。 |
| 平成24年12月 | GA Telesis, LLCへの出資を行い、持分法適用関連会社化。 |
| 平成25年6月 | ニッポンレンタカーサービス株式会社の株式を追加取得し、連結子会社化。 |
| 平成25年6月 | 中国でのファクタリング業務を行う東瑞盛世利(上海)商業保理有限公司を設立。 |
| 平成25年10月 | 日本カーソリューションズ株式会社と東京オートリース株式会社が合併(合併後の所有割合は59.5%)。日本カーソリューションズ株式会社を連結子会社化。 |
| 平成25年10月 | アイルランドに航空機ファイナンス事業を行うTC Aviation Capital Ireland Limitedを設立。 |
| 平成26年5月 | 持分法適用関連会社であったタイ現地法人のTISCO Tokyo Leasing Co.,Ltd.を連結子会社化。 |
| 平成26年10月 | 米国金融大手・リース会社であるCIT Group Inc.と、航空機リース事業を行う合併会社、TC-CIT Aviation Ireland Limited及びTC-CIT Aviation U.S.,Inc.を設立。 |
| 平成26年12月 | フィリピン大手銀行のBank of the Philippine Islandsのリース子会社であるBPI Leasing Corporation(現、BPI Century Tokyo Lease & Finance Corporation)へ出資し、持分法適用関連会社化。 |
| 平成27年3月 | タイの現地販売金融会社であるHitachi Construction Machinery Leasing (Thailand) Co.,LTD.(現、HTC Leasing Company Limited)へ出資し、連結子会社化。また、インドネシアの現地販売金融子会社であるP.T.Hitachi Construction Machinery Finance Indonesia(現、P.T.Hexa Finance Indonesia)へ出資し、持分法適用関連会社化。 |
| 平成27年3月 | 米国の大手独立系リース会社、CSI Leasing, Inc.の株式35%を取得し、持分法適用関連会社化。 |
| 平成27年4月 | 株式会社オリエントコーポレーションと物品販売会社との提携リース事業を専門とする合併会社株式会社オリコビジネスリースを設立。 |
| 平成28年6月 | 持分法適用関連会社である、CSI Leasing, Inc.の株式を追加取得し、完全子会社化。 |
| 平成28年6月 | 日土地アセットマネジメント株式会社へ出資し、持分法適用関連会社化。 |
| 平成28年10月 | 商号を東京センチュリー株式会社に変更。 |
| 平成29年3月 | 連結子会社である、TC-CIT Aviation Ireland Limited(現、TC Skyward Aviation Ireland Limited)及びTC-CIT Aviation U.S.,Inc.(現、TC Skyward Aviation U.S.,Inc.)の株式を追加取得し、完全子会社化。 |
| 平成29年3月 | 中国最大手冷凍空調機器メーカーグループである大連冰山集団有限公司と主にベンダー・ファイナンスを行う合併会社、大連冰山集団華慧達融資租賃有限公司(持分法適用関連会社)を設立。 |
| 平成29年8月 | 中国でのリース事業等を行う瑞盛宝融資租賃(上海)有限公司を設立。 |
| 平成29年12月 | 米国の大手航空機リース会社、Aviation Capital Group LLCの持分20%を取得し、持分法適用関連会社化。 |

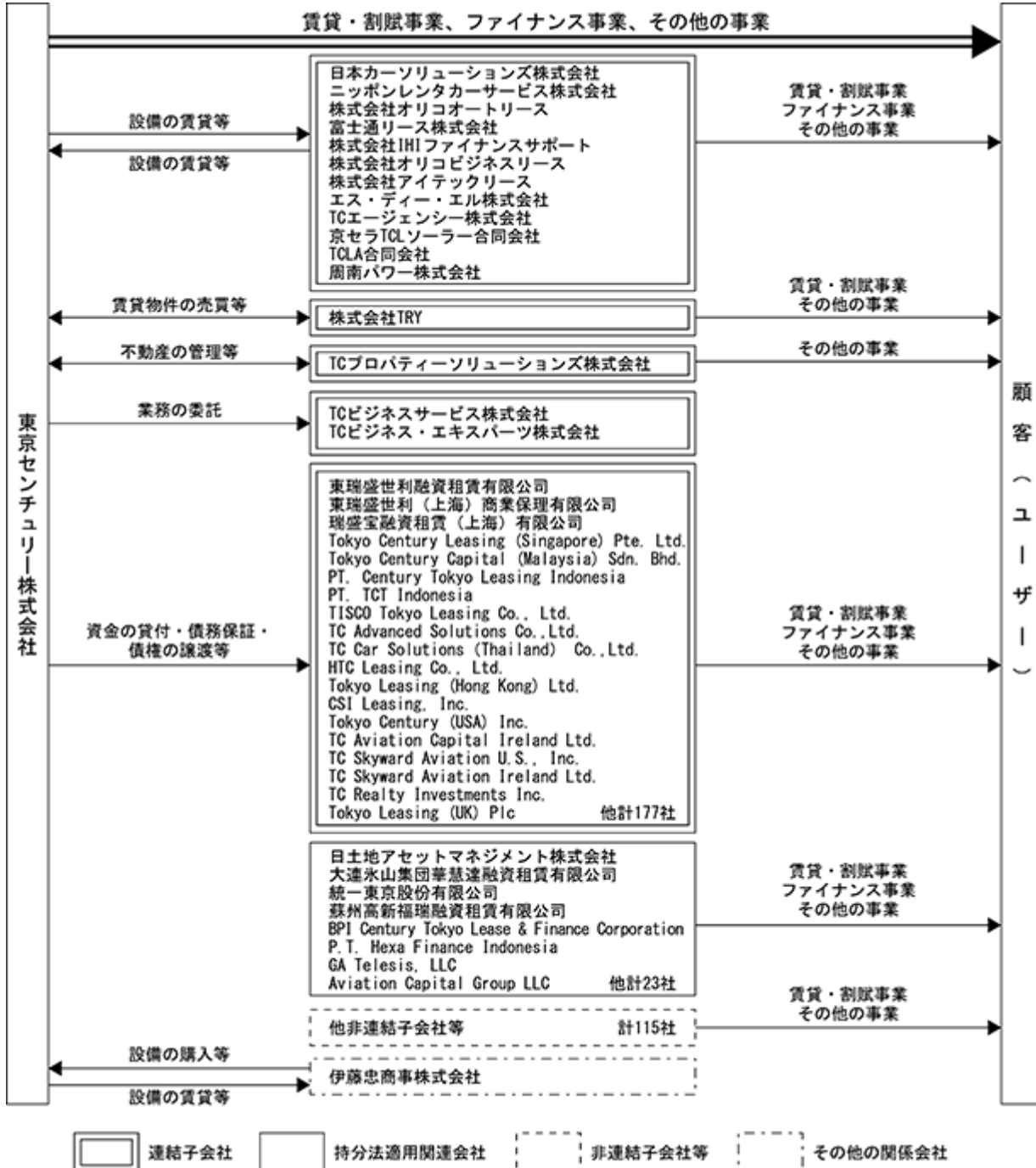
3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社306社及び関連会社25社で構成され、主として情報関連機器、通信機器、各種機械設備、輸送用機器の賃貸・割賦販売事業、ファイナンス事業を営んでおり、各事業に関連するサービス等の事業活動を展開しております。前記の他にその他の関係会社1社(伊藤忠商事株式会社)があります。

当社グループの主な事業内容は次のとおりであり、その事業の区分はセグメント情報におけるセグメントの区分と同一であります。

- (1) 賃貸・割賦事業..... 情報・事務用機器、産業工作機械、輸送用機器、商業・サービス用機器等の賃貸業務（賃貸取引の満了・中途解約に伴う物件販売等を含む）及び割賦販売業務
- (2) ファイナンス事業 金銭の貸付業務、営業投資目的の有価証券及び匿名組合への出資に係る投資業務等
- (3) その他の事業 手数料及び太陽光発電業務等

当社グループの当該事業に係る位置付けを事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

| 名称 | 住所 | 資本金 (百万円) | 主要な事業 の内容 (注) 1 | 議決権の所有 割合又は被所有 割合 | 関係内容 |
|--|-------------|------------------|-------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|
| (連結子会社) 日本カーソリューションズ株式 会社(注) 7 | 東京都 千代田区 | 1,181 | 賃貸・割賦事業 その他の事業 | (所有) 59.5% | 賃貸借取引等 役員の兼任 2名 |
| ニッポンレンタカーサービス株 式会社 | 東京都 千代田区 | 720 | 賃貸・割賦事業 | 88.4% | 賃貸借取引等 事業資金の貸付 役員の兼任 2名 |
| 株式会社オリコオートリース (注) 4 | 東京都 台東区 | 240 | 賃貸・割賦事業 | 50.0% | 事業資金の貸付等 役員の兼任 1名 |
| 富士通リース株式会社 (注) 7 | 東京都 千代田区 | 1,000 | 賃貸・割賦事業 | 80.0% | 賃貸借取引等 役員の兼任 1名 |
| 株式会社 IHI ファイナンスサ ポート | 東京都 中央区 | 200 | 賃貸・割賦事業 ファイナンス事業 | 66.5% | 賃貸借取引等 事業資金の貸付 |
| 株式会社オリコビジネスリース (注) 4 | 東京都 台東区 | 240 | 賃貸・割賦事業 | 50.0% | 賃貸借取引等 事業資金の貸付 役員の兼任 2名 |
| 株式会社アイテックリース | 東京都 渋谷区 | 20 | 賃貸・割賦事業 | 85.1% | 賃貸借取引等 役員の兼任 1名 |
| エス・ディー・エル株式会社 | 東京都 港区 | 100 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 賃貸借取引等 |
| 株式会社TRY | 神奈川県 座間市 | 50 | 賃貸・割賦事業 その他の事業 | 80.0% | リース満了・中途解約 物件等の売却 役員の兼任 2名 |
| TCプロパティソリューション ズ株式会社 | 東京都 千代田区 | 100 | その他の事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 役員の兼任 2名 |
| TCエージェンシー株式会社 | 東京都 千代田区 | 10 | 賃貸・割賦事業 ファイナンス事業 その他の事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 債務保証 役員の兼任 1名 |
| TCビジネスサービス株式会社 | 東京都 台東区 | 20 | その他の事業 | 100.0% | 事務の委託 役員の兼任 1名 |
| TCビジネス・エキスパーツ株式 会社 | 東京都 千代田区 | 10 | その他の事業 | 100.0% | 検査業務の委託 役員の兼任 2名 |
| 京セラTCLソーラー合同会社 | 東京都 千代田区 | 10 | その他の事業 | 81.0% | 賃貸借取引等 |
| TCLA合同会社 | 東京都 千代田区 | 100 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 |
| 周南パワー株式会社 | 山口県 周南市 | 50 | その他の事業 | 60.0% | 事業資金の貸付 |
| 東瑞盛世利融資租賃有限公司 (注) 3 | 中国 | US \$ 47百万 | 賃貸・割賦事業 | 80.0% | 事業資金の貸付 債務保証(予約含む) 役員の兼任 1名 |
| 東瑞盛世利(上海)商業保理有 限公司(注) 3 | 中国 | RMB 250百万 | ファイナンス事業 | 100.0% | 債務保証(予約含む) 役員の兼任 1名 |
| 瑞盛宝融資租賃(上海)有限公 司 | 中国 | US \$ 30百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | |
| Tokyo Century Leasing (Singapore) Pte. Ltd. | シンガポール | S \$ 19百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 債務保証(予約含む) |
| Tokyo Century Capital (Malaysia) Sdn. Bhd.(注) 2 | マレーシア | RM 86百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% (9.5%) | 事業資金の貸付 債務保証(予約含む) |
| PT.Century Tokyo Leasing Indonesia | インドネシア | IDR 300,000百万 | 賃貸・割賦事業 | 85.0% | 事業資金の貸付 債務保証(予約含む) |
| PT.TCT Indonesia(注) 2 | インドネシア | US \$ 2百万 | その他の事業 | 100.0% (0.5%) | 事業資金の貸付 |
| TISCO Tokyo Leasing Co.,Ltd. (注) 4 | タイ | THB 60百万 | 賃貸・割賦事業 | 49.0% | 債務保証(予約含む) |
| TC Advanced Solutions Co.,Ltd.(注) 2 | タイ | THB 2百万 | ファイナンス事業 | 59.0% (10.0%) | 債務保証(予約含む) |
| TC Car Solutions (Thailand) Co.,Ltd.(注) 2 | タイ | THB 600百万 | 賃貸・割賦事業 | 99.9% (50.9%) | 債務保証(予約含む) |
| HTC Leasing Co., Ltd.(注) 2 | タイ | THB 100百万 | 賃貸・割賦事業 ファイナンス事業 | 70.0% (51.0%) | |

| 名称 | 住所 | 資本金 (百万円) | 主要な事業 の内容 (注)1 | 議決権の所有 割合又は被所有 割合 | 関係内容 |
|--|-------------|------------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|
| Tokyo Leasing (Hong Kong) Ltd. | 中国 | HK \$ 13百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 債務保証(予約含む) 資金の借入 |
| CSI Leasing, Inc. (注)3 | 米国 | US \$ 52百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 債務保証(予約含む) |
| Tokyo Century (USA) Inc. (注)3 | 米国 | US \$ 26百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 債務保証(予約含む) |
| TC Aviation Capital Ireland Limited | アイルランド | EUR 80千 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 |
| TC Skyward Aviation U.S., Inc.(注)3 | 米国 | US \$ 734百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 |
| TC Skyward Aviation Ireland Limited (注)3 | アイルランド | US \$ 193百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 |
| TC Realty Investments Inc. (注)3 | 米国 | US \$ 143百万 | ファイナンス事業 | 100.0% | 事業資金の貸付 |
| Tokyo Leasing (UK) Plc | 英国 | STG 6百万 | 賃貸・割賦事業 | 100.0% | |
| その他158社 | | | | | |
| (持分法適用関連会社) 日土地アセットマネジメント株 式会社 | 東京都 千代田区 | 80 | その他の事業 | 30.0% | |
| 統一東京股份有限公司 | 台湾 | NT \$ 588百万 | 賃貸・割賦事業 | 49.0% | 営業取引に対する保証 |
| 大連冰山集団華慧達融資租賃有 限公司 | 中国 | RMB 170百万 | 賃貸・割賦事業 | 40.0% | |
| 蘇州高新福瑞融資租賃有限公司 (注)2 | 中国 | RMB 300百万 | 賃貸・割賦事業 | 20.0% (20.0%) | |
| BPI Century Tokyo Lease & Finance Corporation | フィリピン | PHP 80百万 | 賃貸・割賦事業 | 49.0% | |
| P.T. Hexa Finance Indonesia | インドネシア | IDR 300,000百万 | 賃貸・割賦事業 | 20.0% | |
| GA Telesis, LLC (注)2、(注)6 | 米国 | - | その他の事業 | 20.0% (20.0%) | 役員の兼任1名 |
| Aviation Capital Group LLC (注)2、(注)6 | 米国 | - | 賃貸・割賦事業 | 20.0% (20.0%) | 役員の兼任1名 |
| その他15社 | | | | | |
| (その他の関係会社) 伊藤忠商事株式会社 (注)5 | 東京都 港区 | 253,448 | 総合商社 | (被所有) 25.2% | 賃貸借取引等 |

(注)1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は、間接所有であります。

3. 東瑞盛世利融資租賃有限公司、東瑞盛世利(上海)商業保理有限公司、CSI Leasing, Inc.、Tokyo Century (USA) Inc.、TC Skyward Aviation U.S., Inc.、TC Skyward Aviation Ireland Limited及びTC Realty Investments Inc.は、特定子会社であります。

4. 株式会社オリコオートリース、株式会社オリコビジネスリース及びTISCO Tokyo Leasing Co., Ltd.については、議決権の所有割合は100分の50以下であります。実質的に支配しているため連結子会社としたものであります。

5. 伊藤忠商事株式会社は、有価証券報告書を提出しております。

6. 資本金については当該会社が米国法上のLimited Liability Companyであり、資本金の概念と正確に一致するものがないことから記載しておりません。

7. 日本カーソリューションズ株式会社及び富士通リース株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

(主要な損益情報等)

| | 日本カーソリューションズ 株式会社 | 富士通リース株式会社 |
|-----------|----------------------|------------|
| (1) 売上高 | 183,768百万円 | 123,313百万円 |
| (2) 経常利益 | 10,691百万円 | 3,764百万円 |
| (3) 当期純利益 | 7,251百万円 | 2,584百万円 |
| (4) 純資産額 | 58,861百万円 | 46,841百万円 |
| (5) 総資産額 | 384,541百万円 | 287,364百万円 |

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

| セグメントの名称 | 従業員数(人) |
|----------|---------------|
| 賃貸・割賦事業 | 4,264 (3,078) |
| ファイナンス事業 | |
| その他の事業 | |
| 全社(共通) | 1,771 (210) |
| 合計 | 6,035 (3,288) |

- (注) 1. 当社グループは、セグメントごとの経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数の事業に従事しております。
2. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()外数で記載しております。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。
4. 前連結会計年度末に比べ従業員数が605人増加しておりますが、主として当社連結子会社であるニッポンレンタカーサービス株式会社のフランチャイズ制から直営化体制への移行等により連結子会社が増加したこと等によるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

| 従業員数(人) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(円) |
|-----------|---------|-----------|-----------|
| 1,016(69) | 42.3 | 16.6 | 8,244,000 |

平成30年3月31日現在

| セグメントの名称 | 従業員数(人) |
|----------|------------|
| 賃貸・割賦事業 | 821 (53) |
| ファイナンス事業 | |
| その他の事業 | |
| 全社(共通) | 195 (16) |
| 合計 | 1,016 (69) |

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

平成4年4月に結成されたCLS社員組合と昭和54年3月に結成された東京リース従業員組合が発展的に解散し、平成22年11月1日付で新たに東京センチュリーリース社員組合(平成28年10月に東京センチュリー社員組合と改称)を発足しております。上部団体等他団体との関係はなく、平成30年3月31日現在の組合員数は963名であります。

なお、労使関係は安定しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成30年6月25日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、経営理念及び経営方針を以下のとおり定め、社会に対する企業責任を積極的に果たしてまいります。

『経営理念』

「東京センチュリーグループは、
高い専門性と独自性を持つ金融・サービス企業として、
事業の成長に挑戦するお客さまとともに、
環境に配慮した循環型経済社会の実現に貢献します。」

<経営方針>

- ・お客さまとの連携や、グループの総力の結集をもって、あらゆる可能性を追求しながら、グローバルに最良の商品・サービスを提供し、お客さまの事業発展に貢献します。
- ・新しい事業領域を切り拓きつつ、持続的成長を実現することにより、中長期的な企業価値の向上に努めます。
- ・多様な人材の能力と個性の積極的な発揮を促す風土を醸成し、すべての役職員が専門性を高め、成長と誇りを実感できる企業を目指します。
- ・企業の社会的責任を常に意識し、循環型経済社会づくりを担う存在として、積極的かつ誠実に事業活動を行います。

(2) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社は、平成28年度から平成30年度までの第三次中期経営計画(3年)において、以下の基本方針のもと、営業基盤と経営基盤の強化を図ることで、更なる発展と飛躍を目指してまいります。

[第三次中期経営計画の基本方針]

「資産効率を重視した『高収益ビジネスモデル』への変革を推進し、更なる持続的成長の礎を築く」

第三次中期経営計画は、当社グループが将来に亘って永続的な成長の礎を築く上で重要な3年となります。当社グループ社員一同は、高い専門性と革新性を持ち「専門金融」のプロフェッショナルとして収益性の高い資産の積上げとともに、業界トップレベルの高い生産性を引き続き発揮し、「高収益ビジネスモデル」の定着化とさらなる発展に向け不断に取り組んでまいります。今後も当社グループの成長発展を支えてきた祖業である「リース」を根幹としつつも、持続的成長に向け無限の可能性と機会に果敢に挑戦してまいります。

[経営戦略]

営業基盤の強化

- ・リースの概念を超えた新たなビジネス領域への変革
- ・「ファイナンス」と「事業」の融合による新たな価値創造
- ・グループ力を結集したオート事業総合 1への挑戦
- ・アライアンス戦略の推進による海外ビジネスの拡大
- ・永続的な企業発展に向けた事業企画・開発

経営基盤の強化

- ・連結経営の強化
- ・財務基盤の充実と強化
- ・リスクコントロールの高度化
- ・人材開発の強化
- ・コーポレートガバナンスの充実

新たな課題としては、国際社会における生存可能な地球環境や人類文明等の持続可能性への関心の高まりを受け、企業経営においてもサステナビリティ（持続可能性）を自己の課題として取り込むことが求められるようになってきております。このような社会動向に対応すべく、当社は平成30年4月にサステナビリティ委員会を新設いたしました。今後、当委員会を通じて議論を進め、当社グループの持続可能な企業活動の推進を図ってまいります。

(3) 第三次中期経営計画の経営目標

| | 第三次中期経営計画 1年目 | 第三次中期経営計画 2年目 | 第三次中期経営計画 3年目 | |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 平成29年3月期実績 | 平成30年3月期実績 | 平成31年3月期目標 | 平成31年3月期業績 予想 |
| 連結経常利益 | 735億円 | 790億円 | 800億円以上 | 830億円 |
| 連結ROA (経常利益/営業資産) | 2.4% | 2.5% | 2.3%以上 | - |
| 連結自己資本比率 | 9.9% | 10.5% | 11.0% | - |

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成30年6月25日)現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 信用リスク

リース・割賦、営業貸付金等は、与信先に対し比較的長期間にわたり、信用を供与する取引であり、与信先からリース料、元利金等の全額を回収して初めて期待採算が確保されます。ただし、与信先にリース料、元利金等の不払・事故があった場合、対象物件の売却又は他の与信先への転用等により可能な限り回収を図っております。

当社グループは、慎重な与信管理、物件の見極め及び営業資産のポートフォリオにおける信用リスクをコントロールし、信用リスクの極小化に努めておりますが、今後の景気動向によっては企業の信用状況の悪化により、新たな不良債権が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 戦略的提携、企業買収、出資に関わるリスク

当社グループは、リース・金融といった分野に留まらずに、国内外のパートナー企業と共に事業性ビジネスを展開するための戦略的提携や企業買収、出資を行っております。このような戦略的提携や企業買収、出資に関し、法制度の変更や競争の激化、金融環境の変化などにより、戦略的提携の解消ならびにそれに伴うサービスが提供できなくなる可能性や、戦略的提携、企業買収、出資が期待どおりの効果を生まず、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 金利変動及び調達環境の変化による影響

当社グループが主要事業として取扱っているリース・割賦、営業貸付金等において、リース料、金利等は物件購入代金のほか、契約時の金利水準等を基準として設定され、契約期間中のリース料、金利等は原則として変動いたしません。一方、リース・割賦、営業貸付金等の原価である資金原価（金融費用）は、長期固定の資金調達のほかに変動金利による調達もあるため、この部分については市場金利の変動により影響を受けます。このため、市場金利が上昇した場合、原価計上額が増加する可能性があります。

また、当社グループの資金調達は、間接調達のほかコマース・ペーパー、社債等の直接調達も含まれており、調達環境の変化によっては資金調達に影響を及ぼす可能性があります。

以上のように、今後の金利変動及び調達環境の変化によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。当社グループではALM（資産・負債総合管理）分析に基づきこれらの資金調達に関するリスクを厳重に管理し、必要に応じてリスクヘッジを行っております。

(4) 為替の変動による影響

当社の海外における連結子会社・持分法適用関連会社の収益や費用については期中平均相場により円貨に換算しており、為替相場の変動が、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。海外事業に対する投資についても、為替の変動による株主資本の増減リスクや、期間損益の増減リスクが存在し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 民間設備投資動向の変動による影響

民間設備投資額とリース設備投資額とは、一時的な差異はあるもののほぼ相関関係にあり、今後もこの傾向は続くものと考えられます。

当社グループの契約高と民間設備投資額・リース設備投資額の推移は、近年必ずしも一致してはおりませんが、今後民間設備投資額が大きく減少し、あわせてリース設備投資額も大きく減少した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 株価変動リスク

当社グループでは、取引企業との関係強化や投資目的の観点から、有価証券を保有しております。

当社グループでは、個々の取引関係等に応じて定期的に保有有価証券の見直しを実施しておりますが、今後の株価変動によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 保有及び投資資産の価格変動リスク

当社グループでは、国内外において、オペレーティングリース、レンタル取引、アセット投資等を目的として、船舶、航空機、不動産、自動車など、資産価値を有する物件の保有及び投資をしております。当社グループは慎重に物件の価値を見極めておりますが、これらの資産価格は変動するものであり、その価値が下落した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) カントリーリスク

当社グループでは、海外における事業展開や投資を積極的に進めており、これらの国や地域における法令や規制の変更や、政治・経済・社会情勢の変化により生じる予期せぬ事態等により、当社グループの事業展開や投資が順調に展開できず、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 制度変更リスク

当社グループは、現行の法律・税務・会計等の制度や基準をもとに事業を展開しております。将来、これらの諸制度が大幅に変更された場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 予測不能な事象による影響

当社グループでは、地震、風水害、火災、及び人為的な大規模災害や新型インフルエンザ、SARS等の感染症等の予測不能な事象による危機に備え、事業継続計画(BCP)に関する対応を定めておりますが、予想外の経済的損失を被った場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) システムリスク、情報セキュリティリスク

営業関係、契約管理、資産管理、統計業務等広範囲にわたって活用しているコンピュータシステムについて、不測の事態による停止、誤作動、外部からの不正アクセス、コンピュータウイルスの侵入などが発生し、当社グループの事業活動や業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは個人情報を含む顧客情報や内部情報を有しており、仮に重要な情報が外部に漏えいした場合、損害賠償やレピュテーションの毀損等により損失を被る可能性があります。

(12) その他のリスク

上記リスクの他、不適切な事務処理が行われることによる事務リスク、法令や社会規範が順守されなかった場合に社会的信用の失墜に繋がるコンプライアンスリスク、レピュテーションリスクなどがあります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(経営成績等の状況の概要)

(1) 事業の取組状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、国内政治情勢の不安定さを払拭しきれない面はあるものの、企業収益の好調を背景とした設備投資の増加や、世界経済の比較的良好な環境継続を背景とした輸出増加など、景気全般として緩やかな回復基調にて推移いたしました。一方、グローバルな金融・市場動向をはじめ、米国に端を発した貿易摩擦懸念による景気後退リスクや、中東や東アジアを中心とした地政学リスクの方向感など、先行きを見通しづらい状況は依然として続いております。

このような状況下、当社グループにおきましては、平成28年度を初年度とする第三次中期経営計画(3ヵ年)の2年目にあたり、以下の営業基盤・経営基盤強化策を実施いたしました。

営業基盤の強化

〔国内リース事業分野〕

- ・上下水道処理などの水環境事業のリーディングカンパニーである月島機械株式会社と業務提携契約を締結いたしました。当社の「再生可能エネルギー事業での実績および金融・サービス機能」と、月島機械株式会社の得意とする「下水道分野での創エネルギー事業および単体機器ビジネス」を組み合わせ、環境に配慮した循環型経済社会の実現と事業領域の更なる拡大を目指し、社会的意義の高い取り組みを加速してまいります。

- ・サブスクリプション・コマースのための総合プラットフォームシステムを開発・提供するビープラッツ株式会社と資本参加を伴う業務提携契約を締結いたしました。IoTの活用により可能となった「モノ」の利用状況のデータを可視化し、課金、請求、取引管理を行うビープラッツ株式会社のサブスクリプション・プラットフォームを活用し、お客様との共同事業を含めた取り組みを強化していく方針です。

〔スペシャルティ事業分野〕

- ・IHG・ANA・ホテルズグループジャパンならびにGHS株式会社とともに、大分県別府市内に建設する「ANAインターコンチネンタル別府リゾート&スパ(平成31年オープン予定)」のホテル開発事業への参画に合意いたしました。
- ・米国大手航空機リース会社Aviation Capital Group LLCおよび同社親会社のPacific Life Insurance Companyと共同で航空機リース事業を行うことに合意、Aviation Capital Group LLCの持分20%を取得し、持分法適用関連会社といたしました。本件は、航空機業界における世界的な有力誌の一つであるAirline Economics誌によるAviation 100 Global Leaders Awards 2018において、「Overall Equity Deal of the Year」を受賞いたしました。
- ・経済産業省が実施した「リース手法を活用した先端設備等導入促進補償制度推進事業」を適用した共同発電事業に係る株主間協定書を、当社、株式会社トクヤマ、丸紅株式会社の3社で締結いたしました。バイオマス燃料の混焼により、環境にも配慮した設備運営を行っていく方針です。

〔国内オート事業分野〕

- ・当社連結子会社である日本カーソリューションズ株式会社は、東京ガス株式会社の子会社である東京ガスオートサービス株式会社の発行済株式100%を取得することに合意いたしました。公共性の高い車両に関するサービスおよび安定的なメンテナンス体制の強化に努めてまいります。
- ・当社連結子会社であるニッポンレンタカーサービス株式会社は、スピーディーかつダイナミックな事業運営を実現し、その成長・発展を加速させることを目的として、創業以来続くフランチャイズシステムによる制度を廃止し、直営化体制に移行いたしました。

〔国際事業分野〕

- ・環境省およびその執行団体である公益財団法人地球環境センター（GEC）が募集した「平成29年度二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism:JCM）資金支援事業のうち設備補助事業」について、当社が応募した「自動車部品工場への1.53MW屋根置き太陽光発電システムの導入」案件が採択され、日本の金融・サービス企業がJCMの代表事業者を務める初めての選定事例となりました。
- ・中国上海市自由貿易区にリース事業を行う新会社である瑞盛宝融資租賃（上海）有限公司を設立いたしました。中国最大手のカード決済サービス企業である銀聯商務有限公司が運営するインターネットの加盟店向け金融サービスプラットフォーム「天天富」を活用したリースビジネスを展開してまいります。
- ・インドネシアの大手財閥リッポー・グループが「OVO」のブランド名で運営する電子マネー・ポイントサービス事業会社の持株会社であるPT.Bumi Cakrawala Perkasaに対し追加出資を行いました。リッポー・グループと協働して更なるフィンテック事業の拡大を目指してまいります。
- ・営業基盤の強化および効率的な事業運営を目的として、タイにおける連結子会社であるTISCO Tokyo Leasing Co.,Ltd.のオートリース事業をTC Car Solutions (Thailand) Co.,Ltd.に移管し、タイにおけるオートリース事業を統合いたしました。
- ・戦略的パートナーシップ協定を締結している東南アジア地域最大の配車サービス事業会社であるGrab Inc.との協業事業が順調に拡大していることを踏まえ、同社へ追加出資を実施いたしました。

経営基盤の強化

〔財務基盤の充実と強化〕

- ・当社連結子会社であるタイ現地法人TISCO Tokyo Leasing Co., Ltd.は、日系企業およびTISCO Financial Group Pcl.の顧客基盤を活かした現地企業に対する「設備リース」を展開しており、多様な顧客ニーズに対応するため、タイ市場において4回目となるパーツ建無担保普通社債を発行いたしました。
- ・株式会社日本格付研究所(JCR)より取得している当社および連結子会社である日本カーソリューションズ株式会社、富士通リース株式会社の3社の格付けの見通しが、「安定的」から「ポジティブ」へ変更されました。

〔その他経営基盤の強化〕

- ・経済産業省と東京証券取引所が共同で進める「攻めのIT経営銘柄2017」に関して、上場企業約3,500社の中から業種区分ごとに選定された31社中の1社として、本制度が創設された平成27年度から3年連続で選出されました。
- ・グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築された環境・社会・ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスである「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄となりました。
- ・従業員の仕事と子育てに関する両立支援制度の導入や利用について厚生労働大臣から「くるみん」の認定を受けた企業のうち、より高い水準の取り組みを行っている企業として、「プラチナくるみん」認定を受けました。
- ・経済産業省が設計を行う、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度である「健康経営優良法人2018（大規模法人部門）～ホワイト500～」に認定されました。

(2) 業績等の概要

事業の成果としましては、当連結会計年度の契約実行高は賃貸・割賦事業の減少により前期比710億47百万円（4.7%）減の1兆4,289億43百万円となりました。

業績につきましては、前第1四半期末にCSI Leasing, Inc.を連結子会社化したことに加え各事業分野の業績が堅調に推移したことにより、売上高は前期比360億93百万円（3.7%）増の1兆122億円、営業利益は同17億45百万円（2.4%）増の737億44百万円、経常利益は同55億20百万円（7.5%）増の790億31百万円となりました。また、米国における税制改正により法人税等が減少した影響もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は同76億75百万円（17.6%）増の513億24百万円となりました。

当連結会計年度末の資産合計は、前期末比1,795億87百万円（5.0%）増加し、3兆7,594億69百万円となりました。純資産は前期末比512億18百万円（12.7%）増加し、4,560億36百万円となりました。この結果、自己資本比率は前期末に比べ0.6ポイント上昇し10.5%となりました。

セグメント別の業績等は次のとおりであります。

賃貸・割賦事業

賃貸・割賦事業では、国内におけるファイナンス・リースの取扱高の減少などにより、契約実行高は前期比1,091億68百万円（12.3%）減の7,807億73百万円となりました。売上高は同355億65百万円（3.8%）増の9,598億12百万円、セグメント利益は同4億34百万円（0.7%）減の594億96百万円となりました。CSI Leasing, Inc.や国内オート事業会社などは増益となったものの、賃貸資産（航空機）の減損損失を計上したためであります。営業資産残高は前期末比625億8百万円（2.6%）減の2兆3,766億98百万円となりました。

ファイナンス事業

ファイナンス事業では、契約実行高は前期比17億13百万円（0.3%）増の6,045億25百万円となりました。売上高は、前期比30億94百万円（12.8%）増の273億6百万円、セグメント利益は同31億47百万円（24.9%）増の157億70百万円となりました。主な増益要因は、不動産ファイナンス収益の増加、貸倒費用の減少などによるものであります。営業資産残高は前期末比351億9百万円（4.7%）増の7,850億74百万円となりました。

その他の事業

その他の事業では、発電用設備資産の取得により、契約実行高は前期比364億7百万円（503.0%）増の436億44百万円となりました。発電用設備資産の取得などにより収入が増加した一方で手数料収入などが減少したことにより、売上高は前期比25億67百万円（9.3%）減の250億81百万円、セグメント利益は同8億34百万円（10.3%）減の72億60百万円となりました。営業資産残高は前期末比420億45百万円（156.7%）増の688億68百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度 自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日 | 当連結会計年度 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日 | 増減額 |
|---------------|--|--|--------|
| 営業活動キャッシュ・フロー | 670 | 26,428 | 27,098 |
| 投資活動キャッシュ・フロー | 30,071 | 107,908 | 77,837 |
| 財務活動キャッシュ・フロー | 27,500 | 81,649 | 54,148 |
| 現金・現金同等物期末残高 | 85,730 | 86,449 | 719 |

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動では、賃貸資産の取得による支出が1,689億5百万円、その他の営業資産（発電用設備資産）の取得による支出が436億44百万円となったこと等に対し、税金等調整前当期純利益が794億66百万円、賃貸資産減価償却費が1,120億60百万円、賃貸資産除却損及び売却原価が637億6百万円となったこと等により264億28百万円の収入（前連結会計年度は6億70百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動では、投資有価証券の売却及び償還による収入が8億54百万円となったこと等に対し、Aviation Capital Group LLCの持分取得などの投資有価証券の取得による支出が906億円、事業譲受による支出が92億82百万円となったこと等により、1,079億8百万円の支出（前連結会計年度は300億71百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動では、長期借入金の返済による支出が3,894億14百万円、社債の償還による支出が682億68百万円となったこと等に対し、長期借入れによる収入が3,871億63百万円、社債の発行による収入が1,017億99百万円となったこと等により、816億49百万円の収入（前連結会計年度は275億円の収入）となりました。

これらにより、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前期末比7億19百万円増加し、864億49百万円となりました。

(営業取引の状況)

(1) 契約実行高

当連結会計年度における契約実行実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 契約実行高(百万円) | 前年同期比(%) |
|--------------|------------|----------|
| 賃貸・割賦事業 | | |
| ファイナンス・リース | 535,406 | 91.0 |
| オペレーティング・リース | 168,905 | 81.3 |
| 賃貸取引計 | 704,312 | 88.4 |
| 割賦取引 | 76,460 | 81.8 |
| 賃貸・割賦事業計 | 780,773 | 87.7 |
| ファイナンス事業 | 604,525 | 100.3 |
| その他の事業 | 43,644 | 603.0 |
| 合計 | 1,428,943 | 95.3 |

(注) 1. オペレーティング・リースは、賃貸物件の取得価額を記載しております。なお、再リース取引の実行額は含んでおりません。

2. ファイナンス・リースについては、当連結会計年度に取得した賃貸用資産の取得価額、割賦取引については、割賦債権から割賦未実現利益を控除した額を表示しております。

(2) 営業資産残高

当連結会計年度における営業資産残高をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|--------------|-----------|--------|-----------|--------|
| | 期末残高(百万円) | 構成比(%) | 期末残高(百万円) | 構成比(%) |
| 賃貸・割賦事業 | | | | |
| ファイナンス・リース | 1,600,637 | 49.8 | 1,544,595 | 47.9 |
| オペレーティング・リース | 637,078 | 19.8 | 637,811 | 19.7 |
| 賃貸取引計 | 2,237,715 | 69.6 | 2,182,406 | 67.6 |
| 割賦取引 | 201,490 | 6.3 | 194,291 | 6.0 |
| 賃貸・割賦事業計 | 2,439,206 | 75.9 | 2,376,698 | 73.6 |
| ファイナンス事業 | 749,965 | 23.3 | 785,074 | 24.3 |
| その他の事業 | 26,823 | 0.8 | 68,868 | 2.1 |
| 合計 | 3,215,995 | 100.0 | 3,230,641 | 100.0 |

(注) 割賦取引については、割賦債権から割賦未実現利益を控除した額を表示しております。

(3) 営業実績

連結会計年度における営業実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

前連結会計年度

| セグメントの名称 | | 売上高 (百万円) | 売上原価 (百万円) | 差引利益 (百万円) | 資金原価 (百万円) | 売上総利益 (百万円) |
|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| 貸貸・割賦 事業 | ファイナンス・リース | 580,169 | - | - | - | - |
| | オペレーティング・リース | 270,438 | - | - | | |
| | 貸貸取引計 | 850,607 | 716,850 | 133,756 | | |
| | 割賦取引 | 73,639 | 68,294 | 5,344 | | |
| | 貸貸・割賦事業計 | 924,246 | 785,145 | 139,101 | | |
| ファイナンス事業 | | 24,211 | 897 | 23,314 | | |
| その他の事業 | | 27,649 | 19,753 | 7,895 | | |
| 合計 | | 976,107 | 805,795 | 170,311 | 17,500 | 152,811 |

(注) 売上高について、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれておりません。

当連結会計年度

| セグメントの名称 | | 売上高 (百万円) | 売上原価 (百万円) | 差引利益 (百万円) | 資金原価 (百万円) | 売上総利益 (百万円) |
|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| 貸貸・割賦 事業 | ファイナンス・リース | 601,832 | - | - | - | - |
| | オペレーティング・リース | 300,922 | - | - | | |
| | 貸貸取引計 | 902,754 | 757,132 | 145,622 | | |
| | 割賦取引 | 57,057 | 50,946 | 6,110 | | |
| | 貸貸・割賦事業計 | 959,812 | 808,079 | 151,733 | | |
| ファイナンス事業 | | 27,306 | 975 | 26,330 | | |
| その他の事業 | | 25,081 | 18,302 | 6,779 | | |
| 合計 | | 1,012,200 | 827,356 | 184,843 | 21,648 | 163,195 |

(注) 売上高について、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれておりません。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成30年6月25日)現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは、合理的と判断される前提に基づいて実施しておりますが、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 4. 会計方針に関する事項」に記載のとおりであります。

(2) 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループは平成28年度から平成30年度までの第三次中期経営計画において策定した基本方針及び経営戦略にもとづき、祖業であるファイナンスリースを中心とした金融機能を提供するリース会社から、更なる発展と飛躍を目指し、グローバルに展開する「金融機能を持つ事業会社」として、国内外においてパートナー企業とともに事業性ビジネスに注力しております。

なお、当連結会計年度における具体的な取り組みは、「(経営成績等の状況の概要)(1)事業の取組状況」に記載のとおりであります。

経営成績

当連結会計年度の売上高は前期比360億93百万円(3.7%)増加し1兆122億円、売上総利益は前期比103億84百万円(6.8%)増加し1,631億95百万円となりました。前第1四半期末に連結子会社化した米国独立系最大手であるCSI Leasing Inc.の業績が順調に拡大していることに加え、通期に渡り寄与したことも増加の要因であります。また、法人・個人向けオートリースからレンタカーまで国内屈指の豊富なオートサービスラインアップを生かした国内オート事業グループ3社の業容が拡大しているためであります。

販売費及び一般管理費は、前期比86億38百万円(10.7%)増加し、894億50百万円となりました。主な要因はCSI Leasing Inc.、国内オート事業グループ3社の業容拡大に伴うものであります。なお、貸倒費用は、3億15百万円の戻入益となった結果、前期比15億22百万円の増益効果がありました。

営業外損益は、前期比37億74百万円(249.6%)増加し、52億86百万円の利益となりました。主な要因は米国大手航空機リース会社であるAviation Capital Group LLCの持分取得などにより持分法投資利益が前期比25億99百万円(221.7%)増加したことなどであります。

これらにより、経営目標である経常利益は前期比55億20百万円(7.5%)増加し790億31百万円となり、平成21年の当社合併以来、9期連続過去最高益を達成致しました。

法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額の合計は前期比5億39百万円(2.4%)減少し223億82百万円となりました。主な要因は米国税制改正により法人税等調整額が29億96百万円減少したことです。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比76億75百万円(17.6%)増加し513億24百万円となり、7期連続過去最高益を達成致しました。

なお、1株当たり当期純利益は前期比72円58銭増加し486円9銭、ROE(自己資本利益率)は同0.8ポイント上昇し13.7%となりました。

財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前期末比1,795億87百万円(5.0%)増加し、3兆7,594億69百万円となりました。国内リース市場が厳しい環境にある中、資産効率の向上を意識した取り組みにより、ファイナンス・リース(リース債権及びリース投資資産)及び割賦債権が減少しました。一方で、国内外における事業性ビジネスの取組強化により、太陽光発電を中心とした発電事業関連資産(その他の営業資産、建設仮勘定等)が増加し、また、航空機事業の更なる拡大に向けたAviation Capital Group LLCの持分取得や東南アジア地域において戦略的パートナーとのフィンテック事業ほか協業事業に伴う出資などにより投資有価証券が増加いたしました。

当連結会計年度末の負債合計は、前期末比1,283億69百万円(4.0%)増加し、3兆3,034億33百万円となりました。主な要因はリース物件等の仕入債務(支払手形及び買掛金)及び有利子負債の増加によるものであります。当連結会計年度末の有利子負債は、Aviation Capital Group LLCの持分取得などの資金需要に対応した結果、前期末比776億36百万円(2.8%)増加し、2兆8,106億80百万円となりました。

純資産は前期末比512億18百万円(12.7%)増加し、4,560億36百万円となりました。主な要因は利益剰余金が増加したことです。この結果、経営目標である自己資本比率は前期末に比べ0.6ポイント上昇し10.5%となりました。

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの状況に関する認識及び分析・検討内容につきましては、「(経営成績等の状況の概要)(3)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、資産効率を高める良質な資産の拡大とそれに伴う各種リスクのコントロールにあります。当連結会計年度は良質な資産の拡大に伴う収益の拡大とともに、各種リスクについて、航空機を対象とした賃貸資産の減損損失を計上したものの、貸倒費用は戻入益となるなどリスクに伴う損失の発生は抑制されております。

なお、各種リスクにつきましては、「第2 事業の状況 2 事業のリスク」に記載のとおりであります。

また、セグメント別の財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容につきましては、「(経営成績等の状況の概要 (2)業績等の概要)」に記載のとおりであります。

(3) 資金調達と資金の流動性についての分析

資金調達の基本方針

当社グループは、金融情勢の変化に機動的に対応しつつ調達先の分散や調達手段の多様化を図ることで、資金コストの低減及び調達の安定性を高めることを基本方針としております。また、ALM(資産・負債総合管理)の実施により、市場リスクについて多面的な分析を行い、各種リスクを適切にコントロールしております。

間接調達と直接調達

当社グループの資金調達は、金融機関からの借入による間接調達と資本市場からの調達による直接調達で構成されております。

当連結会計年度末において、間接調達は、前期末比31億77百万円(0.2%)減少し1兆6,320億15百万円となりました。直接調達は、コマーシャル・ペーパーの発行及び社債の発行などにより、前期末比808億13百万円(7.4%)増加し1兆1,786億65百万円となりました。この結果、当連結会計年度末の直接調達比率は41.9%となり、前期末比1.8ポイント上昇しました。

また、当連結会計年度末の長期調達比率は51.5%となり、前期末に比べて1.2ポイント低下しました。

流動性の確保

当社グループは、流動性を確保するため取引金融機関106行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しており、当連結会計年度末の契約総額は、前期末に比べて1,836億2百万円増額の1兆4,134億77百万円となりました。

なお、当連結会計年度末の当座貸越契約及びコミットメントライン契約による借入未実行残高は9,678億34百万円となっており、資金の流動性は十分に確保されております。

(4) 経営上の目標の達成状況

| | 第二次中期経営計画 (最終年度) | 第三次中期経営計画 | | |
|----------------------|---------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 平成28年3月期 (実績) | 平成29年3月期 (実績) | 平成30年3月期 (実績) | 平成31年3月期 (目標) |
| 連結経常利益 | 680億円 | 735億円 | 790億円 | 800億円以上 |
| 連結ROA (経常利益/営業資産) | 2.3% | 2.4% | 2.5% | 2.3%以上 |
| 連結自己資本比率 | 9.6% | 9.9% | 10.5% | 11.0% |

当社グループは、第三次中期経営計画期間最終年度である平成30年度の経営目標として、連結経常利益800億円以上、連結ROA(経常利益/営業資産)を2.3%以上、連結自己資本比率11.0%を目指しております。第三次中期経営計画の基本方針として、資産効率を重視していることから、連結経常利益、連結ROA(経常利益/営業資産)を重要な指標として位置付けております。また、事業の特性上、安定的な資金調達は不可欠なことから、連結自己資本比率を重要な指標として位置付けております。

当連結会計年度において、連結経常利益790億円、連結ROA2.5%、連結自己資本比率10.5%となり、最終年度における目標達成に向け順調に推移しております。

(特定金融会社等の開示に関する内閣府令に基づく貸付金の状況)

「特定金融会社等の開示に関する内閣府令」(平成11年5月19日 大蔵省令57号)に基づく、当社の貸付金(営業貸付金、その他の営業貸付債権、関係会社短期貸付金及び関係会社長期貸付金)の状況は次のとおりであります。

(1) 貸付金の種別残高内訳

平成30年3月31日現在

| 貸付種別 | 件数 (件) | 構成割合 (%) | 残高 (百万円) | 構成割合 (%) | 平均約定金利 (%) |
|-----------------|-----------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 消費者向 | | | | | |
| 無担保 (住宅向を除く) | - | - | - | - | - |
| 有担保 (住宅向を除く) | - | - | - | - | - |
| 住宅向 | - | - | - | - | - |
| 計 | - | - | - | - | - |
| 事業者向 | | | | | |
| 計 | 14,020 | 100.00 | 807,478 | 100.00 | 2.55 |
| 合計 | 14,020 | 100.00 | 807,478 | 100.00 | 2.55 |

(2) 資金調達内訳

平成30年3月31日現在

| 借入先等 | 残高(百万円) | 平均調達金利(%) |
|------------|-----------|-----------|
| 金融機関等からの借入 | 923,657 | 1.01 |
| その他 | 931,642 | 0.14 |
| 社債・CP | 879,642 | 0.15 |
| 合計 | 1,855,300 | 0.57 |
| 自己資本 | 284,069 | - |
| 資本金・出資額 | 34,231 | - |

(3) 業種別貸付金残高内訳

平成30年3月31日現在

| 業種別 | 先数(件) | 構成割合(%) | 残高(百万円) | 構成割合(%) |
|---------------|-------|---------|---------|---------|
| 製造業 | 427 | 16.53 | 9,558 | 1.18 |
| 建設業 | 61 | 2.36 | 144 | 0.02 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 22 | 0.85 | 36,643 | 4.54 |
| 運輸・通信業 | 115 | 4.45 | 86,174 | 10.67 |
| 卸売・小売業、飲食店 | 538 | 20.83 | 9,873 | 1.22 |
| 金融・保険業 | 93 | 3.60 | 149,214 | 18.48 |
| 不動産業 | 45 | 1.74 | 77,781 | 9.63 |
| サ・ビス業 | 816 | 31.60 | 398,986 | 49.42 |
| 個人 | - | - | - | - |
| その他 | 466 | 18.04 | 39,101 | 4.84 |
| 合計 | 2,583 | 100.00 | 807,478 | 100.00 |

(4) 担保別貸付金残高内訳

平成30年3月31日現在

| 受入担保の種類 | 残高(百万円) | 構成割合(%) |
|---------|---------|---------|
| 有価証券 | 5,623 | 0.70 |
| うち株式 | - | - |
| 債権 | 11,809 | 1.46 |
| うち預金 | - | - |
| 商品 | - | - |
| 不動産 | 14,700 | 1.82 |
| 財団 | - | - |
| その他 | 111,360 | 13.79 |
| 計 | 143,493 | 17.77 |
| 保証 | 5,557 | 0.69 |
| 無担保 | 658,428 | 81.54 |
| 合計 | 807,478 | 100.00 |

(5) 期間別貸付金残高内訳

平成30年3月31日現在

| 期間別 | 件数(件) | 構成割合(%) | 残高(百万円) | 構成割合(%) |
|-----------|--------|---------|---------|---------|
| 1年以下 | 437 | 3.12 | 161,505 | 20.00 |
| 1年超5年以下 | 12,224 | 87.18 | 197,348 | 24.44 |
| 5年超10年以下 | 1,267 | 9.03 | 327,456 | 40.56 |
| 10年超15年以下 | 54 | 0.39 | 84,953 | 10.52 |
| 15年超20年以下 | 33 | 0.24 | 15,132 | 1.87 |
| 20年超25年以下 | 1 | 0.01 | 39 | 0.00 |
| 25年超 | 4 | 0.03 | 21,041 | 2.61 |
| 合計 | 14,020 | 100.00 | 807,478 | 100.00 |
| 一件当たり平均期間 | | | | 5.98年 |

(注) 期間は、約定期間によっております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【賃貸資産】

(1) 設備投資等の概要

当社グループ(当社及び連結子会社)における当連結会計年度の賃貸資産設備投資(無形固定資産を含む)の内訳は、次のとおりであります。

| 区分 | 取得価額(百万円) |
|----------------|-----------|
| オペレーティング・リース資産 | 168,905 |

(注) ファイナンス・リース取引終了後の再リース契約の締結により、リース投資資産から振替えた資産を含んでおりません。

当連結会計年度において、賃貸取引の終了等により売却・除却した資産の内訳は次のとおりであります。

| 区分 | 帳簿価額(百万円) |
|----------------|-----------|
| オペレーティング・リース資産 | 63,706 |

(2) 主要な設備の状況

当社グループ(当社及び連結子会社)における賃貸資産の内訳は、次のとおりであります。

| 区分 | 帳簿価額(百万円) |
|----------------|-----------|
| オペレーティング・リース資産 | 637,811 |

(3) 設備の新設、除去等の計画

重要な設備の新設・除却等の計画はありません。なお、取引先との契約等に基づき、オペレーティング・リースに係る資産の取得及び除却等を随時行っております。

2 【その他の営業資産】

(1) 設備投資等の概要

当社グループ(当社及び連結子会社)における当連結会計年度のその他の営業資産設備投資の内訳は、次のとおりであります。

| 区分 | 取得価額(百万円) |
|--------------|-----------|
| 太陽光発電事業に係る資産 | 43,644 |

当連結会計年度において、事業の終了等により売却・除却した資産の内訳は次のとおりであります。

| 区分 | 取得価額(百万円) |
|--------------|-----------|
| 太陽光発電事業に係る資産 | 1,647 |

(2) 主要な設備の状況

当社グループ(当社及び連結子会社)におけるその他の営業資産の内訳は、次のとおりであります。

| 区分 | 帳簿価額(百万円) |
|--------------|-----------|
| 太陽光発電事業に係る資産 | 68,868 |

(3) 設備の新設、除去等の計画

当連結会計年度後1年間のその他の営業資産設備投資計画は次のとおりであります。なお、除却については通常の営業活動の範囲内での発生を予定しており、重要な計画はありません。

| 区分 | 投資予定金額(百万円) | 資金調達方法 |
|--------------|-------------|-------------------------|
| 太陽光発電事業に係る資産 | 22,288 | 自己資金、借入金等及び外部からの出資による調達 |

3 【自社用資産】

(1) 設備投資等の概要

特記すべき事項はありません。

(2) 主要な設備の状況

提出会社

平成30年3月31日現在

| 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の 内容 | 帳簿価額 | | | | 従業員数 (人) |
|------------------|-------------------------------|-----------|----------------------|---------------|----------------------|-------------|---------------|
| | | | 建物及び 構築物 (百万円) | 器具備品 (百万円) | リース 賃借資産 (百万円) | 合計 (百万円) | |
| 本社 (東京都千代田区) | 賃貸・割賦事業 ファイナンス事業 その他の事業 | 事務所 | 72 | 62 | 23 | 158 | 739 (27) |
| 支店 (大阪市中央区ほか) | 同上 | 事務所 | 135 | 171 | 51 | 358 | 277 (42) |

- (注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。
2. 上記事務所はすべて賃借しており、その賃借料は年間 1,357百万円であります。
3. 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数は年間の平均人員数を()外数で記載しております。
4. リース賃借資産の一部は、連結子会社から賃借しております。

国内子会社

平成30年3月31日現在

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の 内容 | 帳簿価額 | | | | | 従業員数 (人) |
|-----------------------------|---------------------------|-------------------|-----------|----------------------|----------------|----------------------|----------------------|-------------|-------------|
| | | | | 建物及び 構築物 (百万円) | 器具備品等 (百万円) | 土地 (百万円) (面積㎡) | リース 賃借資産 (百万円) | 合計 (百万円) | |
| ニッポンレンタ カーサービス 株式会社 | 本社・営業店 (東京都千代田 区ほか) | 賃貸・割賦事業 | 事務所 等 | 4,430 | 919 | 6,202 (85,322) | 433 | 11,985 | 2,403 |
| 日本カーソ リューションズ 株式会社 | 本社・営業店 (東京都千代田 区ほか) | 賃貸・割賦事業 その他の事業 | 事務所 | 308 | 17 | - | 154 | 480 | 808 |
| TCプロパティ ソリューションズ 株式会社 | 寮社宅 (東京都調布 市) | その他の事業 | 寮社宅 | 65 | 0 | 425 (1,018) | - | 490 | 4 |

(注) ニッポンレンタカーサービス株式会社の数値は同社の連結決算数値です。

在外子会社

平成30年3月31日現在

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の 内容 | 帳簿価額 | | | | | 従業員数 (人) |
|----------------------|---------------|--------------|-----------|----------------------|----------------|----------------------|----------------------|-------------|-------------|
| | | | | 建物及び 構築物 (百万円) | 器具備品等 (百万円) | 土地 (百万円) (面積㎡) | リース 賃借資産 (百万円) | 合計 (百万円) | |
| CSI Leasing, Inc. | 本社等 (米国ほか) | 賃貸・割賦事業 | 事務所 等 | 1,553 | 1,562 | 188 (109,221) | - | 3,304 | 1,050 |

(注) CSI Leasing, Inc.の数値は同社の連結決算数値です。

(3) 設備の新設、除去等の計画

重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 400,000,000 |
| 計 | 400,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成30年6月25日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|-----------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|---|
| 普通株式 | 106,624,620 | 106,624,620 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式(単元株式数100株) |
| 計 | 106,624,620 | 106,624,620 | - | - |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

| 決議年月日 | 平成24年9月28日 | 平成25年9月2日 |
|-------------------------------------|--|--|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社取締役 (社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 (取締役兼務を除く) 22名 | 当社取締役 (社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 (取締役兼務を除く) 20名 |
| 新株予約権の数 | 681個 [627個] (注)1 | 385個 [355個] (注)1 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 | 普通株式 68,100株 [62,700株] (注)1 | 普通株式 38,500株 [35,500株] (注)1 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 | 1株あたり 1円 | 1株あたり 1円 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成24年10月16日～ 平成54年10月15日 | 平成25年9月25日～ 平成55年9月24日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 1,307円 資本組入額 654円 (注)2 | 発行価格 3,039円 資本組入額 1,520円 (注)2 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)3 | |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。 | |
| 組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | (注)5 | |

当事業年度の末日(平成30年3月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(平成30年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

| 決議年月日 | 平成26年9月8日 | 平成27年10月5日 |
|-------------------------------------|--|--|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社取締役 (社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 (取締役兼務を除く) 19名 当社従業員 6名 | 当社取締役 (社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 (取締役兼務を除く) 20名 当社従業員 7名 |
| 新株予約権の数 | 558個 [513個] (注)1 | 620個 [570個] (注)1 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 | 普通株式 55,800株 [51,300株] (注)1 | 普通株式 62,000株 [57,000株] (注)1 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 | 1株あたり 1円 | 1株あたり 1円 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成26年9月30日～ 平成56年9月29日 | 平成27年10月27日～ 平成57年10月26日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 2,717円 資本組入額 1,359円 (注)2 | 発行価格 3,806円 資本組入額 1,903円 (注)2 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)4 | |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。 | |
| 組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | (注)5 | |

当事業年度の末日(平成30年3月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(平成30年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

| 決議年月日 | 平成28年9月5日 | 平成29年9月12日 |
|-------------------------------------|--|--|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社取締役 (社外取締役を除く) 8名 当社執行役員 (取締役兼務を除く) 19名 当社従業員 7名 | 当社取締役 (社外取締役を除く) 8名 当社執行役員 (取締役兼務を除く) 17名 当社従業員 7名 |
| 新株予約権の数 | 756個 [709個] (注)1 | 757個 [718個] (注)1 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 | 普通株式 75,600株 [70,900株] (注)1 | 普通株式 75,700株 [71,800株] (注)1 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 | 1株あたり 1円 | 1株あたり 1円 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成28年9月22日～ 平成58年9月21日 | 平成29年9月28日～ 平成59年9月27日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 3,407円 資本組入額 1,704円 (注)2 | 発行価格 4,568円 資本組入額 2,284円 (注)2 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)4 | |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。 | |
| 組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | (注)5 | |

当事業年度の末日(平成30年3月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(平成30年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注) 1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式の数は、当社普通株式100株とする。

割当日後に、当社が当社普通株式につき株式分割(当社普通株式の株式無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合、新株予約権のうち行使されていないものについては、次の算式により付与株式数を調整するものとする。調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式の分割・株式の併合の比率

割当日以降、当社が合併又は会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

(注) 2. 新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金及び資本準備金

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生ずる場合は、その端数を切り上げた額とする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。但し、新株予約権の行使に対して、自己株式を交付するときは資本金及び資本準備金への組入れ額はない。

(注) 3. 新株予約権を行使することができる期間内において、当社の取締役、監査役、及び執行役員のいずれの地位も喪失したその翌日から10日(但し、10日目が当社の休日にあたる場合は、その前営業日を最終日とする。)を経過するまでの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使することができるものとする。

上記にかかわらず、当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき、当社株主総会で承認された場合(株主総会が不要の場合は、当社取締役会決議がなされた場合)、当該承認日の翌日から30日に限り新株予約権を行使できるものとする。但し、下記(注)5に定める組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除くものとする。

その他の条件については、当社と各対象者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

(注) 4. 新株予約権を行使することができる期間内において、当社の取締役、監査役、執行役員及び従業員のいずれの地位も喪失したその翌日から10日(但し、10日目が当社の休日にあたる場合は、その前営業日を最終日とする。)を経過するまでの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使することができるものとする。

上記にかかわらず、当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき、当社株主総会で承認された場合(株主総会が不要の場合は、当社取締役会決議がなされた場合)、当該承認日の翌日から30日に限り新株予約権を行使できるものとする。但し、下記(注)5に定める組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除くものとする。

その他の条件については、当社と各対象者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

(注) 5. 当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割若しくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、株式交換若しくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において、新株予約権原簿に記載された残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。但し、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限る。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記(注)1に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

新株予約権を行使することができる期間

新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
(注)2に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の行使条件

(注)3または(注)4に準じて決定する。

新株予約権の取得条項

次の各号に掲げる事項が株主総会(株主総会の承認を要しない場合は取締役会)で承認されたときには、未行使の新株予約権については当社が無償で取得することができる。

- () 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
- () 当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案
- () 当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案
- () 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- () 新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

上記のほか、当社と新株予約権の割当てを受ける者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定める事由が発生したときには、取締役会決議により当社が無償で取得し消却することができるものとする。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金 増減額 (百万円) | 資本金 残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|------------------|------------------------|-----------------------|---------------------|--------------------|-----------------------|----------------------|
| 平成21年4月1日 (注) | 54,498 | 106,624 | 22,363 | 34,231 | - | 5,537 |

(注) 平成21年4月1日付の東京リース株式会社との合併により、発行済株式総数が54,498,620株、資本金が22,363,875,000円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数 100株) | | | | | | | 単元未満 株式の状況 (株) | |
|-----------------|---------------------|---------|--------------|------------|---------|------|-----------|----------------------|--------|
| | 政府及び 地方公共 団体 | 金融機関 | 金融商品 取引業者 | その他の 法人 | 外国法人等 | | 個人 その他 | | 計 |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | - | 54 | 21 | 137 | 277 | 7 | 7,168 | 7,664 | - |
| 所有株式数 (単元) | - | 274,904 | 7,314 | 599,817 | 125,860 | 101 | 57,353 | 1,065,349 | 89,720 |
| 所有株式数 の割合(%) | - | 25.80 | 0.69 | 56.30 | 11.81 | 0.01 | 5.39 | 100.00 | - |

(注) 自己株式1,036,352株は、「個人その他」に10,363単元、「単元未満株式の状況」に52株含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%) |
|---|--------------------|---------------|---|
| 伊藤忠商事株式会社 | 東京都港区北青山二丁目5番1号 | 26,656 | 25.25 |
| 日本土地建物株式会社 | 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 | 15,712 | 14.88 |
| ケイ・エス・オー株式会社 | 東京都千代田区九段北四丁目1番10号 | 10,306 | 9.76 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) | 東京都中央区晴海一丁目8番11号 | 6,455 | 6.11 |
| 株式会社みずほ銀行 | 東京都千代田区大手町一丁目5番5号 | 4,688 | 4.44 |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 東京都港区浜松町二丁目11番3号 | 2,288 | 2.17 |
| 清和総合建物株式会社 | 東京都港区芝大門一丁目1番23号 | 2,286 | 2.17 |
| 日本生命保険相互会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 | 2,228 | 2.11 |
| みずほ信託銀行株式会社 退職給 付信託 オリエントコーポレー ション口 再信託受託者 資産管 理サービス信託銀行株式会社 | 東京都中央区晴海一丁目8番12号 | 1,900 | 1.80 |
| 株式会社コウシュウ建物 | 東京都港区芝大門一丁目2番13号 | 1,716 | 1.63 |
| 計 | - | 74,237 | 70.31 |

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|------------------|-----------|---------------------------------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 1,036,300 | - | 「1(1) 発行済株式」の「内容」欄に記載のとおりであります。 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 105,498,600 | 1,054,986 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 89,720 | - | 一単元(100株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 106,624,620 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 1,054,986 | - |

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|--------------|-----------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 東京センチュリー株式会社 | 東京都千代田区神田練堀町3番地 | 1,036,300 | - | 1,036,300 | 0.97 |
| 計 | - | 1,036,300 | - | 1,036,300 | 0.97 |

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(円) |
|-----------------|--------|-----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 1,577 | 8,001,590 |
| 当期間における取得自己株式 | 42 | 277,200 |

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|-----------------------------|-----------|------------|-----------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| 合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| その他 (新株予約権の権利行使) | 32,400 | 32,400 | 26,500 | 26,500 |
| (単元未満株式の売渡請求による売渡) | 58 | 219,530 | - | - |
| 保有自己株式数 | 1,036,352 | - | 1,009,894 | - |

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使及び単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使による減少、並びに単元未満株式の買取り及び売渡による増減は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社グループは、継続的な業容の拡大や企業体質の強化に向けた取り組みが企業価値の増大につながるものと考え、それらを実現するために内部留保の充実を図るとともに、株主の皆さまに対しましては、長期的かつ安定的に利益還元を行うことを基本方針としております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととしております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては期初に年間1株当たり105円（中間配当金52円、期末配当金53円）と予想させていただきましたが、株主の皆さまの日頃のご支援にお応えするため、期末配当につきましては、期初の期末配当予想に対して1株当たり9円の増配を実施し1株当たり62円とさせていただきます、年間1株当たり114円（中間配当金52円、期末配当金62円）とさせていただきます。

なお、内部留保資金につきましては、良質な営業資産の購入資金に充当するなど今後の経営に有効に活用してまいります。

当事業年度に係る剰余金の配当は次のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 |
|------------------------|----------|----------|
| 平成29年11月6日 取締役会決議 | 5,490百万円 | 52円 |
| 平成30年6月25日 定時株主総会決議 | 6,546百万円 | 62円 |

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

| 回次 | 第45期 | 第46期 | 第47期 | 第48期 | 第49期 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 決算年月 | 平成26年3月 | 平成27年3月 | 平成28年3月 | 平成29年3月 | 平成30年3月 |
| 最高(円) | 3,660 | 3,830 | 4,670 | 4,155 | 6,640 |
| 最低(円) | 2,281 | 2,501 | 3,295 | 3,160 | 3,635 |

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成29年10月 | 11月 | 12月 | 平成30年1月 | 2月 | 3月 |
|-------|----------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 最高(円) | 5,240 | 5,110 | 5,550 | 6,290 | 6,320 | 6,640 |
| 最低(円) | 4,900 | 4,660 | 5,020 | 5,440 | 5,560 | 5,830 |

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性17名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------------|----|---------|-------------|--|------|---------------|
| 代表取締役 会長 | | 丹 波 俊 人 | 昭和25年3月13日生 | 昭和47年4月 伊藤忠商事株式会社入社 平成13年6月 同社執行役員 平成15年4月 同社常務執行役員生活資材・化学 品カンパニープレジデント 平成15年6月 同社代表取締役常務取締役 平成17年4月 同社代表取締役専務取締役 平成20年4月 同社代表取締役副社長 社長補佐 海外分掌役員 平成22年4月 同社代表取締役副社長執行役員 社長補佐(LINE s分掌) 平成23年6月 当社代表取締役会長(現任) 平成28年6月 富士電機株式会社社外取締役(現 任) | (注)3 | 8 |
| 代表取締役 社長 | | 浅 田 俊 一 | 昭和24年3月22日生 | 昭和47年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成12年6月 同行執行役員市場企画室長 平成14年4月 株式会社みずほコーポレート銀行 常務執行役員営業担当役員 平成16年4月 株式会社みずほ銀行常務取締役 平成17年6月 株式会社みずほフィナンシャルグ ループ取締役副社長内部監査部門 長 平成19年6月 東京リース株式会社代表取締役副 社長 平成20年4月 同社代表取締役社長 平成21年4月 当社代表取締役社長(現任) | (注)3 | 23 |
| 取締役 | | 清 水 啓 典 | 昭和23年2月9日生 | 昭和52年3月 一橋大学大学院経済学研究科博士 課程単位修得 平成元年4月 一橋大学商学部教授 平成12年4月 一橋大学大学院商学研究科教授 平成15年4月 一橋大学副学長 平成23年4月 一橋大学名誉教授(現任) 一橋大学大学院商学研究科特任教 授 平成23年6月 当社取締役(現任) | (注)3 | 2 |
| 取締役 | | 吉 田 政 雄 | 昭和24年2月5日生 | 昭和47年4月 古河電気工業株式会社入社 平成14年6月 同社取締役経理部長 平成15年6月 同社執行役員常務 経理部長兼経 営企画室長 平成16年6月 同社常務取締役 執行役員常務CFO 兼経営企画室長 平成18年6月 同社専務取締役 執行役員専務 CMO兼輸出管理室長兼工ネル ギー・産業機材カンパニー長 平成20年6月 同社代表取締役社長 COO 平成21年6月 同社代表取締役社長 平成24年4月 同社代表取締役会長 平成28年4月 同社取締役会長 平成29年4月 同社取締役 平成29年6月 当社取締役(現任) | (注)3 | 0 |
| 取締役 | | 檜 垣 幸 人 | 昭和37年7月12日生 | 昭和60年4月 今治造船株式会社入社 平成10年6月 同社取締役社長室長 平成12年6月 同社常務取締役 平成16年6月 同社専務取締役 専務執行役員営 業本部長 平成17年6月 同社代表取締役専務取締役 専務 執行役員 平成17年10月 同社代表取締役社長 社長執行役 員(現任) 平成29年6月 当社取締役(現任) (他の法人等の代表状況) 今治造船株式会社代表取締役社長 正栄汽船株式会社代表取締役社長 | (注)3 | - |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|--------------------|----------------|-------|-------------|--|-------|---------------|
| 取締役 | | 中村 明雄 | 昭和30年7月21日生 | 昭和53年4月 大蔵省（現財務省）入省 平成17年7月 国税庁福岡国税局長 平成18年7月 財務省理財局審議官 平成19年7月 同省理財局次長 平成21年7月 国税庁大阪国税局長 平成22年7月 財務省理財局長 平成23年10月 株式会社損保ジャパン研究所（現 損保ジャパン日本興亜総合研究所 株式会社）理事長 平成25年3月 弁護士登録、田辺総合法律事務所 入所（現任） 平成27年6月 当社取締役（平成29年6月退任） 平成28年6月 株式会社エヌ・ティ・ティ・デー タ常勤監査役 平成30年6月 当社取締役（現任） | (注) 3 | 0 |
| 取締役 執行役員 副社長 | オート営業 推進部門長 | 野上 誠 | 昭和28年8月15日生 | 昭和51年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成17年4月 株式会社みずほ銀行執行役員 渋谷中央支店長 平成19年4月 同行常務執行役員 平成20年6月 東京リース株式会社取締役 平成21年4月 当社取締役 平成22年4月 当社取締役専務執行役員首都圏エ リア営業部門長 平成22年6月 当社取締役専務執行役員首都圏エ リア営業部門長兼西日本エリア営 業部門長 平成23年6月 当社取締役執行役員副社長 首都圏エリア・東日本エリア・西 日本エリア営業部門 分掌 営業企画・推進部門長兼首都圏エ リア営業部門長 平成25年4月 当社取締役執行役員副社長 首都圏営業部門、エリア営業部門 担当 営業企画・推進部門長兼首都圏営 業部門長 平成27年4月 当社取締役執行役員副社長 営業企画・推進部門、首都圏営業 部門、エリア営業部門管掌 平成28年4月 当社取締役執行役員副社長 営業企画・推進部門、首都圏営業 部門、エリア営業部門管掌 オート事業部門長 平成29年4月 当社取締役執行役員副社長 リース営業推進部門、首都圏営業 部門、エリア営業部門管掌 オート営業推進部門長 平成30年4月 当社取締役執行役員副社長 オート営業推進部門長（現任） (他の法人等の代表状況) 日本カーソリューションズ株式会社代表取締役社長 | (注) 3 | 10 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|---------------|--|---------|-------------|---|------|---------------|
| 取締役 専務執行役員 | コーポレート営業第一・第二・第三部門、情報機器営業部門管掌 コーポレート営業第三部門長 | 雪 矢 正 隆 | 昭和31年5月8日生 | 昭和54年4月 伊藤忠商事株式会社入社 平成16年4月 同社金融・不動産・保険・物流経営企画部長兼金融・不動産・保険・物流カンパニーチーフインフォメーションオフィサー 平成18年4月 同社金融・不動産・保険・物流カンパニー金融部門長 平成20年4月 同社執行役員金融・不動産・保険・物流カンパニー金融・保険部門長 平成23年6月 当社取締役常務執行役員コーポレート営業第一部門長補佐兼ファイナンス営業部門長補佐 平成24年4月 当社取締役常務執行役員不動産ファイナンス部門管掌 平成25年4月 当社取締役常務執行役員コーポレート営業第三部門長 平成27年4月 当社取締役専務執行役員コーポレート営業第一・第二・第三部門、情報機器営業部門管掌、コーポレート営業第三部門長(現任) | (注)3 | 4 |
| 取締役 専務執行役員 | 経営企画部門長兼経理部門長 | 馬 場 高 一 | 昭和36年5月14日生 | 昭和60年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成22年4月 株式会社みずほコーポレート銀行新宿営業部長 平成24年4月 同行台北支店長 平成25年7月 株式会社みずほ銀行台北支店長 平成26年4月 同行執行役員台北支店長 平成26年4月 同行執行役員大企業ユニット長付審議役 平成26年6月 当社執行役員経営企画部長兼事務システム部門長補佐 平成27年4月 当社執行役員システム部門長兼経営企画部長 平成28年4月 当社常務執行役員経営企画部門長兼経理部門長兼経営企画部長 平成29年4月 当社常務執行役員経営企画部門長兼経理部門長 平成30年4月 当社専務執行役員経営企画部門長兼経理部門長 平成30年6月 当社取締役専務執行役員経営企画部門長兼経理部門長(現任) | (注)3 | 0 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|---------------|---|-------|-------------|---|------|---------------|
| 取締役 常務執行役員 | システム部門長兼事務部門長兼コーポレート営業第二部門長 | 玉野 治 | 昭和35年1月26日生 | 昭和60年4月 東京リース株式会社入社 平成19年4月 同社広報IR室長 平成20年5月 同社経営企画部長 平成22年10月 当社営業第五部長 平成25年4月 当社執行役員コーポレート営業第二部門長補佐 平成26年4月 当社執行役員コーポレート営業第二部門長 平成27年4月 当社執行役員コーポレート営業第二部門長兼事務部門長補佐 平成27年6月 当社取締役執行役員コーポレート営業第二部門長兼事務部門長補佐 平成29年4月 当社取締役執行役員コーポレート営業第二部門長兼事務部門長補佐兼資産営業部門長補佐 平成29年6月 当社取締役執行役員コーポレート営業第二部門長兼資産営業部門長兼事務部門長補佐 平成30年4月 当社取締役常務執行役員システム部門長兼事務部門長兼コーポレート営業第二部門長兼資産営業部門長 平成30年6月 当社取締役常務執行役員システム部門長兼事務部門長兼コーポレート営業第二部門長(現任) | (注)3 | 14 |
| 取締役 常務執行役員 | 監査部担当リスク管理部門長補佐 | 水野 誠一 | 昭和35年6月9日生 | 昭和59年4月 日本生命保険相互会社入社 平成21年3月 同社財務第三部財務部長 平成23年3月 同社不動産部長 平成26年3月 同社支配人代理店営業本部代理店営業副本部長兼金融法人本部金融法人副本部長 平成27年6月 当社取締役執行役員監査部担当 平成28年10月 当社取締役執行役員監査部担当リスク管理部門長補佐 平成30年4月 当社取締役常務執行役員監査部担当リスク管理部門長補佐(現任) | (注)3 | 2 |
| 取締役 常務執行役員 | 首都圏営業部門、エリア営業部門管掌リース営業推進部門長兼情報機器営業部門長兼資産営業部門長 | 成瀬 明弘 | 昭和38年1月13日生 | 昭和60年4月 当社入社 平成17年4月 当社京都支店長 平成21年4月 当社事務統括第一部長 平成22年10月 当社事務統括部長 平成23年4月 当社営業統括部長 平成25年4月 当社執行役員営業統括部長 平成27年4月 当社執行役員営業企画・推進部門長兼営業統括部長 平成27年6月 当社取締役執行役員営業企画・推進部門長兼営業統括部長 平成29年4月 当社取締役執行役員リース営業推進部門長兼情報機器営業部門長 平成30年4月 当社取締役常務執行役員首都圏営業部門、エリア営業部門管掌、リース営業推進部門長兼情報機器営業部門長 平成30年6月 当社取締役常務執行役員首都圏営業部門、エリア営業部門管掌、リース営業推進部門長兼情報機器営業部門長兼資産営業部門長(現任) (他の法人等の代表状況) 株式会社TRY代表取締役社長 | (注)3 | 2 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------------|---|-----------|-------------|---|------|---------------|
| 取締役 執行役員 | 審査部門長 兼チーフ・ コンプライ アンス・オ フィサー兼 リスク管理 部門長兼法 務部門長 | 中 川 耕 | 昭和34年8月26日生 | 昭和57年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成19年4月 株式会社みずほコーポレート銀行 外為営業部長 平成22年5月 当社営業第二部長 平成22年10月 当社営業第四部長 平成25年4月 当社オート事業推進部長 平成25年10月 当社審査第三部長 平成29年4月 当社執行役員審査部門長兼チ ーフ・コンプライアンス・オフィ サー（CCO）兼リスク管理部門長 兼法務部門長兼審査第三部長 平成29年11月 当社執行役員審査部門長兼チ ーフ・コンプライアンス・オフィ サー（CCO）兼リスク管理部門長 兼法務部門長 平成30年6月 当社取締役執行役員審査部門長兼 チーフ・コンプライアンス・オ フィサー（CCO）兼リスク管理部 門長兼法務部門長（現任） | (注)3 | 0 |
| 常勤監査役 | | 岡 田 太 | 昭和31年3月10日生 | 昭和55年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成19年4月 みずほ証券株式会社執行役員投資 銀行第1グループ副グループ長 平成20年4月 同社常務執行役員アジア委員会副 委員長 平成21年4月 同社常務執行役員アジア委員会副 委員長兼投資銀行グループ営業担 当 平成21年5月 同社常務執行役員投資銀行グル ープ担当 平成24年6月 当社常勤監査役（現任） | (注)4 | 1 |
| 常勤監査役 | | 野 崎 康 嘉 | 昭和33年11月9日生 | 昭和56年4月 当社入社 平成20年4月 当社法務コンプライアンス部長 平成22年4月 当社法務部長 平成26年4月 当社法務部長兼管理部長 平成27年4月 当社法務部長 平成28年4月 当社法務部付部長 平成28年6月 当社常勤監査役（現任） | (注)4 | 3 |
| 常勤監査役 | | 池 田 裕 一 郎 | 昭和28年4月10生 | 昭和52年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成17年4月 株式会社みずほコーポレート銀行 執行役員トレーディング部長 平成18年3月 みずほ証券株式会社常務執行役員 国際営業推進グループ長 平成19年4月 同社常務執行役員グローバル投資 銀行部門国際営業グループ 平成20年6月 東京リース株式会社常務執行役員 平成21年4月 当社常務執行役員ソリューション 支援部門長 平成22年4月 当社常務執行役員財務部門長 平成25年4月 当社専務執行役員財務部門長 平成30年4月 当社顧問 平成30年6月 当社常勤監査役（現任） | (注)5 | 19 |
| 監査役 | | 藤 枝 昌 雄 | 昭和35年2月26生 | 平成6年4月 太田昭和アーンストアンドヤング 株式会社（現EY税理士法人）入社 平成15年10月 同社パートナー 平成23年10月 藤枝昌雄税理士事務所 平成30年6月 当社監査役（現任） (他の法人等の代表状況) 藤枝昌雄税理士事務所代表 | (注)5 | - |
| 計 | | | | | | 87 |

- (注) 1. 取締役清水啓典、吉田政雄、檜垣幸人、中村明雄の4氏は、社外取締役であります。
2. 監査役岡田太、藤枝昌雄の両氏は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成30年6月25日開催の定時株主総会における選任後、1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 監査役岡田太、野崎康嘉の両氏の任期は、平成28年6月24日開催の定時株主総会における選任後、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 監査役池田裕一郎、藤枝昌雄の両氏の任期は、平成30年6月25日開催の定時株主総会における選任後、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
6. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の社外監査役1名を選任しております。
補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

| 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 所有株式数 (千株) |
|---------|-------------|--|---------------|
| 岩 永 利 彦 | 昭和40年8月12日生 | 平成2年4月 ソニー株式会社入社 平成18年10月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 内田・鯨島法律事務所入所 平成21年9月 岩永総合法律事務所(現任) (他の法人等の代表状況) 岩永総合法律事務所代表 | - |

7. 当社は、経営戦略決定の迅速化と監督体制・業務執行体制の強化を目的として、執行役員制度を導入しております。
- なお、執行役員の選任及び解任は取締役会において決議し、その任期は取締役会において決定された発令日を就任日とし、就任後に開催される定時株主総会の時までであります。
- 執行役員は、野上誠(執行役員副社長)、中島弘一(執行役員副社長)、雪矢正隆(専務執行役員)、馬場高一(専務執行役員)、吉野康司(専務執行役員)、中居陽一郎(専務執行役員)、玉野治(常務執行役員)、水野誠一(常務執行役員)、成瀬明弘(常務執行役員)、村井健二(常務執行役員)、上手隆志(常務執行役員)、野村吉夫(常務執行役員)、原真帆子(常務執行役員)、高島俊史(常務執行役員)、中川耕(執行役員)、柴田和広(執行役員)、赤松知之(執行役員)、小澤秀治(執行役員)、北村登志夫(執行役員)、山本達也(執行役員)、荻野広明(執行役員)、符祥盛(執行役員)、平崎達也(執行役員)、米津隆史(執行役員)、小塚公雄(執行役員)、筒井純二(執行役員)、植田吉洋(執行役員)、田村利彦(執行役員)、永田勝巳(執行役員)の29名(うち女性1名)であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

企業価値の最大化には、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが重要な経営課題であるとの認識のもと、経営環境の変化に迅速かつ的確な判断を可能とし、健全で透明性の高い経営体制の実現に取り組んでおります。

1) 企業統治の体制

当社は経営戦略決定の迅速化と監督体制・業務執行体制の更なる強化を目的として執行役員制度を導入しております。なお、執行役員29名のうち、女性1名を登用しております。また、当社はコーポレート・ガバナンスを実現・確保するために以下の機関を設置しており、各機関の機能により適正な企業経営が行えるものと判断し、当該ガバナンス体制を採用しております。

会社の機関の内容

・取締役会

取締役会は取締役13名で構成され、4名が会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。取締役会は当社及び当社グループの経営方針、経営戦略、事業計画、その他経営に関する重要事項及び法令・定款・取締役会規則で定められた事項につき審議、意思決定を行うとともに、取締役及び執行役員の職務の執行を監督しております。平成29年度における取締役会は、合計13回開催しております。

なお、当社定款の定めにより、取締役の員数は18名以内となっております。

・監査役会

当社は、監査役会設置会社であります。監査役会は4名（内、常勤監査役3名）で構成され、2名が会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。監査役会は定期的に開催され監査の独立性を確保のうえ、取締役及び執行役員の職務執行をはじめ企業活動の適法・妥当性について公正な監督機能の徹底に努めております。平成29年度における監査役会は、合計9回開催しております。

・指名委員会

当社は、取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を主要な構成員とする指名委員会を設置しております。本委員会は、取締役・監査役候補等の指名等に関する事項について協議を行い、取締役会に答申いたします。

・報酬委員会

当社は、取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を主要な構成員とする報酬委員会を設置しております。本委員会は、取締役等の報酬制度の設計、方針等に関する事項について協議を行い、取締役会に答申いたします。

なお、指名委員会及び本委員会は、従来の指名・報酬委員会から取締役会の更なる実効性確保に資することを目的として、平成30年度より機関としての機能を分化しております。平成29年度における指名・報酬委員会は、合計1回開催しております。

・経営会議

当社は、社長及び社長の指名する役員を構成員とする経営会議を設置しております。本会議は、原則週1回開催しており、社長を議長とし、業務執行に関する特に重要な事項を審議し、当社グループ全体の意思決定を行っております。

・案件審査会議

当社は、社長及び社長の指名する役員を構成員とする案件審査会議を設置しております。本会議は、原則週1回開催しており、審査部担当の役員を議長とし、当社及び当社グループ会社における大口の営業取引及び複雑なリスク判断が要求される営業取引について審議を行い、当該取引に対する当社の意思決定を行っております。

・ALM委員会

当社は、当社の資産・負債が金利や為替などの変動により被るリスクを把握し、極小化するため、ALM委員会を設置しております。本委員会では、社長を委員長とし、市場リスク、流動性リスク等の管理に関する事項について審議を行い、経営会議に答申しております。

・総合リスク管理委員会

当社は、当社の直面するあらゆるリスクに対処するため、総合リスク管理委員会を設置しております。本委員会では、総合リスク管理部担当の役員を委員長とし、リスク管理体制の構築から各種リスクの計量手法などについて審議を行うとともに、当社のリスク状況について定期的に計測し、経営会議に答申しております。

・内部統制委員会

当社は、内部統制を有効に機能させるため、内部統制委員会を設置しております。本委員会では、監査部担当の役員を委員長とし、財務報告内部統制の有効性評価や評価範囲など内部統制全般について審議を行い、経営会議に答申しております。

・会計監査

新日本有限責任監査法人を会計監査人に選任しております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名は以下のとおりであります。

| 公認会計士の氏名等 | 所属する監査法人名 |
|-----------------------|-------------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 森重 俊寛 | 新日本有限責任監査法人 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 石川 琢也 | |

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

なお、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名、その他21名であります。

・内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

監査役会において、会計監査人より四半期決算レビュー及び期末決算監査結果並びにその職務執行状況及び体制について報告を受けて意見交換を行っております。

また、全監査役は取締役会に出席し、監査部より監査計画及び内部監査結果並びに内部統制システムの整備・運用状況(財務報告にかかる内部統制評価結果を含む)の報告を受けております。

さらに、社外監査役を含む常勤監査役は、監査部と原則、四半期毎に会議を開催して情報交換を行っており、これらの情報のうち重要なものは、監査役会で他の社外監査役へ報告を行っております。

2) 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

内部統制システムの整備に関する基本方針

当社は、すべての役職員が職務を執行するにあたっての基本方針として、経営理念を以下のとおり定めております。

『経営理念』

「東京センチュリーグループは、
高い専門性と独自性を持つ金融・サービス企業として、
事業の成長に挑戦するお客さまとともに、
環境に配慮した循環型経済社会の実現に貢献します。」

当社は、この経営理念の下、適正な業務執行のための体制を整備し、運用していくことが重要な経営の責務であると認識し、以下のとおり内部統制システムを構築しております。

今後とも、内外環境の変化に応じ、これを整備してまいります。

内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

・取締役および従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、企業が存立を継続するためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識のもと、すべての役職員が公正で高い倫理観に基づいて行動し、広く社会から信頼される経営体制の確立に以下のとおり努めております。

- () チーフ・コンプライアンス・オフィサーと総合リスク管理部コンプライアンス室を中心に、「コンプライアンス・プログラム」に従ったコンプライアンスの推進、教育、研修の実施を行っております。
- () すべての役職員は、企業行動規範の基本原則である「コンプライアンス・マニュアル」を通じてその精神を理解し、一層公正で透明な企業風土の構築に努めております。
- () コンプライアンスに関する相談や不正行為等の通報のために、常勤監査役および社外の法律事務所を含めた複数の窓口を設置し、通報者の保護を徹底した内部通報制度を運用しております。
- () 反社会的勢力からの不当要求に対しては、組織的にかつ毅然とした対応をすることを基本的な心構えとし、反社会的勢力との一切の関係を遮断しております。

また、当社の取締役会は、社外取締役を含む取締役で構成され、法令・定款・取締役会規則で定められた事項につき審議、意思決定を行うとともに、取締役および執行役員の職務の執行を監督しております。さらに、当社は、社長直轄の監査部を独立した組織として設置し、当社およびグループ会社に対し定期的実施する内部監査、内部統制評価を通じて、会社の業務実施状況の実態を把握し、すべての業務が法令、定款および社内諸規程に準拠して適正・妥当かつ合理的に行われているか、また、会社の制度・組織・諸規程が適正・妥当であるかを公正不偏に調査・検証することにより、会社財産の保全ならびに経営効率の向上に努め、監査結果を社長(経営会議)および取締役会に報告しております。

・取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

当社は、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や、各取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等、取締役の職務の執行に係る情報を適正に記録し、法令および「文書取扱規程」等に基づき、定められた期間保存しております。

また、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格であるISO27001の認証を取得し、規格の求める水準を維持して情報の管理を行っており、取締役および監査役が必要な情報を入手できる体制を構築しております。

・損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、様々な損失の危険に対して、危険の大小や発生可能性に応じ、事前に適切な対応策を準備する等により、損失の危険を最小限にすべく組織的な対応を以下のとおり行っております。

取締役会は、当社の適切ナリスク管理を行うため、「リスク管理の基本方針」を定めております。当社に係るリスクを全体として把握・評価し、必要に応じ定性・定量それぞれの面から、適切な対応を行うため、総合リスク管理委員会を設置し、同委員会規程に基づき、総合的なリスク管理を実施しております。リスク管理に関する体制、方法等については、総合リスク管理委員会の審議を経て経営会議において、「総合リスク管理規程」に定めております。総合リスク管理委員会は、当社全体のリスク量やリスク管理の状況等について、定期的および必要に応じて、経営会議、取締役会に報告しております。また、リスク管理の有効性に関して、検証・評価し、不断の見直しを行っております。

()信用リスクについては信用リスク管理委員会を設置し、同委員会規程に基づき、基本方針を定め、信用リスクの計量、管理を行っております。また、大口案件や、新種スキーム案件等の複雑な判断を要する案件については、案件審査会議を設置し、同会議規程に基づき審査・決裁しております。

()金利変動、為替変動等の市場リスクおよび資金調達に係る流動性リスクについては、ALM 委員会を設置し、同委員会規程に基づき、資金の運用と調達の総合的な管理を実施しております。

()株式等の投資リスクについては、経営会議および取締役会において、投資方針や投資状況等の管理を行っております。

()不動産、船舶、航空機、自動車等の資産価値を有する物件の「ものにかかわるリスク」については、各リスク所管部にて管理するとともに総合リスク管理委員会において、リスク量やその状況等の管理を行っております。

()情報セキュリティリスクについては、「情報セキュリティ基本方針」、「個人情報取扱規程」、ISO27001等に基づき管理を行っております。

()システムリスク、事務リスクについては、IT・事務戦略委員会を設置し、同委員会規程に基づき、当社のIT戦略、IT投資、事務体制等を審議しております。

()その他オペレーショナルリスク全般については、総合リスク管理部がリスクの抽出・計量化、対応策の見直し等を行うとともに、総合リスク管理委員会において、総合的な管理を実施しております。

また、大規模災害をはじめとした危機事象が発生した場合の対応体制等については、総合リスク管理委員会の審議を経て経営会議において、「危機対策規程」および「事業継続計画規程」に定めております。

・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、取締役の職務執行の効率性を確保するため、以下の体制を構築しております。

()取締役の職務権限と担当業務を明確にするとともに、執行役員に対し業務執行権限を委譲し、取締役の職務執行の効率化を図っております。

()社長の諮問機関として経営会議を設け、取締役会の議論を充実させるべく重要な事項について事前審議を行うとともに、取締役会から委譲された権限の範囲内で当社業務の執行および施策の実施等について審議し、意思決定を行っております。

・当社企業グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、「関係会社管理規程」、「コンプライアンス管理規程」に基づき、以下のとおり主要な子会社および主要な関連会社に対する適切な経営管理を行っております。

()当社グループ会社は、「関係会社管理規程」が定める年度計画、予算、決算等の一定事項について、当社に事前協議を行い、当社の指示または承認を得るものとし、また、営業概況等の所定の事項については定期的に、重大なリスクが発生した場合は、その都度速やかに、当社へ報告する体制としております。また、当社の役職員が当社グループ会社の取締役を兼務して経営の助言を行うことにより、当該グループ会社の取締役等の職務執行が効率的に行われることを確保するなど、グループ会社に対する適切な経営管理を行う体制としております。

()当社の連結対象グループ会社は、共通の経営理念と企業行動規範の下、「コンプライアンス管理規程」に則り、当社と同様に、グループ各社コンプライアンス責任者を配置しております。その管理については、当社社長の委嘱を受けたチーフ・コンプライアンス・オフィサーが総括的に行っております。コンプライアンス等に関する相談、通報については、当社窓口を直接利用することができる体制としております。

()当社は、内部統制委員会を原則3ヶ月毎に開催し、当社グループの内部統制システムの浸透、定着を図っております。

()当社が定めた情報セキュリティに関する規程、個人情報取扱規程等の諸規程は、グループ会社にも適用し、当社の監督を受ける体制としております。

・財務報告の適正性を確保するための体制

当社は、信頼性のある財務報告の開示を通じ、投資家やお取引先の皆さまに適正な財務情報を提供していくことが、社会的な信用の維持・向上を図るうえでの企業の責務と認識しております。

このような信頼性のある財務報告の重要性に鑑み、当社では、財務報告の基本方針を定め、

- ()内部統制委員会の設置
- ()財務報告の信頼性を確保するための業務運営
- ()適正な会計処理の実施
- ()内部統制報告書の開示

に取り組み、財務報告の適正性を確保しております。

・監査役の職務を補助する従業員について

当社は、監査役の下に監査役室を設置し、室員として監査役の職務を補助する従業員を他部署との兼務で配置しております。

・前項の従業員の取締役からの独立性に関する事項

監査役室に配置する従業員の人事異動および考課については、事前に監査役の同意を得ることとする等、取締役からの独立性を確保しております。

・監査役の職務を補助する従業員に対する、監査役の指示の実効性の確保に関する事項

監査役の職務を補助する従業員が行う当該業務に関する指揮命令権は監査役に属するものとしており、監査役の当該従業員に対する指示の実効性を確保しております。

・取締役および従業員が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

当社は、当社およびグループ会社の役職員が各監査役に報告を行うことを確保するため、以下の体制を構築しております。

- ()監査役は、取締役会のほか、経営会議、案件審査会議、ALM委員会等に出席し、重要な報告を受ける体制としております。
- ()相談・通報制度による通報、不正事故や大規模災害等の危機事由等が発生した場合についても、担当役員が社長へ報告すると同時に監査役へ報告することとしております。また、相談・通報制度による通報に関しては、常勤監査役が社内窓口の一つとなっております。
- ()当社およびグループ会社の役職員は、監査役からその業務執行に関する事項の報告を求められた場合、速やかに当該事項につき報告を行うこととしております。

・前項の報告をしたものが当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いをうけないことを確保するための体制

当社の監査役へ報告を行った当社および当社グループの役職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利益な扱いを行うことを禁止しております。

・監査役の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生じる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要なことを証明した場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理することとしております。

・その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社は、監査役の監査が実効的に行われることを確保するため、以下の体制を構築しております。

- ()社長と監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的な会合を持つこととしております。
- ()「内部監査規程」において、監査部長は監査役と定期的および必要に応じて連携を図り、意見・情報交換を行わなければならない旨を定め、監査役の監査の実効性確保を図っております。

3) 社外取締役及び社外監査役に関する事項

当社の社外取締役は4名、社外監査役は2名であります。

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任に当たり、東京証券取引所が定める「独立役員」の独立性基準（東証「上場管理等に関するガイドライン」）に準拠し、専門知識や幅広い見識及び企業経営に携わった豊富な経験等に基づき客観的に当社の経営監視を担える方を選任することを基本的な考え方としております。

社外取締役は、金融経済及び財政、その他経済全般に亘る高度な専門知識を有しており、その知見をマクロ的な見地から当社の経営に生かすとともに、独立的な視点で経営監視を実施する役割を担っております。

社外監査役は、経営者又は金融機関の経営を通じての豊富な経験と幅広い知識を当社の監査機能に生かし当社に対して継続的に社外からのチェックを行うとともに、経営監視機能の客観性及び中立性確保の体制を維持する役割を担っております。

なお、当社は社外取締役清水啓典氏、吉田政雄氏、檜垣幸人氏、中村明雄氏及び社外監査役藤枝昌雄氏を東京証券取引所が義務付ける独立役員に指定しております。

上記「内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係」に記載のとおり、社外監査役は内部監査、会計監査、内部統制部門との連携に努めております。

また、会社と会社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係の概要は次のとおりです。

社外取締役及び社外監査役と当社の間には特別な利害関係はありません。なお、社外取締役及び社外監査役は、次のとおり他の役職を兼任しております。

| 氏名 | 当社外での役職(平成30年6月25日現在) |
|-------|--|
| 清水 啓典 | 日清紡ホールディングス株式会社 社外取締役 一橋大学名誉教授 |
| 吉田 政雄 | 古河機械金属株式会社 社外取締役 JFEホールディングス株式会社 社外取締役 |
| 檜垣 幸人 | 今治造船株式会社代表取締役社長 正栄汽船株式会社代表取締役社長 |
| 中村 明雄 | 田辺総合法律事務所特別パートナー |
| 岡田 太 | 日本カーソリューションズ株式会社 監査役 ニッポンレンタカーサービス株式会社 監査役 TCプロパティソリューションズ株式会社 監査役 TCビジネス・エキスパーツ株式会社 監査役 株式会社TRY 監査役 東瑞盛世利融資租賃有限公司 監事 東瑞盛世利(上海)商業代理有限公司 監事 |
| 藤枝 昌雄 | 藤枝昌雄税理士事務所代表 株式会社ニップコーポレーション監査役 |

- ・社外取締役清水啓典氏は、日清紡ホールディングス株式会社社外取締役及び一橋大学名誉教授を兼任しております。日清紡ホールディングス株式会社と当社は営業取引を行っておりますが、価格及びその他の取引条件は一般的取引条件と同様に決定しております。
- ・社外取締役吉田政雄氏は、古河機械金属株式会社及びJFEホールディングス株式会社の社外取締役を兼任しております。古河機械金属株式会社及びJFEホールディングス株式会社と当社は営業取引を行っておりますが、価格及びその他の取引条件は一般的取引条件と同様に決定しております。
- ・社外取締役檜垣幸人氏は、今治造船株式会社及び正栄汽船株式会社の代表取締役社長を兼任しております。さらに、今治造船株式会社は、平成30年3月末日時点において、当社株式の0.05%を保有しております。今治造船株式会社及び正栄汽船株式会社と当社は営業取引を行っておりますが、価格及びその他の取引条件は一般的取引条件と同様に決定しております。
- ・社外取締役中村明雄氏は、田辺総合法律事務所特別パートナーを兼任しております。同事務所と当社は、顧問契約を締結しておりますが、特別な利害関係はありません。
- ・社外監査役岡田太氏は、日本カーソリューションズ株式会社監査役、ニッポンレンタカーサービス株式会社監査役、TCプロパティソリューションズ株式会社監査役、TCビジネス・エキスパーツ株式会社監査役、株式会社TRY監査役、東瑞盛世利融資租賃有限公司監事及び東瑞盛世利(上海)商業代理有限公司監事を兼任しております。各社はいずれも当社の連結子会社であります。また、同氏は株式会社みずほ銀行及びその関係会社の出身であり、同行及びその関係会社の出身者4名が当社取締役に就任しております。さらに、同行は、平成30年3月末時点において、当社株式の4.44%を保有しております。加えて、平成30年3月末時点において当社グループは同行から261,224百万円の事業資金借入を行っているとともに、同行及びその関係会社と当社は営業取引を行っておりますが、価格及びその他の取引条件は一般的取引条件と同様に決定しております。
- ・社外監査役藤枝昌雄氏は、藤枝昌雄税理士事務所代表及び株式会社ニップコーポレーション監査役を兼任しております。株式会社ニップコーポレーションと当社は、営業取引を行っておりますが、価格及びその他の取引条件は一般的取引条件と同様に決定しております。

4) 役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分 | 報酬等の総額 (百万円) | 報酬等の種類別の総額(百万円) | | | | 対象となる 役員の員数 (人) |
|-------------------|-----------------|-----------------|---------------|-----|-------|-----------------------|
| | | 基本報酬 | ストック オプション | 賞与 | 退職慰労金 | |
| 取締役 (社外取締役を除く) | 476 | 211 | 161 | 104 | - | 8 |
| 監査役 (社外監査役を除く) | 19 | 19 | - | - | - | 1 |
| 社外役員 | 82 | 82 | - | - | - | 7 |

- (注) 1. 上記の報酬等の額には、当事業年度中に費用処理した役員賞与引当金104百万円を含めております。
2. 当事業年度末日時点における在籍人員は、取締役11名、監査役3名ですが、上記報酬等の額には、平成29年6月23日開催の第48回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名、監査役1名に対する支給額を含めております。
3. 株主総会の決議による取締役の報酬限度額は年額1,000百万円(うち社外取締役分は年額100百万円)であります。また、当該報酬枠の範囲内で取締役(社外取締役を除く)に付与することができるストックオプション公正価値の上限は年額400百万円であります。
(平成28年6月24日開催の定時株主総会決議)
4. 株主総会の決議による監査役の報酬限度額は年額150百万円であります。
(平成21年2月25日開催の臨時株主総会決議)

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの
該当事項はありません。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法
(役員報酬の基本方針)

役員報酬については、当社の持続的成長に向けた健全なインセンティブや中長期的な事業の発展と連動する枠組みを指向しております。役員と株主の皆さまの利害関係を一致させ、役員の株主価値向上意識を喚起するとともに、優秀な人材を引き付け、企業価値向上を牽引する人材を確保・育成することを狙いとした役員報酬制度を定めております。

(報酬体系)

役員報酬の構成は、基本報酬、役員賞与、株式報酬型ストックオプションとしております。基本報酬については、その職務内容や役割、責任等を総合的に勘案して決定しております。役員賞与と株式報酬型ストックオプションは、業績連動報酬であり、毎年度の利益の状況に応じて個々の貢献度を判定した上で決定しております。業績連動報酬の総額は、原則として各事業年度の連結当期純利益の額に連動した配分原資を定め、その範囲内で決定しております。業績連動報酬のうち、株式報酬型ストックオプションについては株価変動の影響を株主の皆さまと共有し株主価値向上意識を高めることを目的としております。
なお、業務執行から独立した立場にある社外取締役及び監査役の報酬は、その役割を踏まえ基本報酬のみとしております。

(報酬決定の手続き)

役員の報酬等の額は、株主総会の決議により報酬限度額が定められております。独立社外取締役を主要な構成員とする報酬委員会を設置し、役員報酬の方針・制度・水準等については、本委員会に諮問し、その意見や外部専門家からの助言、第三者による報酬水準の調査データ等も参考にしつつ、取締役会が決定いたします。
なお、本委員会は、平成30年度より従来の指名・報酬委員会から機関としての機能を分化しております。

5) 株式の保有状況

株式投資のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
150銘柄 58,976百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)
特定投資株式

| 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (百万円) | 保有目的 |
|---------------------|------------|-------------------|---------------------|
| (株)オリエントコーポレーション | 15,362,500 | 3,087 | 営業基盤及び 経営基盤強化のため |
| 川崎重工業(株) | 9,071,000 | 3,065 | 営業基盤の強化のため |
| 総合メディカル(株) | 722,000 | 3,025 | 営業基盤の強化のため |
| 川崎汽船(株) | 9,393,000 | 2,780 | 営業基盤の強化のため |
| いすゞ自動車(株) | 1,507,000 | 2,219 | 営業基盤の強化のため |
| イオン(株) | 1,335,704 | 2,170 | 営業基盤の強化のため |
| 月島機械(株) | 1,757,000 | 2,064 | 営業基盤の強化のため |
| 富士ソフト(株) | 588,800 | 1,671 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ダイフク | 500,341 | 1,388 | 営業基盤の強化のため |
| (株)みずほフィナンシャルグループ | 6,277,278 | 1,280 | 営業基盤及び 経営基盤強化のため |
| 明治ホールディングス(株) | 111,852 | 1,036 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ニチリン | 365,860 | 786 | 営業基盤の強化のため |
| NISSHA(株) | 231,000 | 609 | 営業基盤の強化のため |
| (株)伊藤園 | 133,000 | 540 | 営業基盤の強化のため |
| オリンパス(株) | 115,000 | 492 | 営業基盤の強化のため |
| (株)テクノ菱和 | 440,000 | 414 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ヤクルト本社 | 63,515 | 392 | 営業基盤の強化のため |
| 不二製油グループ本社(株) | 108,000 | 281 | 営業基盤の強化のため |
| 岡部(株) | 252,800 | 255 | 営業基盤の強化のため |
| 新電元工業(株) | 500,000 | 233 | 営業基盤の強化のため |
| (株)リンガーハット | 99,185 | 226 | 営業基盤の強化のため |
| (株)安藤・間 | 299,400 | 224 | 営業基盤の強化のため |
| キーコーヒー(株) | 98,000 | 213 | 営業基盤の強化のため |
| 北越紀州製紙(株) | 257,440 | 199 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ヒガシトゥエンティワン | 540,000 | 193 | 営業基盤の強化のため |
| 森永製菓(株) | 35,100 | 173 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ゴールドウイン | 29,240 | 171 | 営業基盤の強化のため |
| デンヨー(株) | 100,000 | 168 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ヤマダ電機 | 300,000 | 166 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ダイナムジャパンホールディングス | 800,000 | 159 | 営業基盤の強化のため |

みなし保有株式

該当事項はありません。

(当事業年度)
特定投資株式

| 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (百万円) | 保有目的 |
|---------------------|------------|-------------------|---------------------|
| 川崎重工業株 | 1,344,900 | 4,626 | 営業基盤の強化のため |
| 総合メディカル株 | 1,444,000 | 4,368 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ダイフク | 500,341 | 3,187 | 営業基盤の強化のため |
| 月島機械株 | 1,757,000 | 2,642 | 営業基盤の強化のため |
| (株)オリエントコーポレーション | 15,362,500 | 2,565 | 営業基盤及び 経営基盤強化のため |
| イオン株 | 1,335,704 | 2,537 | 営業基盤の強化のため |
| 富士ソフト株 | 588,800 | 2,508 | 営業基盤の強化のため |
| いすゞ自動車株 | 1,507,000 | 2,459 | 営業基盤の強化のため |
| 川崎汽船株 | 939,300 | 2,342 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ニチリン | 475,618 | 1,341 | 営業基盤の強化のため |
| (株)みずほフィナンシャルグループ | 6,277,278 | 1,201 | 営業基盤及び 経営基盤強化のため |
| (株)ユーグレナ | 1,000,000 | 1,026 | 営業基盤の強化のため |
| 明治ホールディングス株 | 111,852 | 906 | 営業基盤の強化のため |
| NISSHA株 | 231,000 | 659 | 営業基盤の強化のため |
| 永旺(香港)百貨有限公司 | 10,070,000 | 631 | 営業基盤の強化のため |
| (株)伊藤園 | 133,000 | 555 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ヤクルト本社 | 63,859 | 502 | 営業基盤の強化のため |
| オリンパス株 | 115,000 | 464 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ゴールドウイン | 58,480 | 373 | 営業基盤の強化のため |
| (株)テクノ菱和 | 440,000 | 362 | 営業基盤の強化のため |
| 新電元工業株 | 50,000 | 351 | 営業基盤の強化のため |
| 岡部株 | 252,800 | 252 | 営業基盤の強化のため |
| (株)リンガーハット | 99,185 | 245 | 営業基盤の強化のため |
| (株)安藤・間 | 299,400 | 239 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ヒガシトゥエンティワン | 540,000 | 230 | 営業基盤の強化のため |
| 日本電子株 | 200,000 | 195 | 営業基盤の強化のため |
| (株)ヤマダ電機 | 300,000 | 191 | 営業基盤の強化のため |
| デンヨー株 | 100,000 | 190 | 営業基盤の強化のため |
| 北越紀州製紙株 | 257,440 | 176 | 営業基盤の強化のため |
| (株)フジ・メディア・ホールディングス | 90,000 | 163 | 営業基盤の強化のため |

(注) 総合メディカル株及び(株)ゴールドウインの株式数については、平成30年4月1日付をもって普通株式1株につき2株の割合で株式分割しており、分割後の株式数で記載しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

6) その他

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び取締役の選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

取締役会で決議することができることとした株主総会決議事項

() 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行を可能にするためであります。

() 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うためであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席しその議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うためであります。

責任限定契約の内容の概要

社外取締役清水啓典、吉田政雄、檜垣幸人、中村明雄の4氏及び社外監査役藤枝昌雄氏と当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を法令が規定する額を限度とする旨の責任限定契約を締結しております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

| 区分 | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|
| | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) |
| 提出会社 | 99 | 6 | 102 | 8 |
| 連結子会社 | 74 | 1 | 86 | 2 |
| 計 | 174 | 8 | 188 | 10 |

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるTC-CIT Aviation Ireland Limited (現、TC Skyward Aviation Ireland Limited) 他計6社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Young LLP等に対して、監査報酬等を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるTC Skyward Aviation Ireland Limited他計9社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Young LLP等に対して、監査報酬等を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、コンフォートレター作成業務の委託等でありま。

(当連結会計年度)

監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、コンフォートレター作成業務の委託等でありま。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の金額は、監査日数、会社の規模・業務の特性等を勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)及び「特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令」(平成11年5月19日総理府・大蔵省令第32号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、正会員として加盟している公益社団法人リース事業協会において、会計基準の適用や変更等について積極的に情報収集や意見交換を行うとともに、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構が行う研修へ参加し、会計基準の内容又はその変更等について情報収集を行っております。

これらにより、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準の変更等についての的確に対応することができる体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|-------------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3 83,565 | 3 82,212 |
| 割賦債権 | 3 216,466 | 3 210,523 |
| リース債権及びリース投資資産 | 3 1,600,637 | 3 1,544,595 |
| 営業貸付債権 | 3 539,058 | 3 548,522 |
| 営業投資有価証券 | 2 209,712 | 2, 3 235,531 |
| 賃貸料等未収入金 | 27,525 | 30,577 |
| 有価証券 | 4,052 | 5,550 |
| 商品及び製品 | 3 1,796 | 3 1,177 |
| 繰延税金資産 | 7,074 | 9,590 |
| その他の流動資産 | 3 81,016 | 3, 6 77,471 |
| 貸倒引当金 | 4,104 | 3,475 |
| 流動資産合計 | 2,766,802 | 2,742,278 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 賃貸資産 | 1, 3 636,820 | 1, 3 637,456 |
| 賃貸資産前渡金 | 4,561 | 3 13,055 |
| その他の営業資産 | 1 26,823 | 1 68,868 |
| 建設仮勘定 | - | 42,517 |
| 社用資産 | 1, 3 13,419 | 1, 3 17,740 |
| 有形固定資産合計 | 681,624 | 779,638 |
| 無形固定資産 | | |
| 賃貸資産 | 258 | 354 |
| のれん | 13,612 | 16,885 |
| その他の無形固定資産 | 6,806 | 9,485 |
| 無形固定資産合計 | 20,676 | 26,725 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2, 3 69,592 | 2, 3 165,272 |
| 破産更生債権等 | 1,625 | 1,379 |
| 繰延税金資産 | 6,124 | 4,634 |
| その他の投資 | 34,318 | 40,311 |
| 貸倒引当金 | 1,072 | 1,143 |
| 投資その他の資産合計 | 110,588 | 210,453 |
| 固定資産合計 | 812,890 | 1,016,818 |
| 繰延資産 | 189 | 373 |
| 資産合計 | 3,579,882 | 3,759,469 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 215,570 | 6 247,209 |
| 短期借入金 | 3 416,341 | 3 428,850 |
| 1年内償還予定の社債 | 68,242 | 70,460 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3 350,210 | 3 333,063 |
| コマーシャル・ペーパー | 800,700 | 848,000 |
| 債権流動化に伴う支払債務 | 3 59,100 | 3 61,900 |
| 1年内支払予定の債権流動化に伴う長期支払債務 | 3 1,963 | 3 1,301 |
| リース債務 | 6,994 | 4,494 |
| 未払法人税等 | 10,730 | 11,964 |
| 繰延税金負債 | 2,138 | 1,236 |
| 割賦未実現利益 | 14,975 | 16,232 |
| 賞与引当金 | 2,719 | 2,893 |
| 役員賞与引当金 | 185 | 231 |
| その他の引当金 | 503 | 594 |
| その他の流動負債 | 63,864 | 80,794 |
| 流動負債合計 | 2,014,241 | 2,109,225 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 163,772 | 3 194,232 |
| 長期借入金 | 3 868,640 | 3 870,102 |
| 債権流動化に伴う長期支払債務 | 3 4,072 | 3 2,771 |
| リース債務 | 9,634 | 8,441 |
| 繰延税金負債 | 18,065 | 16,543 |
| 役員退職慰労引当金 | 236 | 248 |
| メンテナンス引当金 | 957 | 1,036 |
| 退職給付に係る負債 | 9,540 | 9,501 |
| その他の固定負債 | 85,902 | 91,330 |
| 固定負債合計 | 1,160,822 | 1,194,207 |
| 負債合計 | 3,175,063 | 3,303,433 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 34,231 | 34,231 |
| 資本剰余金 | 7,821 | 9,060 |
| 利益剰余金 | 299,671 | 339,910 |
| 自己株式 | 2,757 | 2,682 |
| 株主資本合計 | 338,966 | 380,520 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,830 | 17,745 |
| 繰延ヘッジ損益 | 473 | 942 |
| 為替換算調整勘定 | 564 | 579 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 1,133 | 751 |
| その他の包括利益累計額合計 | 15,734 | 15,472 |
| 新株予約権 | 943 | 1,196 |
| 非支配株主持分 | 49,174 | 58,847 |
| 純資産合計 | 404,818 | 456,036 |
| 負債純資産合計 | 3,579,882 | 3,759,469 |

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 976,107 | 1,012,200 |
| 売上原価 | 823,295 | 2 849,005 |
| 売上総利益 | 152,811 | 163,195 |
| 販売費及び一般管理費 | 1 80,811 | 1 89,450 |
| 営業利益 | 71,999 | 73,744 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 135 | 114 |
| 受取配当金 | 655 | 1,050 |
| 持分法による投資利益 | 1,172 | 3,771 |
| 為替差益 | - | 87 |
| 金融派生商品収益 | 687 | - |
| 受取賃貸料 | 281 | 285 |
| その他の営業外収益 | 490 | 550 |
| 営業外収益合計 | 3,423 | 5,860 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 233 | 298 |
| 為替差損 | 1,354 | - |
| 金融派生商品費用 | - | 22 |
| 賃貸収入原価 | 139 | 135 |
| その他の営業外費用 | 184 | 118 |
| 営業外費用合計 | 1,911 | 573 |
| 経常利益 | 73,511 | 79,031 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 639 | 543 |
| 段階取得に係る差益 | 100 | 333 |
| その他 | 37 | 217 |
| 特別利益合計 | 777 | 1,093 |
| 特別損失 | | |
| 割増退職金 | - | 216 |
| 段階取得に係る差損 | - | 138 |
| 固定資産処分損 | 100 | 110 |
| 社名変更費用 | 220 | - |
| その他 | 226 | 193 |
| 特別損失合計 | 547 | 658 |
| 税金等調整前当期純利益 | 73,741 | 79,466 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 22,513 | 26,082 |
| 法人税等調整額 | 408 | 3,700 |
| 法人税等合計 | 22,921 | 22,382 |
| 当期純利益 | 50,819 | 57,083 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | 7,170 | 5,759 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 43,648 | 51,324 |

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日) |
|------------------|---|---|
| 当期純利益 | 50,819 | 57,083 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 348 | 1,956 |
| 繰延ヘッジ損益 | 1,355 | 1,265 |
| 為替換算調整勘定 | 2,079 | 609 |
| 退職給付に係る調整額 | 238 | 442 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 1,001 | 509 |
| その他の包括利益合計 | 1,139 | 13 |
| 包括利益 | 49,679 | 57,097 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 42,812 | 51,061 |
| 非支配株主に係る包括利益 | 6,867 | 6,035 |

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|-------|---------|-------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 34,231 | 6,122 | 266,044 | 2,806 | 303,591 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 9,710 | | 9,710 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | 43,648 | | 43,648 |
| 自己株式の取得 | | | | 2 | 2 |
| 自己株式の処分 | | 4 | | 50 | 55 |
| 連結子会社株式の取得 による持分の増減 | | 1,695 | | | 1,695 |
| 持分変動による減少 | | | 311 | | 311 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | | 1,699 | 33,627 | 48 | 35,375 |
| 当期末残高 | 34,231 | 7,821 | 299,671 | 2,757 | 338,966 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | | 新株予約権 | 非支配株主 持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|----------------------|-------------|--------------|----------------------|-----------------------|-------|-------------|---------|
| | その他 有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ 損益 | 為替換算 調整勘定 | 退職給付に 係る調整 累計額 | その他の 包括利益 累計額合計 | | | |
| 当期首残高 | 15,474 | 624 | 3,028 | 1,307 | 16,570 | 716 | 53,994 | 374,872 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | 9,710 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | | | | | | 43,648 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | 2 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | | 55 |
| 連結子会社株式の取得 による持分の増減 | | | | | | | | 1,695 |
| 持分変動による減少 | | | | | | | | 311 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | 355 | 1,097 | 2,463 | 174 | 836 | 227 | 4,819 | 5,429 |
| 当期変動額合計 | 355 | 1,097 | 2,463 | 174 | 836 | 227 | 4,819 | 29,946 |
| 当期末残高 | 15,830 | 473 | 564 | 1,133 | 15,734 | 943 | 49,174 | 404,818 |

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|-------|---------|-------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 34,231 | 7,821 | 299,671 | 2,757 | 338,966 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 11,085 | | 11,085 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | 51,324 | | 51,324 |
| 自己株式の取得 | | | | 8 | 8 |
| 自己株式の処分 | | 8 | | 83 | 92 |
| 連結子会社株式の取得 による持分の増減 | | 1,230 | | | 1,230 |
| 持分変動による減少 | | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | | 1,239 | 40,239 | 75 | 41,554 |
| 当期末残高 | 34,231 | 9,060 | 339,910 | 2,682 | 380,520 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | | 新株予約権 | 非支配株主 持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|----------------------|-------------|--------------|----------------------|-----------------------|-------|-------------|---------|
| | その他 有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ 損益 | 為替換算 調整勘定 | 退職給付に 係る調整 累計額 | その他の 包括利益 累計額合計 | | | |
| 当期首残高 | 15,830 | 473 | 564 | 1,133 | 15,734 | 943 | 49,174 | 404,818 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | 11,085 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | | | | | | 51,324 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | 8 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | | 92 |
| 連結子会社株式の取得 による持分の増減 | | | | | | | | 1,230 |
| 持分変動による減少 | | | | | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | 1,914 | 1,415 | 1,143 | 382 | 262 | 253 | 9,672 | 9,663 |
| 当期変動額合計 | 1,914 | 1,415 | 1,143 | 382 | 262 | 253 | 9,672 | 51,218 |
| 当期末残高 | 17,745 | 942 | 579 | 751 | 15,472 | 1,196 | 58,847 | 456,036 |

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日) |
|--------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 73,741 | 79,466 |
| 賃貸資産減価償却費 | 97,987 | 112,060 |
| 賃貸資産除却損及び売却原価 | 53,619 | 63,706 |
| 減損損失 | 409 | 2,624 |
| その他の営業資産減価償却費及び売却原価 | 5,759 | 4,002 |
| 社用資産減価償却費及び除売却損 | 3,662 | 3,839 |
| のれん償却額 | 863 | 1,063 |
| 為替差損益(は益) | 1,354 | 87 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 305 | 582 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 43 | 40 |
| 退職給付に係る負債の増減額(は減少) | 233 | 258 |
| 受取利息及び受取配当金 | 791 | 1,164 |
| 資金原価及び支払利息 | 17,733 | 21,946 |
| 持分法による投資損益(は益) | 1,172 | 3,771 |
| 有価証券及び投資有価証券売却損益(は益) | 639 | 543 |
| 割賦債権の増減額(は増加) | 10,339 | 9,972 |
| リース債権及びリース投資資産の増減額(は増加) | 3,023 | 46,850 |
| 営業貸付債権の増減額(は増加) | 15,559 | 12,218 |
| 営業投資有価証券の増減額(は増加) | 18,681 | 27,101 |
| 賃貸資産の取得による支出 | 207,841 | 168,905 |
| その他の営業資産の取得による支出 | 7,237 | 43,644 |
| 建設仮勘定の増減額(は増加) | - | 42,517 |
| 破産更生債権等の増減額(は増加) | 538 | 239 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 12,804 | 31,483 |
| その他 | 12,172 | 5,355 |
| 小計 | 36,535 | 71,662 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,528 | 1,954 |
| 利息の支払額 | 18,115 | 22,120 |
| 法人税等の支払額 | 20,618 | 25,067 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 670 | 26,428 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 社用資産の売却による収入 | 217 | 224 |
| 社用資産の取得による支出 | 2,325 | 5,845 |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | 4,460 | 854 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 15,980 | 90,600 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | 2 15,109 | 2,799 |
| 事業譲受による支出 | - | 9,282 |
| その他 | 1,333 | 459 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 30,071 | 107,908 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|----------------------------|--|--|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額（は減少） | 25,088 | 8,175 |
| コマーシャル・ペーパーの純増減額（は減少） | 37,300 | 47,300 |
| 長期借入れによる収入 | 385,131 | 387,163 |
| 長期借入金の返済による支出 | 377,062 | 389,414 |
| 債権流動化による収入 | 4,619 | 2,800 |
| 債権流動化の返済による支出 | 17,579 | 1,963 |
| 社債の発行による収入 | 79,869 | 101,799 |
| 社債の償還による支出 | 44,607 | 68,268 |
| 非支配株主からの払込みによる収入 | 7,718 | 7,633 |
| 配当金の支払額 | 9,710 | 11,085 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | 1,015 | 1,465 |
| 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 | 12,017 | 966 |
| 自己株式の売却による収入 | 0 | 0 |
| 自己株式の取得による支出 | 2 | 8 |
| その他 | 54 | 51 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 27,500 | 81,649 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 2,790 | 473 |
| 現金及び現金同等物の増減額（は減少） | 6,031 | 642 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 91,762 | 85,730 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | - | 77 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1 85,730 | 1 86,449 |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 193社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

瑞盛宝融資租賃(上海)有限公司他計13社は、新たに設立したことにより、主としてニッポンレンタカーサービス㈱のフランチャイズ制から直営化体制への移行に伴う株式取得により、計7社を連結の範囲に含めております。

TC Car Solutions (Thailand) Co., Ltd.他計6社は、重要性が増したこと等により、連結の範囲に含めております。

また、清算等により、計5社を連結の範囲から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

ティーエルシーキャピタル㈱

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社ティーエルシーキャピタル㈱他計108社は、主として匿名組合契約方式による賃貸事業を行っている業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないため、連結財務諸表規則第5条第1項第2号により連結の範囲から除外しております。

また、その他の非連結子会社計5社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 23社

主要な持分法適用の関連会社の名称

主要な関連会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

Aviation Capital Group LLC他計5社は、新たに取得または設立したことにより、持分法適用の関連会社に含めております。

大連冰山集團華慧達融資租賃有限公司は重要性が増したため、持分法の適用範囲に含めております。

また、ニッポンレンタカーサービス㈱のフランチャイズ制から直営化体制への移行に伴う株式追加取得により計2社を連結の範囲に含めたことから、持分法の適用範囲から除外しております。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社又は関連会社のうち主要な会社等の名称

ティーエルシーキャピタル㈱(非連結子会社)

(持分法を適用しない理由)

非連結子会社ティーエルシーキャピタル㈱他計108社は、主として匿名組合契約方式による賃貸事業を行っている業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないため、持分法の適用範囲から除外しております。

非連結子会社計5社及び持分法非適用の関連会社計2社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 他の会社等の議決権の20%以上、50%以下を自己の計算において所有しているにもかかわらず関連会社としなかった当該他の会社等の名称

㈱サイバーコア他計2社

(関連会社としなかった理由)

投資育成等のために出資しており、営業、人事、その他の取引を通じて、投資先会社の方針の決定に対して重要な影響力を与える目的ではないことから、関連会社としておりません。

(4) 持分法適用関連会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、主として各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Tokyo Century (USA) Inc.他計100社の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成に当たっては決算日現在の財務諸表を使用しております。

また、ティーエルシー克蘭ベリー㈱他計3社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

なお、連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

デリバティブ

時価法を採用しております。

たな卸資産

主として、個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

賃貸資産

主としてリース期間を償却年数とし、リース期間満了時の賃貸資産の処分見積額を残存価額とする定額法を採用しております。

なお、顧客の事故等のために発生する賃貸資産の処分損失に備えるため、減価償却費を積増して計上しております。

その他の営業資産

定額法を採用しております。

社用資産

主として、定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物及び構築物が3年～47年、器具備品が3年～20年であります。

その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権(正常先債権、要注意先債権及び要管理先債権)については貸倒実績率により、破産更生債権等(破綻懸念先債権、実質破綻先債権及び破綻先債権)については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

なお、破産更生債権等については、債権額から回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として1,791百万円を債権額から直接減額しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、翌連結会計年度支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に定める連結会計年度末要支給額を計上しております。

メンテナンス引当金

メンテナンスサービス付リース取引及びメンテナンスサービスに係る車検整備に要する将来の支出に備えるため、その負担見込額に基づき計上しております。

- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準または給付算定式基準によっております。
- 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～16.3年）による定額法により費用処理しております。
- 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～17年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
- なお、企業年金基金については、複数事業主制度を採用しており、当該年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
- ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準
リース料を収受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
- 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- なお、為替予約の振当処理の対象となっている外貨建金銭債権債務については、当該為替予約の円貨額に換算しております。
- また、在外子会社等の資産及び負債は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。
- (7) 重要なヘッジ会計の方法
- ヘッジ会計の方法
繰延ヘッジを採用しております。
- なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用しております。
- ヘッジ手段とヘッジ対象
ヘッジ手段...金利スワップ、通貨スワップ、為替予約、借入金
ヘッジ対象...借入金、割賦債権、営業貸付金、営業投資有価証券、予定取引、在外子会社及び在外関連会社に対する持分への投資
- ヘッジ方針
資産及び負債から発生する金利及び為替の変動リスクをヘッジし、資産・負債・損益を総合的に管理する目的でデリバティブ取引を利用しております。
- ヘッジ有効性評価の方法
ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジの有効性を評価しております。また、外貨建予定取引のヘッジについては、ヘッジ手段とヘッジ対象の金額・期間等の重要な条件が同一であることをもって、ヘッジの有効性を評価しております。
- ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段との間に高い相関関係があることが明らかなもの、振当処理によっている為替予約及び特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。
- なお、連結子会社においては上記に準じた方法でヘッジの有効性を評価しております。
- (8) のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、5年から20年の期間で定額法により償却を行っております。
- (9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
- 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 営業投資有価証券の会計処理
営業目的の金融収益を得るために所有する有価証券は「営業投資有価証券」として計上し、収益は「売上高」に含めて計上しております。
- なお、上記目的で所有する関係会社株式及び関係会社出資金についても、「営業投資有価証券」に含めて計上し、持分法による投資収益は「売上高」に含めて計上しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、営業外収益の「その他の営業外収益」として表示しておりました「受取賃貸料」(前連結会計年度は281百万円)、営業外費用の「その他の営業外費用」として表示しておりました「賃貸収入原価」(前連結会計年度は139百万円)は、重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

前連結会計年度まで区分掲記していた「投資有価証券評価損」(前連結会計年度は110百万円)は重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より特別損失の「その他」に含めて表示しております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」として表示しておりました「減損損失」(前連結会計年度は409百万円)は、重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

前連結会計年度まで区分掲記していた「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「有価証券及び投資有価証券評価損益」(前連結会計年度は110百万円)は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 賃貸資産の減価償却累計額 | 354,327百万円 | 371,678百万円 |
| その他の営業資産の 減価償却累計額 | 7,742百万円 | 4,452百万円 |
| 社用資産の減価償却累計額 | 10,204百万円 | 12,699百万円 |

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|---------------------|-------------------------|-------------------------|
| 営業投資有価証券 (優先出資等) | 92,624百万円 | 103,335百万円 |
| 投資有価証券(株式) | 27,302百万円 | 100,287百万円 |

3 担保に供している資産及び対応する債務

担保に供している資産

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 現金及び預金 | 773百万円 | 823百万円 |
| 割賦債権 | 5,465百万円 | 4,667百万円 |
| リース債権及びリース投資資産 | 224,264百万円 | 215,992百万円 |
| 営業貸付債権 | 813百万円 | 1,007百万円 |
| 営業投資有価証券 | - 百万円 | 735百万円 |
| 商品及び製品 | 306百万円 | 366百万円 |
| その他の流動資産 | 5,301百万円 | 5,635百万円 |
| 賃貸資産 | 42,492百万円 | 46,437百万円 |
| 賃貸資産前渡金 | - 百万円 | 8,876百万円 |
| 社用資産 | 1,083百万円 | 2,188百万円 |
| 投資有価証券 | 61百万円 | 57百万円 |
| 計 | 280,561百万円 | 286,787百万円 |

担保提供資産に対応する債務

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 短期借入金 | 2,442百万円 | 2,427百万円 |
| 長期借入金 (1年内返済予定を含む) | 186,396百万円 | 178,235百万円 |
| 社債 | - 百万円 | 100百万円 |
| 債権流動化に伴う支払債務 | 59,100百万円 | 61,900百万円 |
| 債権流動化に伴う長期支払債務 (1年内支払予定を含む) | 6,036百万円 | 4,072百万円 |
| 計 | 253,975百万円 | 246,734百万円 |

4 当座貸越契約及び貸出コミットメント

(1) 貸手側

貸出コミットメントに係る貸出未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 48,378百万円 | 46,239百万円 |
| 貸出実行残高 | 12,498百万円 | 18,120百万円 |
| 差引額 | 35,880百万円 | 28,119百万円 |

なお、上記貸出コミットメント契約においては、借入人の資金使途、信用状態等に関する審査を貸出の条件としているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではありません。

(2) 借手側

運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行等106行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 当座貸越契約及び 貸出コミットメントの総額 | 1,229,875百万円 | 1,413,477百万円 |
| 借入実行残高 | 434,259百万円 | 445,643百万円 |
| 差引額 | 795,615百万円 | 967,834百万円 |

5 偶発債務

(1) 営業取引として、次のとおり保証(保証予約を含む)しております。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 営業保証額 (保証予約を含む) | 39,345百万円 | 35,940百万円 |
| 機械設備等の引取保証額 (保証予約を含む) | 3,249百万円 | 2,224百万円 |
| 計 | 42,594百万円 | 38,164百万円 |

(2) 子会社及び関連会社の営業取引等に対し、次のとおり保証しております。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 統一東京股份有限公司 | 400百万円 | 314百万円 |
| TC Advanced Solutions Co.,Ltd. | 46百万円 | -百万円 |
| 計 | 447百万円 | 314百万円 |

(3) 従業員の金融機関からの借入に対し、次のとおり保証(保証予約を含む)しております。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
| 従業員(住宅資金) | 100百万円 | 86百万円 |

6 連結会計年度末日満期手形の処理

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------|
| 受取手形 | -百万円 | 1百万円 |
| 支払手形 | -百万円 | 987百万円 |

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日) |
|--------------|---|---|
| 従業員給与手当・賞与 | 34,242百万円 | 39,396百万円 |
| 賃借料 | 10,380百万円 | 11,935百万円 |
| 賞与引当金繰入額 | 2,719百万円 | 2,918百万円 |
| 退職給付費用 | 1,904百万円 | 2,060百万円 |
| 貸倒引当金繰入額 | 1,206百万円 | 315百万円 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 185百万円 | 238百万円 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 36百万円 | 56百万円 |

2 減損損失

以下の資産について減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

| 用途 | 種類 | 減損損失 (百万円) |
|------|------------|---------------|
| 賃貸資産 | 輸送用機器(航空機) | 2,624 |

当社の一部の連結子会社は、今後生ずると見込まれる将来キャッシュ・フローが減少したことにより収益性が低下した賃貸資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として売上原価に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は、主に正味売却価額により算定しており、正味売却価額は第三者により合理的に算定された評価額に基づき評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-------------------------|--|--|
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期発生額 | 4,280百万円 | 5,325百万円 |
| 組替調整額 | 3,786百万円 | 2,520百万円 |
| 税効果調整前 | 493百万円 | 2,804百万円 |
| 税効果額 | 145百万円 | 848百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 348百万円 | 1,956百万円 |
| 繰延ヘッジ損益 | | |
| 当期発生額 | 1,733百万円 | 2,039百万円 |
| 組替調整額 | 259百万円 | 235百万円 |
| 税効果調整前 | 1,993百万円 | 1,804百万円 |
| 税効果額 | 637百万円 | 538百万円 |
| 繰延ヘッジ損益 | 1,355百万円 | 1,265百万円 |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 当期発生額 | 2,079百万円 | 609百万円 |
| 退職給付に係る調整額 | | |
| 当期発生額 | 20百万円 | 249百万円 |
| 組替調整額 | 363百万円 | 384百万円 |
| 税効果調整前 | 343百万円 | 634百万円 |
| 税効果額 | 105百万円 | 192百万円 |
| 退職給付に係る調整額 | 238百万円 | 442百万円 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | | |
| 当期発生額 | 1,001百万円 | 509百万円 |
| 組替調整額 | - 百万円 | - 百万円 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 1,001百万円 | 509百万円 |
| その他の包括利益合計 | 1,139百万円 | 13百万円 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数 | 当連結会計年度 増加株式数 | 当連結会計年度 減少株式数 | 当連結会計年度末 株式数 |
|-------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 106,624,620株 | -株 | -株 | 106,624,620株 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式 | 1,086,343株 | 623株 | 19,733株 | 1,067,233株 |

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数増加623株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(注) 2. 普通株式の自己株式の株式数減少19,733株は、ストック・オプション行使による減少19,600株及び単元未満株式の売渡しによる減少133株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

| 区分 | 新株予約権の内訳 | 新株予約権の 目的となる 株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当連結会計 年度末残高 (百万円) |
|---------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------|---------------|---------------|--------------|-------------------------|
| | | | 当連結会計 年度期首 | 当連結会計 年度増加 | 当連結会計 年度減少 | 当連結会計 年度末 | |
| 提出会社 (親会社) | ストック・オプション としての新株予約 権 | | | | | | 943 |
| 合計 | | | | | | | 943 |

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|----------|------------|------------|
| 平成28年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 4,749百万円 | 45円 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月27日 |
| 平成28年11月4日 取締役会 | 普通株式 | 4,961百万円 | 47円 | 平成28年9月30日 | 平成28年12月9日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| (決議予定) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|-------|--------------|------------|------------|
| 平成29年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 5,594百万円 | 利益剰余金 | 53円 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月26日 |

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数 | 当連結会計年度 増加株式数 | 当連結会計年度 減少株式数 | 当連結会計年度末 株式数 |
|-------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 106,624,620株 | -株 | -株 | 106,624,620株 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式 | 1,067,233株 | 1,577株 | 32,458株 | 1,036,352株 |

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数増加1,577株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(注) 2. 普通株式の自己株式の株式数減少32,458株は、ストック・オプション行使による減少32,400株及び単元未満株式の売渡しによる減少58株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

| 区分 | 新株予約権の内訳 | 新株予約権の 目的となる 株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当連結会計 年度末残高 (百万円) |
|---------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------|---------------|---------------|--------------|-------------------------|
| | | | 当連結会計 年度期首 | 当連結会計 年度増加 | 当連結会計 年度減少 | 当連結会計 年度末 | |
| 提出会社 (親会社) | ストック・オプション としての新株予約 権 | | | | | | 1,196 |
| 合計 | | | | | | | 1,196 |

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|----------|------------|------------|
| 平成29年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 5,594百万円 | 53円 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月26日 |
| 平成29年11月6日 取締役会 | 普通株式 | 5,490百万円 | 52円 | 平成29年9月30日 | 平成29年12月5日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| (決議予定) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|---------|-------|--------------|------------|------------|
| 平成30年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 6,546万円 | 利益剰余金 | 62円 | 平成30年3月31日 | 平成30年6月26日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|------------------|-------------------------|-------------------------|
| 現金及び預金 | 83,565百万円 | 82,212百万円 |
| 預金期間が3カ月を超える定期預金 | 1,165百万円 | 992百万円 |
| 有価証券勘定に含まれる譲渡性預金 | 3,330百万円 | 5,230百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 85,730百万円 | 86,449百万円 |

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

株式の取得により新たにCSI Leasing, Inc.を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と株式取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

| | |
|--------------|------------|
| 流動資産 | 144,195百万円 |
| 固定資産 | 43,918百万円 |
| のれん | 10,529百万円 |
| 流動負債 | 84,308百万円 |
| 固定負債 | 82,273百万円 |
| 支配獲得時までの保有株式 | 10,452百万円 |
| 株式の取得価額 | 21,608百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 6,498百万円 |
| 差引:株式取得による支出 | 15,109百万円 |

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

(リース取引関係)

借手側(当社グループが借手となっているリース取引)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース賃借資産の内容

主なリース賃借資産は、器具備品であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------|
| 1年以内 | 1,232百万円 | 1,588百万円 |
| 1年超 | 3,306百万円 | 4,125百万円 |
| 合計 | 4,538百万円 | 5,713百万円 |

貸手側(当社グループが貸手となっているリース取引)

1. ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|----------|-------------------------|-------------------------|
| リース料債権部分 | 1,332,705百万円 | 1,317,720百万円 |
| 見積残存価額部分 | 52,517百万円 | 51,979百万円 |
| 受取利息相当額 | 83,083百万円 | 85,529百万円 |
| 合計 | 1,302,139百万円 | 1,284,170百万円 |

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収期日別内訳

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | | | | | | |
|------------------------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|-----------|
| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 | 合計 |
| リース債権 | 107,398 | 87,795 | 49,924 | 36,730 | 14,712 | 23,788 | 320,350 |
| リース投資資産に係る リース料債権部分 | 451,463 | 338,262 | 229,396 | 149,371 | 87,932 | 76,278 | 1,332,705 |

(単位：百万円)

| | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) | | | | | | |
|------------------------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|-----------|
| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 | 合計 |
| リース債権 | 104,341 | 65,192 | 51,409 | 27,307 | 13,166 | 17,734 | 279,151 |
| リース投資資産に係る リース料債権部分 | 448,357 | 317,984 | 230,814 | 151,806 | 88,320 | 80,437 | 1,317,720 |

- (3) リース契約締結日が平成20年4月1日前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、会計基準適用初年度の前年度末における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額として計上し、会計基準適用後の残存期間において、利息相当額の総額をリース期間中の各期に定額で配分しております。これにより、リース取引開始日に遡りしてリース会計基準を適用した場合に比べ、税金等調整前当期純利益が多く計上されております。

なお、これによる影響額については、前連結会計年度及び当連結会計年度ともに、金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------|
| 1年以内 | 125,074百万円 | 130,920百万円 |
| 1年超 | 311,507百万円 | 309,305百万円 |
| 合計 | 436,582百万円 | 440,226百万円 |

転リース取引

転リース取引に係る債権等及び債務のうち利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上している額は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| リース投資資産 | 16,542百万円 | 11,297百万円 |
| リース債務 | 16,527百万円 | 11,347百万円 |

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業に必要な資金を賄うため、銀行借入れによる間接金融のほか、社債やコマーシャル・ペーパーの発行、債権流動化による直接金融によって資金調達を行っております。当社グループは、適正な資金確保とその運用を図るべく、ALM(資産・負債の総合管理)を実施しており、これらの資金調達・運用活動に伴って発生するリスクを適切にコントロールし、収益の安定化を図る目的でデリバティブ取引を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループが保有する金融資産は、主として取引先及び個人に対するリース料債権、割賦債権及び営業貸付債権であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。また、営業投資有価証券及び投資有価証券は、主に株式、組合出資金及び債券であり、金融収益を得る営業目的、営業基盤強化目的及び経営基盤強化目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。

また、借入金、社債及びコマーシャル・ペーパー等は、市場の混乱や当社グループの財務内容の悪化などにより計画通り資金調達を行えなくなる場合には、支払期日にその支払を実行できなくなる流動性リスクに晒されております。また、資金調達の一部は変動金利による調達のため、金利の変動リスクに晒されておりますが、一部は金利スワップ取引を行うことにより当該リスクを回避しております。

当社グループで行っているデリバティブ取引には、金利関連、通貨関連のデリバティブ取引があります。金利関連では、借入金等の金利上昇リスクを回避するために金利スワップ取引を行っております。通貨関連では、外貨建金銭債権債務等の為替リスクを回避するために為替予約取引及び通貨スワップ取引等を行っております。これらはそれぞれ市場リスクを有しておりますが、いずれも当社グループ全体のリスクを軽減する役割を果たしております。

なお、当社グループはデリバティブ取引をヘッジ手段としてヘッジ会計を適用しており、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」に記載のとおりであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは「リスク管理の基本方針」を制定するとともに、総合リスク管理委員会を設置しております。信用リスク、市場リスク及び流動性リスクについて、所管リスク管理部署と総合リスク管理委員会の協働によって各リスクのリスク量やリスク管理の状況等を把握・評価し、これらを総括することによって経営として許容できる範囲内にリスクをコントロールする体制を構築しております。

信用リスクの管理

当社は、与信業務規範に則り、取引の相手方、案件の内容等を総合的に評価したうえで案件取組の可否を判断しております。案件実行後は取引先の変化や経済情勢・経営環境の変化等の事実認識・分析を通して与信管理を行っております。これらの与信管理は、各営業部のほか審査部により行われております。また、信用リスク管理委員会を定期的開催し、クレジットポートフォリオの状況、信用コスト及び信用リスク量を把握し、審議・報告を行っております。

デリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、取引相手先を信用度の高い大手金融機関に限定することにより、信用リスクの軽減を図っております。

なお、連結子会社についても、当社と同様の手続によっております。

市場リスクの管理

()金利リスクの管理

当社グループは、ALM委員会において、ALM方針に基づく実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っております。日常的には財務部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、ALM委員会及び経営会議に定期的に報告しております。

()為替リスクの管理

当社グループは、為替の変動リスクに関して、個別の案件ごとに管理しており、原則として為替予約等のデリバティブ取引を利用してヘッジしております。為替リスクの状況については、定期的にALM委員会及び経営会議に報告するなど適切に管理しております。

()価格変動リスクの管理

営業投資有価証券、有価証券及び投資有価証券の価格変動リスクについては、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握するとともに、経営会議に報告されております。

なお、当社グループで保有している株式の多くは、業務・資本提携を含む営業基盤及び経営基盤の強化の目的で保有しているものであり、保有状況を継続的に見直しております。

()デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、職務権限規程及びヘッジ会計取扱手続に基づき実施されております。

()市場リスクに係る定量的情報

当社グループにおいて、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「割賦債権」、「リース債権及びリース投資資産」、「営業貸付債権」、「営業投資有価証券」等の金融資産並びに「短期借入金」、「コマーシャル・ペーパー」、「長期借入金」等の金融負債、「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引等であります。当社グループでは、これらの金融資産及び金融負債について、指標となる金利が変動した場合の影響額を算出するベース・ポイント・バリュー等を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。当該影響額の算定にあたっては、それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いております。金利以外のすべてのリスク変数が一定であることを仮定し、平成30年3月31日現在、指標となる金利が10ベース・ポイント(0.10%)上昇したものと想定した場合の影響額は、56億23百万円と把握しております。当該影響額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておりません。

資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループは、ALMを通して、適切にグループ全体の資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、複数の金融機関からのコミットメントライン及び当座貸越枠の取得、市場環境を考慮した調達バランスや手元流動性の調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------------------|---------------------|-------------|-------------|
| (1) 現金及び預金 | 83,565 | 83,565 | - |
| (2) 割賦債権 | 216,466 | | |
| 割賦未実現利益 | 14,975 | | |
| | 201,490 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 623 | | |
| | 200,867 | 203,714 | 2,847 |
| (3) リース債権及びリース投資資産 | 1,600,637 | | |
| 見積残価(*2) | 52,517 | | |
| | 1,548,119 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 869 | | |
| | 1,547,249 | 1,609,327 | 62,078 |
| (4) 営業貸付債権 | 539,058 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 2,597 | | |
| | 536,461 | 552,890 | 16,428 |
| (5) 営業投資有価証券 | 33,290 | 33,290 | - |
| (6) 有価証券及び投資有価証券 | 37,493 | 37,493 | - |
| (7) 破産更生債権等 | 1,625 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 1,072 | | |
| | 553 | 553 | - |
| 資産 計 | 2,439,482 | 2,520,836 | 81,354 |
| (1) 支払手形及び買掛金 | 215,570 | 215,570 | - |
| (2) 短期借入金 | 416,341 | 416,341 | - |
| (3) コマーシャル・ペーパー | 800,700 | 800,700 | - |
| (4) 債権流動化に伴う支払債務 | 59,100 | 59,100 | - |
| (5) 社債 | 232,014 | 230,320 | 1,694 |
| (6) 長期借入金 | 1,218,851 | 1,208,451 | 10,399 |
| (7) 債権流動化に伴う長期支払債務 | 6,036 | 5,983 | 53 |
| (8) リース債務 | 16,629 | 16,462 | 167 |
| 負債 計 | 2,965,244 | 2,952,929 | 12,314 |
| デリバティブ取引 | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | 253 | 253 | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | 365 | 131 | (234) |
| デリバティブ取引 計 | 619 | 384 | (234) |

(*1) 割賦債権、リース債権及びリース投資資産、営業貸付債権、破産更生債権等に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) リース投資資産に含まれる見積残価は控除しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------------------|---------------------|-------------|-------------|
| (1) 現金及び預金 | 82,212 | 82,212 | - |
| (2) 割賦債権 | 210,523 | | |
| 割賦未実現利益 | 16,232 | | |
| | 194,291 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 554 | | |
| | 193,737 | 201,906 | 8,169 |
| (3) リース債権及びリース投資資産 | 1,544,595 | | |
| 見積残価(*2) | 51,979 | | |
| | 1,492,616 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 808 | | |
| | 1,491,807 | 1,561,013 | 69,205 |
| (4) 営業貸付債権 | 548,522 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 2,091 | | |
| | 546,430 | 568,440 | 22,009 |
| (5) 営業投資有価証券 | 44,954 | 44,954 | - |
| (6) 有価証券及び投資有価証券 | 47,440 | 47,440 | - |
| (7) 破産更生債権等 | 1,379 | | |
| 貸倒引当金(*1) | 1,143 | | |
| | 235 | 235 | - |
| 資産 計 | 2,406,819 | 2,506,203 | 99,384 |
| (1) 支払手形及び買掛金 | 247,209 | 247,209 | - |
| (2) 短期借入金 | 428,850 | 428,850 | - |
| (3) コマーシャル・ペーパー | 848,000 | 848,000 | - |
| (4) 債権流動化に伴う支払債務 | 61,900 | 61,900 | - |
| (5) 社債 | 264,692 | 262,138 | 2,553 |
| (6) 長期借入金 | 1,203,165 | 1,197,119 | 6,046 |
| (7) 債権流動化に伴う長期支払債務 | 4,072 | 4,031 | 41 |
| (8) リース債務 | 12,936 | 12,649 | 287 |
| 負債 計 | 3,070,827 | 3,061,899 | 8,928 |
| デリバティブ取引 | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | (440) | (440) | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | (1,320) | (1,312) | 7 |
| デリバティブ取引 計 | (1,760) | (1,753) | 7 |

(*1) 割賦債権、リース債権及びリース投資資産、営業貸付債権、破産更生債権等に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) リース投資資産に含まれる見積残価は控除しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金
預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 割賦債権、(3) リース債権及びリース投資資産並びに(4) 営業貸付債権
これらは内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を新規に同様の実行を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。
- (5) 営業投資有価証券並びに(6) 有価証券及び投資有価証券
これらの時価については、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格等によっております。
また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。
- (7) 破産更生債権等
破産更生債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

負債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) コマーシャル・ペーパー並びに(4) 債権流動化に伴う支払債務
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (5) 社債、(6) 長期借入金並びに(7) 債権流動化に伴う長期支払債務
これらは、元利金の合計額を同様の調達を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。
- (8) リース債務
主として協調リース取引に係るリース債務であり、元利金の合計額を新規に同様の実行を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

また、デリバティブ取引に関する事項については、注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

| 区分 | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|-----------------|-------------------------|-------------------------|
| 子会社株式及び関連会社株式等 | 119,927 | 203,622 |
| 非上場株式 | 13,170 | 26,900 |
| 社債 | 299 | 299 |
| 信託受益権 | 6,060 | 7,848 |
| 投資事業有限責任組合等への出資 | 73,114 | 75,288 |
| 計 | 212,572 | 313,960 |

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、(5) 営業投資有価証券並びに(6) 有価証券及び投資有価証券には含めておりません。

(注3)金融債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超 2年以内 (百万円) | 2年超 3年以内 (百万円) | 3年超 4年以内 (百万円) | 4年超 5年以内 (百万円) | 5年超 (百万円) |
|-----------------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 83,565 | - | - | - | - | - |
| 割賦債権(*1) | 76,806 | 53,477 | 34,695 | 23,424 | 9,780 | 18,282 |
| 営業貸付債権 | 235,756 | 85,216 | 71,593 | 36,294 | 48,155 | 62,041 |
| 営業投資有価証券 | | | | | | |
| その他有価証券のうち 満期があるもの | | | | | | |
| (1) 債券(社債) | - | 3,000 | 299 | - | 5,000 | 2,000 |
| (2) その他 | 3,947 | 3,499 | 5,849 | 7,466 | 863 | 54,188 |
| 有価証券及び 投資有価証券 | | | | | | |
| その他有価証券のうち 満期があるもの | | | | | | |
| (1) 債券(社債) | - | - | - | - | - | - |
| (2) その他 | 3,980 | - | - | - | - | - |
| 合計 | 404,055 | 145,193 | 112,438 | 67,185 | 63,799 | 136,512 |

(*1) 割賦債権については、連結貸借対照表計上額の回収予定額を記載しております。

(*2) リース債権及びリース投資資産の連結決算日後の回収予定額については、注記事項「リース取引関係」をご参照下さい。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超 2年以内 (百万円) | 2年超 3年以内 (百万円) | 3年超 4年以内 (百万円) | 4年超 5年以内 (百万円) | 5年超 (百万円) |
|-----------------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 82,212 | - | - | - | - | - |
| 割賦債権(*1) | 72,730 | 50,601 | 36,565 | 20,405 | 16,571 | 13,649 |
| 営業貸付債権 | 246,539 | 94,356 | 52,083 | 61,554 | 36,974 | 57,014 |
| 営業投資有価証券 | | | | | | |
| その他有価証券のうち 満期があるもの | | | | | | |
| (1) 債券(社債) | 3,000 | 299 | - | 5,000 | - | 2,000 |
| (2) その他 | 5,817 | 4,893 | 5,791 | 1,065 | 6,585 | 51,786 |
| 有価証券及び 投資有価証券 | | | | | | |
| その他有価証券のうち 満期があるもの | | | | | | |
| (1) 債券(社債) | - | - | - | - | - | - |
| (2) その他 | 5,550 | - | - | - | - | - |
| 合計 | 415,849 | 150,150 | 94,440 | 88,025 | 60,131 | 124,450 |

(*1) 割賦債権については、連結貸借対照表計上額の回収予定額を記載しております。

(*2) リース債権及びリース投資資産の連結決算日後の回収予定額については、注記事項「リース取引関係」をご参照下さい。

(注4)社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超 2年以内 (百万円) | 2年超 3年以内 (百万円) | 3年超 4年以内 (百万円) | 4年超 5年以内 (百万円) | 5年超 (百万円) |
|--------------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 短期借入金 | 416,341 | - | - | - | - | - |
| コマーシャル・ ペーパー | 800,700 | - | - | - | - | - |
| 債権流動化に伴う 支払債務 | 59,100 | - | - | - | - | - |
| 社債 | 68,242 | 43,250 | 61,161 | 30,049 | 29,312 | - |
| 長期借入金 | 350,210 | 262,400 | 222,221 | 175,097 | 128,088 | 80,832 |
| 債権流動化に伴う 長期支払債務 | 1,963 | 1,301 | 908 | 859 | 860 | 142 |
| リース債務 | 6,994 | 4,544 | 2,552 | 1,583 | 789 | 164 |
| 合計 | 1,703,552 | 311,496 | 286,844 | 207,589 | 159,051 | 81,139 |

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超 2年以内 (百万円) | 2年超 3年以内 (百万円) | 3年超 4年以内 (百万円) | 4年超 5年以内 (百万円) | 5年超 (百万円) |
|--------------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 短期借入金 | 428,850 | - | - | - | - | - |
| コマーシャル・ ペーパー | 848,000 | - | - | - | - | - |
| 債権流動化に伴う 支払債務 | 61,900 | - | - | - | - | - |
| 社債 | 70,460 | 67,564 | 55,072 | 28,820 | 31,695 | 11,080 |
| 長期借入金 | 333,063 | 313,908 | 271,258 | 165,720 | 61,600 | 57,613 |
| 債権流動化に伴う 長期支払債務 | 1,301 | 908 | 859 | 860 | 142 | - |
| リース債務 | 4,494 | 3,252 | 2,095 | 1,740 | 730 | 621 |
| 合計 | 1,748,069 | 385,635 | 329,286 | 197,141 | 94,169 | 69,315 |

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| | 種類 | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------------------------------|---------|---------------------|---------------|-------------|
| 連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの | (1) 株式 | 36,233 | 15,221 | 21,012 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | 7,152 | 7,000 | 152 |
| | その他 | - | - | - |
| | (3) その他 | 11,863 | 10,279 | 1,583 |
| | 小計 | 55,249 | 32,500 | 22,749 |
| 連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの | (1) 株式 | 3,575 | 3,935 | 360 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | 4,980 | 5,000 | 19 |
| | その他 | - | - | - |
| | (3) その他 | 6,980 | 6,980 | - |
| | 小計 | 15,535 | 15,915 | 380 |
| | 合計 | 70,784 | 48,415 | 22,368 |

(注) 1. 株式のうち非上場株式(連結貸借対照表計上額13,170百万円)、債券のうち社債(連結貸借対照表計上額299百万円)、その他のうち信託受益権(連結貸借対照表計上額6,060百万円)及び投資事業有限責任組合等への出資(連結貸借対照表計上額73,114百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. その他のうち譲渡性預金(連結貸借対照表計上額3,980百万円)については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によって連結貸借対照表計上額としており、上表の「連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」に含めております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| | 種類 | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------------------------------|---------|---------------------|---------------|-------------|
| 連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの | (1) 株式 | 45,137 | 19,073 | 26,064 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | 9,258 | 9,000 | 258 |
| | その他 | - | - | - |
| | (3) その他 | 21,224 | 19,489 | 1,735 |
| | 小計 | 75,620 | 47,562 | 28,058 |
| 連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの | (1) 株式 | 2,708 | 3,274 | 565 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | 2,995 | 3,000 | 4 |
| | その他 | - | - | - |
| | (3) その他 | 11,068 | 11,342 | 273 |
| | 小計 | 16,773 | 17,617 | 843 |
| | 合計 | 92,394 | 65,180 | 27,214 |

- (注) 1. 株式のうち非上場株式(連結貸借対照表計上額26,900百万円)、債券のうち社債(連結貸借対照表計上額299百万円)、その他のうち信託受益権(連結貸借対照表計上額7,848百万円)及び投資事業有限責任組合等への出資(連結貸借対照表計上額75,288百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。
2. その他のうち譲渡性預金(連結貸借対照表計上額5,550百万円)については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によって連結貸借対照表計上額としており、上表の「連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」に含めております。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

| 種類 | 売却額 (百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|---------|--------------|------------------|------------------|
| (1) 株式 | 4,962 | 925 | - |
| (2) 債券 | | | |
| 国債・地方債等 | - | - | - |
| 社債 | 2,031 | 31 | - |
| その他 | - | - | - |
| (3) その他 | 14,869 | 2,852 | - |
| 合計 | 21,863 | 3,809 | - |

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

| 種類 | 売却額 (百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|---------|--------------|------------------|------------------|
| (1) 株式 | 2,991 | 2,558 | - |
| (2) 債券 | | | |
| 国債・地方債等 | - | - | - |
| 社債 | 6,043 | 43 | - |
| その他 | - | - | - |
| (3) その他 | - | - | - |
| 合計 | 9,035 | 2,602 | - |

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

その他有価証券130百万円(上場株式22百万円、非上場株式108百万円)及び子会社株式2百万円について減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたり、時価のある有価証券については、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、すべて減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

また、時価のない有価証券については、連結会計年度末における実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

子会社株式3百万円について減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたり、時価のある有価証券については、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、すべて減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

また、時価のない有価証券については、連結会計年度末における実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| 区分 | 取引の種類 | 契約額等 (百万円) | 契約額等のうち 1年超(百万円) | 時価 (百万円) | 評価損益 (百万円) |
|---------------|-------------|---------------|---------------------|-------------|---------------|
| 市場取引以外の 取引 | 通貨スワップ取引 | | | | |
| | 受取円 | | | | |
| | 支払米ドル | 1,792 | - | 19 | 19 |
| | 受取米ドル | | | | |
| | 支払円 | 549 | - | 4 | 4 |
| | 受取円 | | | | |
| | 支払インドネシアルピア | 501 | 501 | 75 | 75 |
| | 直物為替先渡取引 | | | | |
| | 売建 | | | | |
| | 中国元 | 207 | 28 | 53 | 53 |
| | 為替予約取引 | | | | |
| | 売建 | | | | |
| | 米ドル | 3,144 | - | 9 | 9 |
| | ユーロ | 4,562 | 916 | 232 | 232 |
| | ブラジルリアル | 3,162 | 1,139 | 351 | 351 |
| | メキシコペソ | 2,514 | 1,043 | 429 | 429 |
| | 英ポンド | 414 | 99 | 47 | 47 |
| | その他 | 692 | 256 | 21 | 21 |
| | 買建 | | | | |
| 米ドル | 1,793 | - | 19 | 19 | |
| その他 | 45 | 2 | 2 | 2 | |
| | 合計 | 19,381 | 3,987 | 253 | 253 |

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| 区分 | 取引の種類 | 契約額等 (百万円) | 契約額等のうち 1年超(百万円) | 時価 (百万円) | 評価損益 (百万円) |
|---------------|-------------|---------------|---------------------|-------------|---------------|
| 市場取引以外の 取引 | 通貨スワップ取引 | | | | |
| | 受取円 | | | | |
| | 支払米ドル | 1,613 | - | 19 | 19 |
| | 受取円 | | | | |
| | 支払インドネシアルピア | 562 | 62 | 52 | 52 |
| | 直物為替先渡取引 | | | | |
| | 売建 | | | | |
| | 中国元 | 28 | - | 9 | 9 |
| | 為替予約取引 | | | | |
| | 売建 | | | | |
| | ユーロ | 5,016 | 946 | 163 | 163 |
| | ブラジルリアル | 2,518 | 1,250 | 359 | 359 |
| | メキシコペソ | 3,758 | 1,993 | 174 | 174 |
| | 英ポンド | 203 | 57 | 0 | 0 |
| | その他 | 908 | 469 | 44 | 44 |
| 買建 | | | | | |
| 米ドル | 1,613 | - | 19 | 19 | |
| その他 | 553 | 25 | 13 | 13 | |
| | 合計 | 16,775 | 4,804 | 440 | 440 |

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| ヘッジ会計の方法 | 取引の種類 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 (百万円) | 契約額等のうち 1年超(百万円) | 時価 (百万円) |
|-------------------|---------------------------|---------------------------------|---------------|---------------------|-------------|
| 為替予約等の 振当処理 | 為替予約取引 売建 | | | | |
| | 米ドル | 割賦債権 | 2,559 | 1,314 | 226 |
| | 中国元 | 割賦債権 | 1,083 | 569 | 36 |
| | 買建 | | | | |
| | 米ドル | リース 投資資産 | 8 | - | 0 |
| | ユーロ | リース 投資資産 | 1,147 | - | 16 |
| | 通貨スワップ取引 | | | | |
| | 受取米ドル 支払マレーシアリン ギット | 借入金 | 3,872 | - | 174 |
| | 受取米ドル 支払タイバーツ | 借入金 | 2,733 | 1,758 | 247 |
| | | | | | |
| 為替予約等の 繰延ヘッジ処理 | 為替予約取引 売建 | | | | |
| | 米ドル | 予定取引 在外子会社 に対する持 分への投資 | 729 | - | 17 |
| | ユーロ | 在外子会社 に対する持 分への投資 | 2,569 | - | 149 |
| | 英ポンド | 在外子会社 に対する持 分への投資 | 2,311 | - | 145 |
| 合計 | | | 17,015 | 3,642 | 420 |

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| ヘッジ会計の方法 | 取引の種類 | 主なヘッジ対象 | 契約額等(百万円) | 契約額等のうち1年超(百万円) | 時価(百万円) |
|-----------------------|--------------|-----------------|------------------|------------------|------------|
| 為替予約等の振当処理 | 為替予約取引 売建 | | | | |
| | 米ドル | 割賦債権 | 2,297 | 1,206 | 13 |
| | 中国元 | 割賦債権 | 568 | 238 | 71 |
| | 買建 | | | | |
| | 米ドル | 割賦債権 | 38 | - | 0 |
| | その他 | 割賦債権 | 9 | - | 0 |
| | 通貨スワップ取引 | | | | |
| 受取米ドル 支払マレーシアリンギット | 借入金 | 3,956 | 1,695 | 104 | |
| 受取米ドル 支払タイバーツ | 借入金 | 4,341 | 2,076 | 10 | |
| 為替予約等の繰延ヘッジ処理 | 為替予約取引 売建 | | | | |
| | ユーロ | 在外子会社に対する持分への投資 | 3,394 | - | 57 |
| | 英ポンド | 在外子会社に対する持分への投資 | 2,915 | - | 86 |
| | 買建 | | | | |
| | 米ドル カナダドル | 予定取引 予定取引 | 26,627 10,499 | 26,627 10,499 | 970 617 |
| 合計 | | | 54,648 | 42,344 | 1,931 |

(注) 時価の算定方法
取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

| ヘッジ会計の方法 | 取引の種類 | 主なヘッジ対象 | 契約額等(百万円) | 契約額等のうち1年超(百万円) | 時価(百万円) |
|-------------|-----------|--------------|-----------|-----------------|---------|
| 原則的処理方法 | 金利スワップ取引 | | | | |
| | 支払固定・受取変動 | 借入金 | 42,549 | 42,165 | 90 |
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引 | | | | |
| | 支払固定・受取変動 | 借入金 営業貸付金 | 42,802 | 36,390 | 379 |
| 合計 | | | 85,352 | 78,556 | 289 |

(注) 時価の算定方法
取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

| ヘッジ会計の方法 | 取引の種類 | 主なヘッジ対象 | 契約額等(百万円) | 契約額等のうち1年超(百万円) | 時価(百万円) |
|-------------|-----------|--------------|-----------|-----------------|---------|
| 原則的処理方法 | 金利スワップ取引 | | | | |
| | 支払固定・受取変動 | 借入金 | 83,131 | 80,321 | 411 |
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引 | | | | |
| | 支払固定・受取変動 | 借入金 営業貸付金 | 35,943 | 24,218 | 207 |
| 合計 | | | 119,074 | 104,540 | 618 |

(注) 時価の算定方法
取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として企業年金基金制度（連合設立型）及び確定給付企業年金制度、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

なお、一部の国内連結子会社については、確定給付型の制度として退職一時金制度及び確定給付企業年金制度、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | |
|--------------------|--|--------|--|--------|
| | 退職給付債務の期首残高 | 22,062 | 百万円 | 22,546 |
| 勤務費用 | 1,021 | 百万円 | 1,034 | 百万円 |
| 利息費用 | 79 | 百万円 | 89 | 百万円 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 6 | 百万円 | 0 | 百万円 |
| 退職給付の支払額 | 624 | 百万円 | 468 | 百万円 |
| 簡便法から原則法への変更に伴う振替額 | 1 | 百万円 | - | 百万円 |
| 退職給付債務の期末残高 | 22,546 | 百万円 | 23,202 | 百万円 |

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | |
|--------------|--|--------|--|--------|
| | 年金資産の期首残高 | 13,771 | 百万円 | 14,374 |
| 期待運用収益 | 247 | 百万円 | 236 | 百万円 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 14 | 百万円 | 246 | 百万円 |
| 事業主からの拠出額 | 821 | 百万円 | 821 | 百万円 |
| 退職給付の支払額 | 451 | 百万円 | 363 | 百万円 |
| 年金資産の期末残高 | 14,374 | 百万円 | 15,315 | 百万円 |

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) | |
|-----------------------|-------------------------|--------|-------------------------|--------|
| | 積立型制度の退職給付債務 | 18,283 | 百万円 | 18,773 |
| 年金資産 | 14,374 | 百万円 | 15,315 | 百万円 |
| | 3,908 | 百万円 | 3,457 | 百万円 |
| 非積立型制度の退職給付債務 | 4,263 | 百万円 | 4,429 | 百万円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 8,172 | 百万円 | 7,887 | 百万円 |
| 退職給付に係る負債 | 8,172 | 百万円 | 7,887 | 百万円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 8,172 | 百万円 | 7,887 | 百万円 |

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 勤務費用 | 1,021 百万円 | 1,034 百万円 |
| 利息費用 | 79 百万円 | 89 百万円 |
| 期待運用収益 | 247 百万円 | 236 百万円 |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 374 百万円 | 395 百万円 |
| 過去勤務費用の費用処理額 | 10 百万円 | 10 百万円 |
| その他(注) | - 百万円 | 216 百万円 |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 1,217 百万円 | 1,488 百万円 |

(注) 臨時に支払った割増退職金であります。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内容は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|----------|--|--|
| 過去勤務費用 | 10 百万円 | 10 百万円 |
| 数理計算上の差異 | 354 百万円 | 644 百万円 |
| 合計 | 343 百万円 | 634 百万円 |

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内容は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 未認識過去勤務費用 | 131 百万円 | 121 百万円 |
| 未認識数理計算上の差異 | 2,025 百万円 | 1,380 百万円 |
| 合計 | 1,894 百万円 | 1,259 百万円 |

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------|
| 一般勘定 | 50 % | 50 % |
| 債券 | 33 % | 30 % |
| 株式 | 14 % | 15 % |
| その他 | 3 % | 5 % |
| 合計 | 100 % | 100 % |

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の分配と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 割引率 | 主として0.2~0.7% | 主として0.2~0.6% |
| 長期期待運用収益率 | 主として1.2~2.5% | 主として1.0~2.5% |
| 予想昇給率 | 主として1.3~7.3% | 主として1.3~7.3% |

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

| | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|--------------------|-------------------------------|-----|-------------------------------|-----|
| | (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | | (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) | |
| 退職給付に係る負債の期首残高 | 1,323 | 百万円 | 1,367 | 百万円 |
| 退職給付費用 | 294 | 百万円 | 384 | 百万円 |
| 退職給付の支払額 | 248 | 百万円 | 422 | 百万円 |
| 新規連結による増加額 | - | 百万円 | 264 | 百万円 |
| 簡便法から原則法への変更に伴う振替額 | 1 | 百万円 | - | 百万円 |
| 退職給付に係る負債の期末残高 | 1,367 | 百万円 | 1,593 | 百万円 |

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

| | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|-----------------------|--------------|-----|--------------|-----|
| | (平成29年3月31日) | | (平成30年3月31日) | |
| 積立型制度の退職給付債務 | 412 | 百万円 | 407 | 百万円 |
| 年金資産 | 155 | 百万円 | 155 | 百万円 |
| | 257 | 百万円 | 251 | 百万円 |
| 非積立型制度の退職給付債務 | 1,110 | 百万円 | 1,342 | 百万円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 1,367 | 百万円 | 1,593 | 百万円 |
| 退職給付に係る負債 | 1,367 | 百万円 | 1,614 | 百万円 |
| 退職給付に係る資産 | - | 百万円 | 20 | 百万円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 1,367 | 百万円 | 1,593 | 百万円 |

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 294 百万円 当連結会計年度 384 百万円

4. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度219百万円、当連結会計年度226百万円でありました。

5. 複数事業主制度

(採用している退職金制度の概要)

当社は、複数事業主制度の企業年金基金制度に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であるため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

確定拠出制度と同様に会計処理している、複数事業主制度の企業年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度172百万円、当連結会計年度176百万円であります。

なお、一部の国内連結子会社が加入する複数事業主制度の企業年金基金制度については、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができる制度であるため、「2. 確定給付制度」に含めて記載しております。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成29年3月31日現在) |
|-------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 年金資産の額 | 22,975 百万円 | 25,926 百万円 |
| 年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額 | 33,225 百万円 | 33,240 百万円 |
| 差引額 | 10,249 百万円 | 7,313 百万円 |

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の掛金拠出割合

前連結会計年度 6.30% (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当連結会計年度 6.15% (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度12,705百万円、当連結会計年度12,413百万円)であります。当基金における過去勤務債務の償却方法は、期間16年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

| | 前連結会計年度 (自 平成28年4月1日) (至 平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年4月1日) (至 平成30年3月31日) |
|--------------------|--|--|
| 販売費及び一般管理費(株式報酬費用) | 281百万円 | 345百万円 |

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

| | 平成24年 ストック・オプション | 平成25年 ストック・オプション | 平成26年 ストック・オプション |
|---------------|---|---|---|
| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社取締役 7名 (社外取締役及び 非常勤取締役を除く) 当社執行役員 22名 | 当社取締役 7名 (社外取締役及び 非常勤取締役を除く) 当社執行役員 20名 | 当社取締役 7名 (社外取締役及び 非常勤取締役を除く) 当社執行役員 19名 当社従業員 6名 |
| 株式の種類及び付与数(注) | 普通株式 113,700株 | 普通株式 59,300株 | 普通株式 76,000株 |
| 付与日 | 平成24年10月15日 | 平成25年9月24日 | 平成26年9月29日 |
| 権利確定条件 | 権利確定条件は付されて おりません。 | 権利確定条件は付されて おりません。 | 権利確定条件は付されて おりません。 |
| 対象勤務期間 | 対象勤務期間の定めはあ りません。 | 対象勤務期間の定めはあ りません。 | 対象勤務期間の定めはあ りません。 |
| 権利行使期間 | 自 平成24年10月16日 至 平成54年10月15日 ただし、新株予約権者 は、上記の期間内である ことに加え、当社の取締 役、監査役及び執行役員 のいずれの地位も喪失し たその翌日から10日(但 し、10日目が当社の休日 にあたるときは、その前 営業日を最終日とする。)を経過するまでの 間に限り、本新株予約権 を一括してのみ行使す ることができるものとし る。 | 自 平成25年9月25日 至 平成55年9月24日 ただし、新株予約権者 は、上記の期間内である ことに加え、当社の取締 役、監査役及び執行役員 のいずれの地位も喪失し たその翌日から10日(但 し、10日目が当社の休日 にあたるときは、その前 営業日を最終日とする。)を経過するまでの 間に限り、本新株予約権 を一括してのみ行使す ることができるものとし る。 | 自 平成26年9月30日 至 平成56年9月29日 ただし、新株予約権者 は、上記の期間内である ことに加え、当社の取締 役、監査役、執行役員及 び従業員のいずれの地位 も喪失したその翌日から 10日(但し、10日目が当 社の休日にあたるときは 、その前営業日を最終 日とする。)を経過する までの間に限り、本新株 予約権を一括してのみ行 使することができるもの とする。 |

| | 平成27年 ストック・オプション | 平成28年 ストック・オプション | 平成29年 ストック・オプション |
|---------------|--|--|--|
| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社取締役 7名 (社外取締役及び 非常勤取締役を除く) 当社執行役員 20名 当社従業員 7名 | 当社取締役 8名 (社外取締役及び 非常勤取締役を除く) 当社執行役員 19名 当社従業員 7名 | 当社取締役 8名 (社外取締役及び 非常勤取締役を除く) 当社執行役員 17名 当社従業員 7名 |
| 株式の種類及び付与数(注) | 普通株式 74,600株 | 普通株式 82,700株 | 普通株式 75,700株 |
| 付与日 | 平成27年10月26日 | 平成28年9月21日 | 平成29年9月27日 |
| 権利確定条件 | 権利確定条件は付されて おりません。 | 権利確定条件は付されて おりません。 | 権利確定条件は付されて おりません。 |
| 対象勤務期間 | 対象勤務期間の定めはあ りません。 | 対象勤務期間の定めはあ りません。 | 対象勤務期間の定めはあ りません。 |
| 権利行使期間 | 自 平成27年10月27日 至 平成57年10月26日 ただし、新株予約権者 は、上記の期間内である ことに加え、当社の取締 役、監査役、執行役員及 び従業員のいずれの地位 も喪失したその翌日から 10日(但し、10日目が当 社の休日にあたる時は、 その前営業日を最終 日とする。)を経過する までの間に限り、本新株 予約権を一括してのみ行 使することができるもの とする。 | 自 平成28年9月22日 至 平成58年9月21日 ただし、新株予約権者 は、上記の期間内である ことに加え、当社の取締 役、監査役、執行役員及 び従業員のいずれの地位 も喪失したその翌日から 10日(但し、10日目が当 社の休日にあたる時は、 その前営業日を最終 日とする。)を経過する までの間に限り、本新株 予約権を一括してのみ行 使することができるもの とする。 | 自 平成29年9月28日 至 平成59年9月27日 ただし、新株予約権者 は、上記の期間内である ことに加え、当社の取締 役、監査役、執行役員及 び従業員のいずれの地位 も喪失したその翌日から 10日(但し、10日目が当 社の休日にあたる時は、 その前営業日を最終 日とする。)を経過する までの間に限り、本新株 予約権を一括してのみ行 使することができるもの とする。 |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成30年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

| | 平成24年 ストック・オプション | 平成25年 ストック・オプション | 平成26年 ストック・オプション |
|----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
| 権利確定前(株) | | | |
| 前連結会計年度末 | | | |
| 付与 | | | |
| 失効 | | | |
| 権利確定 | | | |
| 未確定残 | | | |
| 権利確定後(株) | | | |
| 前連結会計年度末 | 74,900 | 43,200 | 62,800 |
| 権利確定 | | | |
| 権利行使 | 6,800 | 4,700 | 7,000 |
| 失効 | | | |
| 未行使残 | 68,100 | 38,500 | 55,800 |

| | 平成27年 ストック・オプション | 平成28年 ストック・オプション | 平成29年 ストック・オプション |
|----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
| 権利確定前(株) | | | |
| 前連結会計年度末 | | | |
| 付与 | | | 75,700 |
| 失効 | | | |
| 権利確定 | | | 75,700 |
| 未確定残 | | | |
| 権利確定後(株) | | | |
| 前連結会計年度末 | 68,800 | 82,700 | |
| 権利確定 | | | 75,700 |
| 権利行使 | 6,800 | 7,100 | |
| 失効 | | | |
| 未行使残 | 62,000 | 75,600 | 75,700 |

単価情報

| | 平成24年 ストック・オプション | 平成25年 ストック・オプション | 平成26年 ストック・オプション |
|-----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
| 権利行使価格(円) | 1 | 1 | 1 |
| 行使時平均株価(円) | 3,861 | 3,833 | 3,828 |
| 付与日における公正な 評価単価(円) | 1,306 | 3,038 | 2,716 |

| | 平成27年 ストック・オプション | 平成28年 ストック・オプション | 平成29年 ストック・オプション |
|-----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
| 権利行使価格(円) | 1 | 1 | 1 |
| 行使時平均株価(円) | 3,836 | 3,837 | |
| 付与日における公正な 評価単価(円) | 3,805 | 3,406 | 4,567 |

3. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

- (1)使用した評価技法 ブラック・ショールズ式
(2)主な基礎数値及びその見積方法

| | | |
|--------|-------|--------|
| 株価変動性 | (注) 1 | 30.52% |
| 予想残存期間 | (注) 2 | 4.0年 |
| 予想配当 | (注) 3 | 105円/株 |
| 無リスク利率 | (注) 4 | 0.123% |

- (注) 1. 過去4.0年間(平成25年10月7日から平成29年9月27日)の実績に基づき算定しております。
2. 当社役員の退任時の年齢等に基づき見積もっております。
3. 付与日時点の平成30年3月期の普通株式配当予想によっております。
4. 予想残存期間に対応する国債の利回りに基づき算出しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 繰越欠損金 | 7,195百万円 | 7,805百万円 |
| リース取引に係る申告調整額 | 2,639百万円 | 3,130百万円 |
| 退職給付に係る負債 | 2,857百万円 | 2,836百万円 |
| 未払費用 | 1,432百万円 | 1,896百万円 |
| 貸倒引当金 | 2,360百万円 | 1,621百万円 |
| 固定資産の償却限度超過額 | 954百万円 | 1,219百万円 |
| 賞与引当金 | 849百万円 | 1,012百万円 |
| 投資有価証券等評価損 | 937百万円 | 959百万円 |
| 固定資産評価損 | 399百万円 | 385百万円 |
| その他 | 5,561百万円 | 7,310百万円 |
| 繰延税金資産小計 | 25,187百万円 | 28,178百万円 |
| 評価性引当額 | 791百万円 | 654百万円 |
| 繰延税金資産合計 | 24,396百万円 | 27,524百万円 |
| 繰延税金負債 | | |
| 在外子会社賃貸資産減価償却費 | 16,807百万円 | 16,892百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 6,577百万円 | 7,516百万円 |
| 譲渡損益調整資産 | 1,446百万円 | 1,661百万円 |
| その他 | 6,569百万円 | 5,008百万円 |
| 繰延税金負債合計 | 31,401百万円 | 31,078百万円 |
| 繰延税金資産(負債)の純額 | 7,004百万円 | 3,554百万円 |

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、繰延税金負債の「その他」に含めていた「譲渡損益調整資産」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替えを行なっています。

この結果、前連結会計年度の「その他」に表示していた 8,016百万円は、「譲渡損益調整資産」 1,446万円、「その他」 6,569百万円に組み替えております。

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 流動資産 - 繰延税金資産 | 7,074百万円 | 9,590百万円 |
| 固定資産 - 繰延税金資産 | 6,124百万円 | 4,634百万円 |
| 流動負債 - 繰延税金負債 | 2,138百万円 | 1,236百万円 |
| 固定負債 - 繰延税金負債 | 18,065百万円 | 16,543百万円 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (平成30年3月31日) |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 法定実効税率 | | 30.9% |
| (調整) | | |
| 米国税制改正 | | 3.8% |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | | 1.5% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | | 1.1% |
| 在外子会社留保利益金課税 | | 1.4% |
| その他 | | 0.1% |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | | 28.2% |

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 米国税制改正について

米国税制改正法が平成29年12月22日に成立し、米子会社に適用される連邦法人所得税率は従来の35%から平成30年1月1日以降は21%に引下げられることとなりました。

この税率変更により、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は5,410百万円、法人税等調整額は5,394百万円減少し、繰延ヘッジ損益は16百万円増加しております。また、米国連結子会社に係る一定の米国外留保利益に対して税負担が発生し、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)及び法人税等調整額は2,397百万円増加しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)及び当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸商業施設や賃貸オフィスビル(土地を含む)等を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は4,837百万円(主な賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であり、当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は4,427百万円(主な賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) | 当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日) |
|------------|--|--|
| 連結貸借対照表計上額 | 期首残高 | 79,635 |
| | 期中増減額 | 17,625 |
| | 期末残高 | 97,261 |
| 期末時価 | 100,656 | 91,741 |

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、不動産取得(39,947百万円)であります。当連結会計年度の主な減少は、不動産売却(19,797百万円)であります。

3. 期末の時価は、主要な物件については不動産鑑定評価基準に基づく評価額、その他の物件については適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく価額等であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「賃貸・割賦事業」、「ファイナンス事業」及び「その他の事業」を報告セグメントとしております。

「賃貸・割賦事業」は、情報・事務用機器、産業工作機械、輸送用機器、商業・サービス用機器等の賃貸業務（賃貸取引の満了・中途解約に伴う物件販売等を含む）及び割賦販売業務を行っております。「ファイナンス事業」は、金銭の貸付業務、営業投資目的の有価証券及び匿名組合への出資に係る投資業務等を行っております。また、「その他の事業」は、手数料及び太陽光売電業務等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

| | 賃貸・割賦事業 | ファイナンス事業 | その他の事業 | 合計 |
|--------------------|-----------|----------|--------|-----------|
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 924,246 | 24,211 | 27,649 | 976,107 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | | | 1,462 | 1,462 |
| 計 | 924,246 | 24,211 | 29,111 | 977,569 |
| セグメント利益 | 59,931 | 12,622 | 8,095 | 80,649 |
| セグメント資産 | 2,615,314 | 779,332 | 32,938 | 3,427,585 |
| その他の項目 | | | | |
| 減価償却費 | 98,154 | | 1,657 | 99,812 |
| のれんの償却額 | 381 | | | 381 |
| 有形固定資産及び無形固定資産の増加額 | 211,305 | | 7,237 | 218,543 |

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

| | 賃貸・割賦事業 | ファイナンス事業 | その他の事業 | 合計 |
|--------------------|-----------|----------|---------|-----------|
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 959,812 | 27,306 | 25,081 | 1,012,200 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | | | 1,945 | 1,945 |
| 計 | 959,812 | 27,306 | 27,027 | 1,014,145 |
| セグメント利益 | 59,496 | 15,770 | 7,260 | 82,527 |
| セグメント資産 | 2,639,988 | 821,176 | 124,616 | 3,585,781 |
| その他の項目 | | | | |
| 減価償却費 | 112,270 | | 2,412 | 114,683 |
| のれんの償却額 | 581 | | | 581 |
| 有形固定資産及び無形固定資産の増加額 | 168,905 | | 88,835 | 257,741 |

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

| 売上高 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|------------|---------|-----------|
| 報告セグメント計 | 977,569 | 1,014,145 |
| セグメント間取引消去 | 1,462 | 1,945 |
| 連結財務諸表の売上高 | 976,107 | 1,012,200 |

(単位：百万円)

| 利益 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|-------------|---------|---------|
| 報告セグメント計 | 80,649 | 82,527 |
| セグメント間取引消去 | 1,462 | 1,945 |
| 全社費用(注) | 7,187 | 6,837 |
| 連結財務諸表の営業利益 | 71,999 | 73,744 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位：百万円)

| 資産 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|-------------|-----------|-----------|
| 報告セグメント計 | 3,427,585 | 3,585,781 |
| 全社資産(注) | 152,297 | 173,687 |
| 連結財務諸表の資産合計 | 3,579,882 | 3,759,469 |

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない預金等であります。

(単位：百万円)

| その他の項目 | 報告セグメント計 | | 調整額(注) | | 連結財務諸表計上額 | |
|------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 前連結 会計年度 | 当連結 会計年度 | 前連結 会計年度 | 当連結 会計年度 | 前連結 会計年度 | 当連結 会計年度 |
| 減価償却費 | 99,812 | 114,683 | 2,547 | 2,993 | 102,359 | 117,677 |
| のれんの償却額 | 381 | 581 | 481 | 481 | 863 | 1,063 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 218,543 | 257,741 | 2,526 | 5,187 | 221,069 | 262,928 |

(注) 調整額は全社資産にかかるものであります。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

| | ファイナンス リース | オペレーティ ングリース | 割賦販売取引 | ファイナンス 取引 | その他 | 合計 |
|-----------|---------------|-----------------|--------|--------------|--------|---------|
| 外部顧客への売上高 | 580,169 | 270,438 | 73,639 | 24,211 | 27,649 | 976,107 |

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

| | ファイナンス リース | オペレーティ ングリース | 割賦販売取引 | ファイナンス 取引 | その他 | 合計 |
|-----------|---------------|-----------------|--------|--------------|--------|-----------|
| 外部顧客への売上高 | 601,832 | 300,922 | 57,057 | 27,306 | 25,081 | 1,012,200 |

2. 地域ごとの情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

| 日本 | 欧米 | | アジア | 中南米 | 合計 |
|---------|---------|---------|-------|--------|---------|
| | アイルランド | その他 | | | |
| 410,731 | 124,116 | 110,340 | 6,096 | 30,339 | 681,624 |

(注) 1 当社及び連結子会社の所在する国又は地域別に記載しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

欧米 ... アイルランド、米国、イギリス、ドイツ、キプロス

アジア ... シンガポール、マレーシア、タイ

中南米 ... パナマ、メキシコ、ブラジル

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(1) 売上高

(単位：百万円)

| 日本 | 欧米 | | アジア | 中南米 | 合計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-----------|
| | アイルランド | その他 | | | |
| 901,666 | 16,690 | 53,006 | 16,281 | 24,555 | 1,012,200 |

(注) 1 当社及び連結子会社の所在する国又は地域別に記載しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

欧米 ... アイルランド、米国、イギリス、ドイツ、キプロス

アジア ... シンガポール、マレーシア、タイ

中南米 ... パナマ、メキシコ、ブラジル

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

| 日本 | 欧米 | | アジア | 中南米 | 合計 |
|---------|---------|---------|--------|--------|---------|
| | アイルランド | その他 | | | |
| 523,008 | 107,268 | 104,692 | 10,733 | 33,936 | 779,638 |

3. 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)及び当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

外部顧客への売上高のうち連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

| | 賃貸・割賦事業 | ファイナンス事業 | その他の事業 | 合計 |
|------|---------|----------|--------|-------|
| 減損損失 | 2,624 | | | 2,624 |

航空機資産の一部について減損損失を計上しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

| | 賃貸・割賦事業 | ファイナンス事業 | その他の事業 | 合計 |
|-------|---------|----------|--------|--------|
| 当期償却額 | 381 | | | 381 |
| 当期末残高 | 10,479 | | | 10,479 |

複数の報告セグメントに係るのれん償却額481百万円、未償却残高3,132百万円は、報告セグメントに配分しておりません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

| | 賃貸・割賦事業 | ファイナンス事業 | その他の事業 | 合計 |
|-------|---------|----------|--------|--------|
| 当期償却額 | 581 | | | 581 |
| 当期末残高 | 14,235 | | | 14,235 |

複数の報告セグメントに係るのれん償却額481百万円、未償却残高2,650百万円は、報告セグメントに配分しておりません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)及び当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 関連当事者との取引

重要性がないため、記載を省略しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

重要性がないため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

| | 前連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日) |
|-----------------------|--|--|
| 1 株当たり純資産額 | 3,360円 27銭 | 3,750円 35銭 |
| 1 株当たり当期純利益金額 | 413円 51銭 | 486円 09銭 |
| 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額 | 412円 36銭 | 484円 53銭 |

(注) 1 株当たり純資産額、1 株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1 . 1 株当たり純資産額

| | 前連結会計年度 (平成29年 3 月31日) | 当連結会計年度 (平成30年 3 月31日) |
|------------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 純資産の部の合計額 (百万円) | 404,818 | 456,036 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円) | 50,117 | 60,044 |
| (内新株予約権 (百万円)) | (943) | (1,196) |
| (内非支配株主持分 (百万円)) | (49,174) | (58,847) |
| 普通株式に係る期末の純資産額 (百万円) | 354,701 | 395,992 |
| 1 株当たりの純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (千株) | 105,557 | 105,588 |

2 . 1 株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額

| | 前連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日) | 当連結会計年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日) |
|--|--|--|
| 1 株当たり当期純利益金額 | | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) | 43,648 | 51,324 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) | 43,648 | 51,324 |
| 普通株式の期中平均株式数 (千株) | 105,557 | 105,586 |
| 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額 | | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円) | - | - |
| 普通株式の増加数 (千株) | 293 | 341 |
| (うち新株予約権 (千株)) | (293) | (341) |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | - | - |

(重要な後発事象)

(社債の発行)

当社は平成30年4月13日付で第22回・第23回・第24回無担保社債(社債間限定同順位特約付)を発行いたしました。その概要は次のとおりであります。

| | 第22回債 | 第23回債 | 第24回債 |
|-------|---|-----------------|-----------------|
| 発行総額 | 金20,000百万円 | 金20,000百万円 | 金10,000百万円 |
| 発行価格 | 各社債の金額100円につき金100円 | | |
| 利率 | 年0.06% | 年0.20% | 年0.32% |
| 償還金額 | 各社債の金額100円につき金100円 | | |
| 償還期限 | 平成33年4月13日(3年債) | 平成35年4月13日(5年債) | 平成37年4月11日(7年債) |
| 償還方法 | 満期一括償還 | | |
| 払込期日 | 平成30年4月13日 | | |
| 担保 | 本社債には担保及び保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はありません。 | | |
| 資金の用途 | 短期社債の償還資金 | | |

(取得による企業結合)

当社は、平成30年4月27日付で神鋼不動産株式会社(以下「神鋼不動産」)の発行済株式総数の70%を取得する株式譲渡契約を締結しました。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称、事業の内容及び規模

被取得企業の名称 神鋼不動産(本社:兵庫県神戸市)

事業の内容 不動産開発・分譲、賃貸、仲介、リフォーム事業等

規模(平成29年3月31日)連結純資産 51,373百万円

連結総資産 114,153百万円

株式取得の理由

当社のスペシャルティ事業分野は、第三次中期経営計画において、「ファイナンス」と「事業」の融合による新たな価値創造をテーマに掲げており、様々なプロダクツの専門性を追求することにより、新たな成長領域の創出に取り組みながら、優良なパートナーとともに、ダイナミックに事業に挑戦してまいりました。

不動産分野は、航空機、船舶、環境・エネルギーとならぶスペシャルティ事業分野における4つの柱の一つであり、企業結合を通じて、神鋼不動産が有する総合不動産会社としての機能・プラットフォームを活用し、当社と力を融合することにより、開発から保有・管理、出口までの各ライフステージにおける事業機会の拡大や出口戦略の多様化など、シナジー効果の発揮を含めてさらなる発展を目指します。

企業結合日

平成30年7月1日(予定)

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

名称の変更はありません。

取得する株式数、持分比率及び議決権比率

取得する株式の数(持分比率) 40,370株(70.0%)、議決権の数(議決権比率) 40,370個(70.0%)

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得する予定のためです。

(2) 被取得企業の取得の対価及び資金の調達方法

取得の対価 現金 692億円(概算)

取得の対価は、企業結合日を基準として株式譲渡契約所定の方法により後日調整される予定です。

取得に要する資金は、新規借入等により調達する予定です。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 4億円(概算)

【連結附属明細表】

【社債明細表】

| 会社名 | 銘柄 | 発行年月日 | 当期首残高 (百万円) | 当期末残高 (百万円) | 利率 (%) | 担保 | 償還期限 |
|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|--|---|---------------|----|--------------------------------|
| 東京センチュリー(株) | 無担保社債 (社債間限定同順位特約付) | 平成 年月日 25.4.19~ 29.10.18 | 175,000 (40,000) | 190,000 (40,000) | 0.03~ 0.44 | なし | 平成 年月日 30.4.19~ 36.10.18 |
| | ユーロ・メディアム・ ターム・ノート (円建社債) | 27.12.16~ 30.2.26 | 18,500 (18,500) | 33,600 (27,000) | 0.02~ 0.05 | なし | 30.4.27~ 32.2.27 |
| | ユーロ・メディアム・ ターム・ノート (米ドル建社債) | 26.4.24~ 29.5.8 | 28,162 (7,629) [US\$251百万] ([US\$68百万]) | 26,142 (-) [US\$246百万] ([US\$ - 百万]) | 2.60~ 3.18 | なし | 31.8.27~ 34.5.9 |
| 周南パワー(株) | 無担保社債 | 29.10.20 | - (-) | 1,080 (-) | 2.50 | なし | 44.3.31 |
| その他国内子会社 | 担保付社債 | 29.12.15 | - (-) | 100 (-) | 0.29 | あり | 32.1.31 |
| TISCO Tokyo Leasing Co.,Ltd. | タイバーツ建無担保社債 | 27.3.25~ 29.7.27 | 8,612 (2,112) [THB2,650百万] ([THB650百万]) | 12,110 (3,460) [THB3,500百万] ([THB1,000百 万]) | 1.99~ 2.94 | なし | 30.3.25~ 32.7.27 |
| PT.Century Tokyo Leasing Indonesia | インドネシアルピア建 無担保社債 | 28.12.15 | 1,740 (-) [IDR2,000億] ([IDR - 百万]) | 1,660 (-) [IDR2,000億] ([IDR - 百万]) | 8.75 | なし | 31.12.16 |
| 合計 | - | - | 232,014 (68,242) | 264,692 (70,460) | - | - | - |

(注) 1.()内の金額は、1年内償還予定の金額であります。また、[]内書は外貨建社債の金額であります。
2. 連結決算日後5年内における償還予定額は次のとおりであります。

| 1年以内(百万円) | 1年超2年以内 (百万円) | 2年超3年以内 (百万円) | 3年超4年以内 (百万円) | 4年超5年以内 (百万円) |
|-----------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 70,460 | 67,564 | 55,072 | 28,820 | 31,695 |

【借入金等明細表】

| 区分 | 当期首残高 (百万円) | 当期末残高 (百万円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|----------------------------|----------------|----------------|-------------|---------------------|
| 短期借入金 | 416,341 | 428,850 | 1.13 | - |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 350,210 | 333,063 | 1.68 | - |
| 1年内返済予定のリース債務 | 6,994 | 4,494 | - | - |
| 長期借入金 (1年内返済予定のものを除く) | 868,640 | 870,102 | 1.26 | 平成31年4月～ 平成44年3月 |
| リース債務 (1年内返済予定のものを除く) | 9,634 | 8,441 | - | - |
| その他有利子負債 | | | | |
| コマーシャル・ペーパー (1年内返済) | 800,700 | 848,000 | 0.02 | - |
| 債権流動化に伴う支払債務 | 59,100 | 61,900 | 0.09 | - |
| 1年内支払予定の債権流動化に伴う長 期支払債務 | 1,963 | 1,301 | 0.11 | - |
| 債権流動化に伴う長期支払債務 | 4,072 | 2,771 | 0.11 | 平成34年5月 |
| 合計 | 2,517,658 | 2,558,925 | - | - |

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 なお、リース債務については、利息相当額を認識しない方法を採用しているため、平均利率の記載を省略して
 おります。
 2. 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債(1年内返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内におけ
 る返済予定額は次のとおりであります。

| | 1年超2年以内 (百万円) | 2年超3年以内 (百万円) | 3年超4年以内 (百万円) | 4年超5年以内 (百万円) |
|----------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 長期借入金 | 313,908 | 271,258 | 165,720 | 61,600 |
| リース債務 | 3,252 | 2,095 | 1,740 | 730 |
| その他有利子負債 | 908 | 859 | 860 | 142 |

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結
 会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

| (累計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 当連結会計年度 |
|-------------------------------------|---------|---------|---------|-----------|
| 売上高 (百万円) | 238,807 | 484,063 | 746,329 | 1,012,200 |
| 税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円) | 19,113 | 38,233 | 59,382 | 79,466 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (百万円) | 10,921 | 22,779 | 35,795 | 51,324 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円) | 103.45 | 215.75 | 339.02 | 486.09 |
| (会計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
| 1株当たり 四半期純利益金額 (円) | 103.45 | 112.30 | 123.27 | 147.07 |

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 17,670 | 16,830 |
| 受取手形 | 3 | 8 13 |
| 割賦債権 | 89,659 | 74,659 |
| リース債権 | 2 159,466 | 2 123,558 |
| リース投資資産 | 2 699,462 | 2 684,695 |
| 営業貸付金 | 2, 3, 7 509,871 | 2, 3, 7 514,826 |
| その他の営業貸付債権 | 7 80,121 | 7 79,427 |
| 営業投資有価証券 | 177,834 | 2 184,338 |
| 賃貸料等未収入金 | 4,416 | 6,419 |
| 前渡金 | 19,604 | 13,311 |
| 前払費用 | 1,376 | 1,206 |
| 繰延税金資産 | 6,468 | 7,880 |
| 未収収益 | 1,768 | 2,072 |
| 関係会社短期貸付金 | 128,165 | 173,028 |
| その他の流動資産 | 10,373 | 10,710 |
| 貸倒引当金 | 3,293 | 2,358 |
| 流動資産合計 | 1,902,968 | 1,890,622 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 賃貸資産 | | |
| 賃貸資産 | 154,051 | 139,760 |
| 賃貸資産前渡金 | 4,561 | 3,782 |
| 賃貸資産合計 | 158,612 | 143,542 |
| 社用資産 | | |
| 建物（純額） | 237 | 207 |
| 器具備品（純額） | 224 | 234 |
| 土地 | 0 | - |
| リース賃借資産（純額） | 70 | 75 |
| 社用資産合計 | 532 | 517 |
| 有形固定資産合計 | 159,144 | 144,059 |
| 無形固定資産 | | |
| 賃貸資産 | | |
| 賃貸資産 | 258 | 354 |
| 賃貸資産合計 | 258 | 354 |
| その他の無形固定資産 | | |
| 商標権 | 23 | 17 |
| ソフトウェア | 978 | 1,297 |
| その他 | 32 | 32 |
| その他の無形固定資産合計 | 1,034 | 1,347 |
| 無形固定資産合計 | 1,292 | 1,701 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2 41,928 | 2 59,009 |
| 関係会社株式 | 2 141,918 | 2 220,734 |
| その他の関係会社有価証券 | 2 1,923 | 2 7,502 |
| 出資金 | 9 | 9 |
| 関係会社出資金 | 7,229 | 12,733 |
| 関係会社長期貸付金 | 43,204 | 40,195 |
| 破産更生債権等 | 7 425 | 7 179 |
| 長期前払費用 | 2,159 | 2,048 |
| その他の投資 | 4,138 | 4,736 |
| 貸倒引当金 | 211 | 122 |
| 投資その他の資産合計 | 242,726 | 347,026 |
| 固定資産合計 | 403,163 | 492,787 |
| 繰延資産 | | |
| 社債発行費 | 164 | 336 |
| 繰延資産合計 | 164 | 336 |
| 資産合計 | 2,306,297 | 2,383,747 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 2,884 | 8 3,271 |
| 買掛金 | 66,080 | 88,660 |
| 短期借入金 | 173,915 | 163,415 |
| 1年内償還予定の社債 | 66,129 | 67,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 2 196,356 | 2 179,635 |
| コマーシャル・ペーパー | 600,100 | 629,900 |
| 債権流動化に伴う支払債務 | 2 51,100 | 2 52,000 |
| リース債務 | 4,011 | 1,374 |
| 未払金 | 3,989 | 6,203 |
| 未払費用 | 7,367 | 8,941 |
| 未払法人税等 | 6,067 | 6,611 |
| 賃貸料等前受金 | 674 | 563 |
| 預り金 | 11,545 | 6,952 |
| 前受収益 | 4,324 | 5,476 |
| 割賦未実現利益 | 3,492 | 2,769 |
| 賞与引当金 | 1,699 | 1,736 |
| 役員賞与引当金 | 96 | 104 |
| その他の流動負債 | 702 | 2,418 |
| 流動負債合計 | 1,200,537 | 1,227,034 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 固定負債 | | |
| 社債 | 155,532 | 182,742 |
| 長期借入金 | 2 579,378 | 2 580,606 |
| リース債務 | 6,758 | 2,928 |
| 繰延税金負債 | 3,174 | 5,019 |
| 退職給付引当金 | 764 | 760 |
| 資産除去債務 | 1,614 | 2,323 |
| 受取保証金 | 23,049 | 22,295 |
| その他の固定負債 | 70,786 | 72,021 |
| 固定負債合計 | 841,058 | 868,697 |
| 負債合計 | 2,041,596 | 2,095,732 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 34,231 | 34,231 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 5,537 | 5,537 |
| その他資本剰余金 | 4 | 12 |
| 資本剰余金合計 | 5,542 | 5,550 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 3,019 | 3,019 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | 167,100 | 185,100 |
| 繰越利益剰余金 | 40,936 | 43,313 |
| 利益剰余金合計 | 211,056 | 231,433 |
| 自己株式 | 2,757 | 2,682 |
| 株主資本合計 | 248,071 | 268,533 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,646 | 17,724 |
| 繰延ヘッジ損益 | 39 | 560 |
| 評価・換算差額等合計 | 15,686 | 18,285 |
| 新株予約権 | 943 | 1,196 |
| 純資産合計 | 264,700 | 288,015 |
| 負債純資産合計 | 2,306,297 | 2,383,747 |

【損益計算書】

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日) |
|-------------------|---|---|
| 売上高 | | |
| リース売上高 | 1 389,386 | 1 406,364 |
| 割賦売上高 | 58,414 | 40,821 |
| 営業貸付収益 | 17,468 | 20,279 |
| その他の売上高 | 2 14,896 | 2 15,393 |
| 売上高合計 | 480,165 | 482,859 |
| 売上原価 | | |
| リース原価 | 3 352,239 | 3 370,367 |
| 割賦原価 | 56,438 | 39,099 |
| 資金原価 | 4 7,545 | 4 9,529 |
| その他の売上原価 | 5 3,277 | 5 3,114 |
| 売上原価合計 | 419,501 | 422,110 |
| 売上総利益 | 60,663 | 60,748 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 従業員給料及び賞与 | 8,284 | 8,271 |
| 賞与引当金繰入額 | 1,699 | 1,736 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 96 | 104 |
| 退職給付費用 | 844 | 884 |
| 福利厚生費 | 1,964 | 2,090 |
| 賃借料 | 1,625 | 1,529 |
| コンピュータ費 | 1,930 | 1,979 |
| 減価償却費 | 774 | 627 |
| 貸倒引当金繰入額 | 1,120 | 1,228 |
| その他 | 5,098 | 4,761 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 23,438 | 20,756 |
| 営業利益 | 37,225 | 39,992 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 6 1,921 | 6 1,851 |
| 受取配当金 | 6 3,475 | 6 4,220 |
| 為替差益 | - | 94 |
| 金融派生商品収益 | 687 | - |
| その他の営業外収益 | 65 | 89 |
| 営業外収益合計 | 6,149 | 6,255 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,062 | 1,099 |
| 金融派生商品費用 | - | 22 |
| 為替差損 | 1,097 | - |
| その他の営業外費用 | 102 | 58 |
| 営業外費用合計 | 2,262 | 1,180 |
| 経常利益 | 41,112 | 45,067 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日) |
|--------------|---|---|
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 607 | 478 |
| その他 | - | 5 |
| 特別利益合計 | 607 | 484 |
| 特別損失 | | |
| 割増退職金 | - | 216 |
| 社名変更費用 | 220 | - |
| 投資有価証券評価損 | 108 | - |
| その他 | 48 | 13 |
| 特別損失合計 | 377 | 230 |
| 税引前当期純利益 | 41,343 | 45,321 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 13,793 | 14,571 |
| 法人税等調整額 | 1,484 | 712 |
| 法人税等合計 | 12,309 | 13,859 |
| 当期純利益 | 29,034 | 31,462 |

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|---------------------|--------|-------|----------|---------|-------|----------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益剰余金 | | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | 利益剰余金合計 |
| | | | | | | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | |
| 当期首残高 | 34,231 | 5,537 | - | 5,537 | 3,019 | 150,100 | 38,612 | 191,732 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | | | | | 17,000 | 17,000 | - |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 9,710 | 9,710 |
| 当期純利益 | | | | | | | 29,034 | 29,034 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | |
| 自己株式の処分 | | | 4 | 4 | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | 4 | 4 | - | 17,000 | 2,323 | 19,323 |
| 当期末残高 | 34,231 | 5,537 | 4 | 5,542 | 3,019 | 167,100 | 40,936 | 211,056 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | 新株予約権 | 純資産合計 |
|---------------------|-------|---------|--------------|---------|------------|-------|---------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 評価・換算差額等合計 | | |
| 当期首残高 | 2,806 | 228,694 | 15,304 | 951 | 14,352 | 716 | 243,763 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | - | | | | | - |
| 剰余金の配当 | | 9,710 | | | | | 9,710 |
| 当期純利益 | | 29,034 | | | | | 29,034 |
| 自己株式の取得 | 2 | 2 | | | | | 2 |
| 自己株式の処分 | 50 | 55 | | | | | 55 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | 342 | 991 | 1,333 | 227 | 1,560 |
| 当期変動額合計 | 48 | 19,376 | 342 | 991 | 1,333 | 227 | 20,937 |
| 当期末残高 | 2,757 | 248,071 | 15,646 | 39 | 15,686 | 943 | 264,700 |

当事業年度(自 平成29年4月1日至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|-----------------------------|--------|-------|--------------|-------------|-------|---------|-------------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 |
| | | 資本準備金 | その他資本 剰余金 | 資本剰余金 合計 | | 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | |
| 当期首残高 | 34,231 | 5,537 | 4 | 5,542 | 3,019 | 167,100 | 40,936 | 211,056 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | | | | | 18,000 | 18,000 | - |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 11,085 | 11,085 |
| 当期純利益 | | | | | | | 31,462 | 31,462 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | |
| 自己株式の処分 | | | 8 | 8 | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額) | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | 8 | 8 | - | 18,000 | 2,376 | 20,376 |
| 当期末残高 | 34,231 | 5,537 | 12 | 5,550 | 3,019 | 185,100 | 43,313 | 231,433 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | 新株予約権 | 純資産合計 |
|-----------------------------|-------|---------|-----------------|---------|----------------|-------|---------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | 其他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 評価・換算差額 等合計 | | |
| 当期首残高 | 2,757 | 248,071 | 15,646 | 39 | 15,686 | 943 | 264,700 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | - | | | | | - |
| 剰余金の配当 | | 11,085 | | | | | 11,085 |
| 当期純利益 | | 31,462 | | | | | 31,462 |
| 自己株式の取得 | 8 | 8 | | | | | 8 |
| 自己株式の処分 | 83 | 92 | | | | | 92 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額) | | | 2,078 | 521 | 2,599 | 253 | 2,852 |
| 当期変動額合計 | 75 | 20,461 | 2,078 | 521 | 2,599 | 253 | 23,314 |
| 当期末残高 | 2,682 | 268,533 | 17,724 | 560 | 18,285 | 1,196 | 288,015 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 賃貸資産

リース期間を償却年数とし、リース期間満了時の賃貸資産の処分見積額を残存価額とする定額法を採用しております。

なお、顧客の事故等のために発生する賃貸資産の処分損失に備えるため、減価償却費を積増して計上しております。

(2) 社用資産

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物が3年～47年、器具備品が3年～20年であります。

(3) その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費は、社債の償還までの期間にわたり利息法により償却しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、為替予約の振当処理の対象となっている外貨建金銭債権債務については、当該為替予約の円貨額に換算しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権（正常先債権、要注意先債権及び要管理先債権）については貸倒実績率により、破産更生債権等（破綻懸念先債権、実質破綻先債権及び破綻先債権）については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

なお、破産更生債権等については、債権額から回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として1,791百万円を債権額から直接減額しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、翌事業年度支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当事業年度末における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年または10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

なお、企業年金基金については、複数事業主制度を採用しており、当該年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。

7. 収益及び費用の計上基準

(1) ファイナンス・リース取引に係る売上高及び売上原価の計上基準

リース料を収受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(2) オペレーティング・リース取引に係る売上高の計上基準

リース契約期間に基づくリース契約上の収受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

(3) 割賦販売取引に係る売上高及び売上原価の計上基準

割賦販売契約実行時に、その債権総額を割賦債権に計上し、割賦販売契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。

なお、支払期日未到来の割賦債権に対応する未経過利益は、割賦未実現利益として繰延処理しております。

(4) 金融費用の計上基準

金融費用は、売上高に対応する金融費用とその他の金融費用を区分計上することとしております。

その配分方法は、総資産を営業取引に基づく資産とその他の資産に区分し、その資産残高を基準として営業資産に対応する金融費用は資金原価として売上原価に、その他の資産に対応する金融費用は支払利息として営業外費用に計上しております。

なお、資金原価は、営業資産にかかる金融費用からこれに対応する預金の受取利息等を控除して計上しております。

8. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジを採用しております。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ、為替予約及び借入金

ヘッジ対象...借入金、割賦債権、営業投資有価証券及び予定取引

(3) ヘッジ方針

資産及び負債から発生する金利及び為替の変動リスクをヘッジし、資産・負債・損益を総合的に管理する目的でデリバティブ取引を利用しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジの有効性を評価しております。

また、外貨建予定取引のヘッジについては、ヘッジ手段とヘッジ対象の金額・期間等の重要な条件が同一であることをもって、ヘッジの有効性を評価しております。

ただし、振当処理によっている為替予約及び特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 営業投資有価証券の会計処理

営業目的の金融収益を得るために所有する有価証券は「営業投資有価証券」として計上し、収益は「売上高」に含めて計上しております。

なお、上記目的で所有する関係会社株式及び関係会社出資金についても、「営業投資有価証券」に含めて計上し、収益は「売上高」に含めて計上しております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(貸借対照表関係)

1 リース・割賦販売契約等に基づく預り手形

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|----------------|-----------------------|-----------------------|
| リース契約に基づく預り手形 | 616百万円 | 520百万円 |
| 割賦販売契約に基づく預り手形 | 5,280百万円 | 3,727百万円 |
| その他の預り手形 | 1,213百万円 | 118百万円 |

2 担保に供している資産及び対応する債務

担保に供している資産

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|----------------|-----------------------|-----------------------|
| リース債権及びリース投資資産 | 56,642百万円 | 57,403百万円 |
| 営業貸付金 | 86百万円 | 360百万円 |
| 営業投資有価証券 | - 百万円 | 735百万円 |
| 投資有価証券 | 20百万円 | 15百万円 |
| 関係会社株式 | 20百万円 | 20百万円 |
| その他の関係会社有価証券 | 21百万円 | 21百万円 |
| 計 | 56,790百万円 | 58,557百万円 |

担保提供資産に対応する債務

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 長期借入金 (1年内返済予定を含む) | 351百万円 | 176百万円 |
| 債権流動化に伴う支払債務 | 51,100百万円 | 52,000百万円 |
| 計 | 51,451百万円 | 52,176百万円 |

3 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対する主なものは次のとおりであります。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|-------|-----------------------|-----------------------|
| 営業貸付金 | 317,372百万円 | 320,878百万円 |

4 当座貸越契約及び貸出コミットメント

(1) 貸手側

貸出コミットメントに係る貸出未実行残高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 45,243百万円 | 43,905百万円 |
| 貸出実行残高 | 10,936百万円 | 16,873百万円 |
| 差引額 | 34,307百万円 | 27,031百万円 |

なお、上記貸出コミットメント契約においては、借入人の資金用途、信用状態等に関する審査を貸出の条件としているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではありません。

(2) 借手側

運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行等57行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 当座貸越契約及び 貸出コミットメントの総額 | 671,202百万円 | 736,431百万円 |
| 借入実行残高 | 173,018百万円 | 162,565百万円 |
| 差引額 | 498,183百万円 | 573,865百万円 |

5 偶発債務

(1) 営業取引として、次のとおり保証しております。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|
| 営業保証額 (保証予約を含む) | 39,345百万円 | 35,940百万円 |

(2) 関連会社の営業取引に対し、次のとおり保証しております。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|------------|-----------------------|-----------------------|
| 統一東京股份有限公司 | 400百万円 | 314百万円 |

(3) 子会社の金利スワップ取引等に対し、次のとおり保証(保証予約を含む)しております。(想定元本等)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| 東瑞盛世利融資租賃有限公司 | - 百万円 | 8,572百万円 |
| FILEFISH MARINE S.A. | 2,908百万円 | 2,908百万円 |
| Tokyo Century (USA) Inc. | 3,129百万円 | 2,615百万円 |
| 東瑞盛世利(上海)商業保理有限公司 | - 百万円 | 1,690百万円 |
| TISCO Tokyo Leasing Co.,Ltd. | 4,043百万円 | 1,467百万円 |
| PT.Century Tokyo Leasing Indonesia | 528百万円 | 484百万円 |
| BARRACUDA MARINE S.A. | 572百万円 | 351百万円 |
| Tokyo Century Capital (Malaysia) Sdn. Bhd. | 1,079百万円 | - 百万円 |
| ティーエルシーフリージア(有) | 729百万円 | - 百万円 |
| Tokyo Century Leasing (Singapore) Pte. Ltd. | 127百万円 | - 百万円 |
| 計 | 13,118百万円 | 18,090百万円 |

(4) 子会社及び従業員の金融機関からの借入等に対し、次のとおり保証(保証予約を含む)しております。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| Tokyo Century Leasing (Singapore) Pte. Ltd. | 63,384百万円 | 69,725百万円 |
| Tokyo Century (USA) Inc. | 61,292百万円 | 57,675百万円 |
| TISCO Tokyo Leasing Co.,Ltd. | 28,410百万円 | 19,914百万円 |
| 東瑞盛世利融資租賃有限公司 | 9,701百万円 | 19,739百万円 |
| 東瑞盛世利(上海)商業保理有限公司 | 10,012百万円 | 19,496百万円 |
| A-Tソリューション(有) | 9,642百万円 | 9,060百万円 |
| DTR 1 特定目的会社 | - 百万円 | 8,852百万円 |
| A-Tリンク(株) | 8,795百万円 | 8,702百万円 |
| TC Car Solutions (Thailand) Co.,Ltd. | - 百万円 | 8,677百万円 |
| PT.Century Tokyo Leasing Indonesia | 12,239百万円 | 8,657百万円 |
| Tokyo Century Capital (Malaysia) Sdn. Bhd. | 6,362百万円 | 6,981百万円 |
| CSI Leasing, Inc. | 2,244百万円 | 1,594百万円 |
| Tokyo Leasing (Hong Kong) Ltd. | 5,603百万円 | 1,218百万円 |
| CSI Leasing Europe Ltd. | 897百万円 | 1,185百万円 |
| TC Business Capital (Thailand) Co.,Ltd. | - 百万円 | 988百万円 |
| CSI Leasing Malaysia Sdn. Bhd. | - 百万円 | 413百万円 |
| BARRACUDA MARINE S.A. | 572百万円 | 351百万円 |
| CSI Latina Arrendamento Mercantil S.A. | - 百万円 | 313百万円 |
| CSI Renting Peru, S.A.C. | - 百万円 | 205百万円 |
| 従業員(住宅資金) | 88百万円 | 76百万円 |
| その他 | 144百万円 | 127百万円 |
| 計 | 219,391百万円 | 243,956百万円 |

6 買付予約高

リース契約及び割賦販売契約の成約による購入資産の買付予約高は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| | 147,717百万円 | 139,902百万円 |

7 特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令に基づく貸付金(営業貸付金、その他の営業貸付債権、関係会社短期貸付金及び関係会社長期貸付金)に係る不良債権の状況

「特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令」(平成11年5月19日 総理府・大蔵省令第32号)第9条に基づく不良債権の状況は次のとおりであります。

なお、投資その他の資産の「破産更生債権等」に計上している貸付金を含んでおります。

(1) 破綻先債権

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| | 1百万円 | 0百万円 |

破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由が生じているものであります。

(2) 延滞債権

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| | 33百万円 | -百万円 |

延滞債権とは、未収利息不計上貸付金のうち、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したものの以外のものであります。

(3) 3ヶ月以上延滞債権

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| | -百万円 | -百万円 |

3ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上遅延している貸付金のうち、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

(4) 貸出条件緩和債権

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|--|-----------------------|-----------------------|
| | 20,405百万円 | 20,548百万円 |

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。

8 事業年度末日満期手形の処理

事業年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|------|-----------------------|-----------------------|
| 受取手形 | -百万円 | 0百万円 |
| 支払手形 | -百万円 | 854百万円 |

(損益計算書関係)

1 リース売上高の内訳は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| ファイナンス・リース料収入 | 292,845百万円 | 278,409百万円 |
| オペレーティング・リース料 収入 | 30,690百万円 | 30,920百万円 |
| 貸貸資産売却売上及び 解約損害金 | 48,522百万円 | 73,566百万円 |
| その他のリース料収入 | 17,326百万円 | 23,467百万円 |
| 計 | 389,386百万円 | 406,364百万円 |

2 その他の売上高は、営業投資有価証券にかかる受取利息及び受取配当金、売買取引売上高等であります。

3 リース原価の内訳は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-------------------------------|--|--|
| ファイナンス・リース原価 | 291,280百万円 | 292,303百万円 |
| オペレーティング・リース資産 減価償却費及び処分原価 | 36,554百万円 | 47,654百万円 |
| 固定資産税等諸税 | 6,688百万円 | 6,726百万円 |
| 保険料 | 1,005百万円 | 1,036百万円 |
| その他のリース原価 | 16,710百万円 | 22,646百万円 |
| 計 | 352,239百万円 | 370,367百万円 |

4 資金原価は、「重要な会計方針」7の(4)に記載している金融費用であり、その内訳は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|------|--|--|
| 支払利息 | 7,550百万円 | 9,534百万円 |
| 受取利息 | 5百万円 | 5百万円 |
| 計 | 7,545百万円 | 9,529百万円 |

5 その他の売上原価は、営業投資有価証券取引に伴う損失及び売買取引仕入高等であります。

6 関係会社との取引にかかるものが次のとおり含まれております。

| | 前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-------|--|--|
| 受取利息 | 1,866百万円 | 1,783百万円 |
| 受取配当金 | 2,850百万円 | 3,449百万円 |

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式等(貸借対照表計上額 子会社株式129,228百万円、関連会社株式12,689百万円、その他の関係会社有価証券1,923百万円、関係会社出資金7,229百万円、営業投資有価証券に含まれる子会社株式及び関連会社株式等56,633百万円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成30年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式等(貸借対照表計上額 子会社株式208,044百万円、関連会社株式12,689百万円、その他の関係会社有価証券7,502百万円、関係会社出資金12,733百万円、営業投資有価証券に含まれる子会社株式及び関連会社株式等56,855百万円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当事業年度 (平成30年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| リース取引に係る申告調整額 | 2,639百万円 | 3,130百万円 |
| 未払費用 | 1,432百万円 | 1,896百万円 |
| 貸倒引当金 | 1,885百万円 | 1,149百万円 |
| 固定資産の償却限度超過額 | 851百万円 | 888百万円 |
| 投資有価証券等評価損 | 900百万円 | 844百万円 |
| 賞与引当金 | 525百万円 | 531百万円 |
| 退職給付引当金 | 234百万円 | 232百万円 |
| 固定資産評価損 | 56百万円 | 47百万円 |
| その他 | 3,567百万円 | 4,790百万円 |
| 繰延税金資産小計 | 12,092百万円 | 13,511百万円 |
| 評価性引当額 | - 百万円 | - 百万円 |
| 繰延税金資産合計 | 12,092百万円 | 13,511百万円 |
| 繰延税金負債 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 6,470百万円 | 7,407百万円 |
| 譲渡損益調整資産 | 1,446百万円 | 1,998百万円 |
| その他 | 880百万円 | 1,245百万円 |
| 繰延税金負債合計 | 8,797百万円 | 10,651百万円 |
| 繰延税金資産の純額 | 3,294百万円 | 2,860百万円 |

(表示方法の変更)

前事業年度において、繰延税金負債の「その他」に含めていた「譲渡損益調整資産」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の注記の組替えを行なっています。

この結果、前事業年度の「その他」に表示していた 2,327百万円は、「譲渡損益調整資産」 1,446万円、「その他」 880百万円に組み替えております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度(平成29年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率30.9%の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

当事業年度(平成30年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率30.9%の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(社債の発行)

当社は平成30年4月13日付で第22回・第23回・第24回無担保社債(社債間限定同順位特約付)を発行いたしました。その概要は次のとおりであります。

| | 第22回債 | 第23回債 | 第24回債 |
|-------|---|-----------------|-----------------|
| 発行総額 | 金20,000百万円 | 金20,000百万円 | 金10,000百万円 |
| 発行価格 | 各社債の金額100円につき金100円 | | |
| 利率 | 年0.06% | 年0.20% | 年0.32% |
| 償還金額 | 各社債の金額100円につき金100円 | | |
| 償還期限 | 平成33年4月13日(3年債) | 平成35年4月13日(5年債) | 平成37年4月11日(7年債) |
| 償還方法 | 満期一括償還 | | |
| 払込期日 | 平成30年4月13日 | | |
| 担保 | 本社債には担保及び保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はありません。 | | |
| 資金の用途 | 短期社債の償還資金 | | |

(取得による企業結合)

当社は、平成30年4月27日付で神鋼不動産株式会社(以下「神鋼不動産」)の発行済株式総数の70%を取得する株式譲渡契約を締結しました。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称、事業の内容及び規模

被取得企業の名称 神鋼不動産(本社:兵庫県神戸市)

事業の内容 不動産開発・分譲、賃貸、仲介、リフォーム事業等

規模(平成29年3月31日)連結純資産 51,373百万円

連結総資産 114,153百万円

株式取得の理由

当社のスペシャルティ事業分野は、第三次中期経営計画において、「ファイナンス」と「事業」の融合による新たな価値創造をテーマに掲げており、様々なプロダクツの専門性を追求することにより、新たな成長領域の創出に取り組みながら、優良なパートナーとともに、ダイナミックに事業に挑戦してまいりました。

不動産分野は、航空機、船舶、環境・エネルギーとならぶスペシャルティ事業分野における4つの柱の一つであり、企業結合を通じて、神鋼不動産が有する総合不動産会社としての機能・プラットフォームを活用し、当社と力を融合することにより、開発から保有・管理、出口までの各ライフステージにおける事業機会の拡大や出口戦略の多様化など、シナジー効果の発揮を含めてさらなる発展を目指します。

企業結合日

平成30年7月1日(予定)

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

名称の変更はありません。

取得する株式数、持分比率及び議決権比率

取得する株式の数(持分比率) 40,370株(70.0%)、議決権の数(議決権比率) 40,370個(70.0%)

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得する予定のためです。

(2) 被取得企業の取得の対価及び資金の調達方法

取得の対価 現金 692億円(概算)

取得の対価は、企業結合日を基準として株式譲渡契約所定の方法により後日調整される予定です。

取得に要する資金は、新規借入等により調達する予定です。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 4億円(概算)

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

| 銘柄 | | 株式数 (株) | 貸借対照表計上額 (百万円) | |
|--------------|-------------|---|-------------------|--------|
| 営業投資 有価証券 | その他 有価証券 | ユー・エム・シー・エレクトロニクス(株) | 1,721,800 | 4,574 |
| | | Spiber(株) | 1,562,500 | 2,500 |
| | | UNITED OVERSEAS BANK LIMITED | 279,000 | 621 |
| | | (株)Q Dレーザ 優先株式 | 73,572 | 500 |
| | | MALAYAN BANKING BERHAD | 1,055,536 | 308 |
| | | SA Mobility Holdings, Inc. | 949,596 | 252 |
| | | THE SIAM COMMERCIAL BANK PUBLIC COMPANY LIMITED | 393,400 | 191 |
| | | WHILL, Inc. | 836,035 | 184 |
| | | (株)ダイキアクシス | 106,800 | 172 |
| | | (株)サイバーコア | 550 | 137 |
| | | その他(9銘柄) | 291,615 | 461 |
| 投資有価証券 | その他 有価証券 | PT Bumi Cakrawala Perkasa | 6,530 | 11,927 |
| | | 川崎重工業(株) | 1,344,900 | 4,626 |
| | | 総合メディカル(株) | 1,444,000 | 4,368 |
| | | 日本土地建物(株) | 201,560 | 3,612 |
| | | (株)ダイフク | 500,341 | 3,187 |
| | | 月島機械(株) | 1,757,000 | 2,642 |
| | | (株)オリエントコーポレーション | 15,362,500 | 2,565 |
| | | イオン(株) | 1,335,704 | 2,537 |
| | | 富士ソフト(株) | 588,800 | 2,508 |
| | | いすゞ自動車(株) | 1,507,000 | 2,459 |
| | | 川崎汽船(株) | 939,300 | 2,342 |
| | | (株)ニチリン | 475,618 | 1,341 |
| | | (株)みずほフィナンシャルグループ | 6,277,278 | 1,201 |
| | | (株)ユーグレナ | 1,000,000 | 1,026 |
| | | 明治ホールディングス(株) | 111,852 | 906 |
| | | NISSHA(株) | 231,000 | 659 |
| | | 永旺(香港)百貨有限公司 | 10,070,000 | 631 |
| | | ケイ・エス・オー(株) | 16,000 | 604 |
| | | (株)伊藤園 | 133,000 | 555 |
| | | (株)ヤクルト本社 | 63,859 | 502 |
| | | オリンパス(株) | 115,000 | 464 |
| | | ビーブラッツ(株) | 160,000 | 402 |
| | | (株)ゴールドウイン | 58,480 | 373 |
| | | (株)テクノ菱和 | 440,000 | 362 |
| 新電元工業(株) | 50,000 | 351 | | |
| その他(127銘柄) | 43,651,999 | 6,849 | | |
| 計 | | 95,112,125 | 68,914 | |

(注) 総合メディカル(株)及び(株)ゴールドウインの株式数については、平成30年4月1日付をもって普通株式1株につき2株の割合で株式分割しており、分割後の株式数で記載しております。

【債券】

| 銘柄 | | 券面総額 (百万円) | 貸借対照表計上額 (百万円) | |
|--------------|-------------|---|-------------------|-------|
| 営業投資 有価証券 | その他 有価証券 | ソフトバンク株式会社 第1回無担保社債（劣後特約付） | 5,000 | 5,146 |
| | | ヒラツカ特定目的会社 | 3,000 | 2,995 |
| | | ㈱みずほフィナンシャルグループ 第1回任意償還条項付無担保永久 社債 | 2,000 | 2,092 |
| | | イオン株式会社第4回利払繰延条 項・期限前償還条項付無担保社債 （劣後特約付） | 2,000 | 2,019 |
| | | その他(5銘柄) | 299 | 299 |
| 計 | | 12,299 | 12,553 | |

【その他】

| 種類及び銘柄名 | | 投資口数等 (口) | 貸借対照表計上額 (百万円) | |
|--------------|-------------|--------------------------------------|-------------------|--------|
| 営業投資 有価証券 | その他 有価証券 | (不動産投資信託) | | |
| | | ジャパンリアルエステイト投資法 人 | 11,320 | 6,237 |
| | | D & F ロジスティクス投資法人 | 300 | 3,532 |
| | | 日本ビルファンド投資法人 | 4,694 | 2,760 |
| | | イオンリート投資法人 | 20,000 | 2,246 |
| | | 日本オープンエンド不動産投資法 人 | 112 | 1,287 |
| | | 三井不動産プライベートリート投 資法人 | 1,000 | 1,231 |
| | | NTT都市開発・プライベート リート投資法人 | 1,100 | 1,186 |
| | | 日本プロロジスリート投資法人 | 5,033 | 1,152 |
| | | 野村不動産プライベート投資法人 | 8 | 874 |
| | | 三菱地所物流リート投資法人 | 3,070 | 805 |
| | | 日本土地建物プライベートリート 投資法人 | 662 | 716 |
| | | (信託受益権) | | |
| | | S C L Oシリーズ2017-1 受益権 | - | 3,140 |
| | | LATAM Pass Through Trust 2015- 1C | - | 3,020 |
| | | 売掛債権信託劣後受益権 | - | 1,645 |
| | | その他(1銘柄) | - | 41 |
| | | (投資事業有限責任組合等への出資) | | |
| | | (有)ファースト・ユー | - | 17,231 |
| | | 収益分配請求権4号案件 | - | 5,000 |
| | | 収益分配請求権3号案件 | - | 5,000 |
| | | 収益分配請求権1号案件 | - | 4,862 |
| 合同会社パサニア | - | 4,538 | | |

| 種類及び銘柄名 | | 投資口数等 (口) | 貸借対照表計上額 (百万円) |
|--------------|-------------|--|-------------------|
| 営業投資 有価証券 | その他 有価証券 | The Realty Associates Fund XI UTP, L.P. | - 4,347 |
| | | ICG Investment Fund | - 4,308 |
| | | 収益分配請求権 2 号案件 | - 3,000 |
| | | I D I インフラストラクチャーズ 3 号投資事業有限責任組合 | 300 1,899 |
| | | SPARK SHIP HOLDING S.A. | - 1,882 |
| | | アンカー・オーシャン合同会社 | - 1,449 |
| | | 合同会社晴海インベストメント 1 | - 1,368 |
| | | サーージュ・ソレイユ合同会社 | - 1,228 |
| | | アンカー・キャピタル合同会社 | - 1,197 |
| | | 合同会社ダブルオーセブン | - 1,150 |
| | | 合同会社エヌテイ後楽園 | - 1,065 |
| | | 合同会社ダブルオーシックス | - 1,006 |
| | | 合同会社ダブルオーファイブ | - 1,000 |
| | | 投資事業有限責任組合アドバン テッジパートナーズ 号 | 27 971 |
| | | アンカー・シップ・キャピタル合 同会社 | - 821 |
| | | ROCKEFELLER GROUP U.S. PREMIER OFFICE FUND LP | - 777 |
| | | ASEAN CHINA INVESTMENT FUND III L.P. | - 772 |
| | | 合同会社ダブルオースリー | - 765 |
| | | BTS5リアルエステート販売合同会 社 | - 750 |
| | | トラスト・キャピタル・メザニン 2016 | 1,000 659 |
| | | EUROPA MEZZANINE L.P. | - 651 |
| | | 新守谷マネージメント合同会社 | - 612 |
| | | I D I インフラストラクチャーズ 2 号投資事業有限責任組合 | 100 596 |
| | | (有)ネオパスエフアイエス | - 572 |
| | | A S M 2 合同会社 | - 554 |
| | | 川崎ベイ合同会社 | - 418 |
| | | CMH Growth Fund,L.P. | - 408 |
| | | Greater China F&B Investment Holding LTD | - 371 |
| | | 合同会社ダブルオーフォー | - 365 |
| | | その他(24銘柄) | - 3,540 |
| 計 | | - 105,024 | |

【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類 | 当期首残高 (百万円) | 当期増加額 (百万円) | 当期減少額 (百万円) | 当期末残高 (百万円) | 当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円) | 当期償却額 (百万円) | 差引当期末 残高 (百万円) |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|----------------|----------------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 賃貸資産 | | | | | | | |
| 情報関連機器・ 事務用機器 | 25,371 | 5,071 | 5,775 | 24,667 | 16,522 | 4,481 | 8,144 |
| 産業工作機械 | 36,400 | 5,087 | 2,536 | 38,951 | 22,285 | 3,658 | 16,665 |
| 土木建設機械 | 5,127 | 1,276 | 1,699 | 4,704 | 1,299 | 634 | 3,405 |
| 輸送用機器 | 40,063 | 231 | 11,958 | 28,336 | 5,847 | 1,978 | 22,488 |
| 医療機器 | 1,896 | 395 | 165 | 2,127 | 1,382 | 412 | 745 |
| 商業・サービス業用 機械設備 | 9,020 | 1,253 | 1,704 | 8,570 | 5,955 | 1,082 | 2,614 |
| その他 | 96,793 | 20,474 | 22,718 | 94,549 | 8,854 | 3,852 | 85,695 |
| 小計 | 214,674 | 33,790 | 46,558 | 201,907 | 62,147 | 16,101 | 139,760 |
| 賃貸資産前渡金 | 4,561 | 3,071 | 3,850 | 3,782 | - | - | 3,782 |
| 賃貸資産計 | 219,235 | 36,862 | 50,408 | 205,689 | 62,147 | 16,101 | 143,542 |
| 社用資産 | | | | | | | |
| 建物 | 557 | 19 | 112 | 464 | 256 | 36 | 207 |
| 器具備品 | 785 | 95 | 52 | 828 | 593 | 81 | 234 |
| 土地 | 0 | - | 0 | - | - | - | - |
| リース賃借資産 | 140 | 34 | 38 | 136 | 61 | 29 | 75 |
| 社用資産計 | 1,484 | 149 | 203 | 1,430 | 912 | 148 | 517 |
| 有形固定資産計 | 220,719 | 37,012 | 50,612 | 207,119 | 63,059 | 16,249 | 144,059 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| 賃貸資産 | 870 | 263 | 198 | 935 | 580 | 167 | 354 |
| 商標権 | 58 | - | - | 58 | 41 | 5 | 17 |
| ソフトウェア | 11,917 | 792 | 7 | 12,702 | 11,404 | 473 | 1,297 |
| その他 | 32 | - | - | 32 | - | - | 32 |
| 無形固定資産計 | 12,879 | 1,056 | 206 | 13,728 | 12,027 | 646 | 1,701 |
| 長期前払費用 | 28 | 1 | - | 29 | 28 | 2 | 1 |
| 繰延資産 | | | | | | | |
| 社債発行費 | 224 | 278 | - | 502 | 165 | 106 | 336 |
| 繰延資産計 | 224 | 278 | - | 502 | 165 | 106 | 336 |

(注) 1. 「当期増加額」の主な内容は次のとおりであります。

オペレーティング・リース取引による新規賃貸資産の取得額及び所有権移転外ファイナンス・リース取引が再リース取引となったことに伴うリース投資資産からの振替額であります。

2. 「当期減少額」の主な内容は次のとおりであります。

リース期間の満了及び中途解約による資産の処分等によるものであります。

3. 長期前払費用は、貸借対照表の「長期前払費用」のうち、法人税法に規定する償却対象資産のみを記載しており、償却方法は同法の規定に基づく定額法によっております。

【引当金明細表】

| 区分 | 当期首残高 (百万円) | 当期増加額 (百万円) | 当期減少額 (目的使用) (百万円) | 当期減少額 (その他) (百万円) | 当期末残高 (百万円) |
|---------|----------------|----------------|--------------------------|-------------------------|----------------|
| 貸倒引当金 | 3,505 | 2,580 | - | 3,604 | 2,480 |
| 賞与引当金 | 1,699 | 1,736 | 1,699 | - | 1,736 |
| 役員賞与引当金 | 96 | 104 | 96 | - | 104 |

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替処理及び債権回収による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|----------------|--|
| 事業年度 | 4月1日から3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月中 |
| 基準日 | 3月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日 3月31日 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 単元未満株式の買取り・売渡し | |
| 取扱場所 | (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 株主名簿管理人 | (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| 取次所 | |
| 買取・売渡手数料 | 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額 |
| 公告掲載方法 | 当社の公告方法は電子公告とする。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社ホームページ(http://www.tokyocentury.co.jp)に掲載しております。 |
| 株主に対する特典 | 株主優待制度 1. 対象株主 毎年3月末日の最終株主名簿に記録された1単元(100株)以上保有の株主 2. 優待内容 (1)「オリジナル・クオカード」を以下の基準により贈呈いたします。 所有株式数 100株以上1,000株未満 一律2,000円分 所有株式数 1,000株以上3,000株未満 一律4,000円分 (保有期間2年以上の場合 一律6,000円分) 所有株式数 3,000株以上 一律6,000円分 (保有期間2年以上の場合 一律8,000円分) (2)「ニッポンレンタカーご利用優待券」を一律3,000円分贈呈いたします。 |

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第48期)(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)平成29年6月23日 関東財務局長に提出

(2) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

平成29年5月22日 関東財務局長に提出

事業年度(第45期)(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。

平成29年5月22日 関東財務局長に提出

事業年度(第46期)(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。

平成29年5月22日 関東財務局長に提出

事業年度(第47期)(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。

(3) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月23日 関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

(第49期第1四半期)(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)平成29年8月4日 関東財務局長に提出

(第49期第2四半期)(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)平成29年11月6日 関東財務局長に提出

(第49期第3四半期)(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)平成30年2月5日 関東財務局長に提出

(5) 臨時報告書

平成29年6月26日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。

平成29年9月12日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2(ストックオプションとしての新株予約権の発行)に基づく臨時報告書であります。

(6) 臨時報告書の訂正報告書

平成29年9月27日 関東財務局長に提出

平成29年9月12日提出の臨時報告書(ストックオプションとしての新株予約権の発行)に係る訂正報告書であります。

(7) 発行登録書及びその添付書類

平成30年2月6日 関東財務局長に提出

(8) 発行登録追補書類及びその添付書類

平成30年4月6日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月22日

東京センチュリー株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 森 | 重 | 俊 | 寛 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 石 | 川 | 琢 | 也 |

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京センチュリー株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京センチュリー株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東京センチュリー株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、東京センチュリー株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月22日

東京センチュリー株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 重 俊 寛

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 川 琢 也

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京センチュリー株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第49期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京センチュリー株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。